

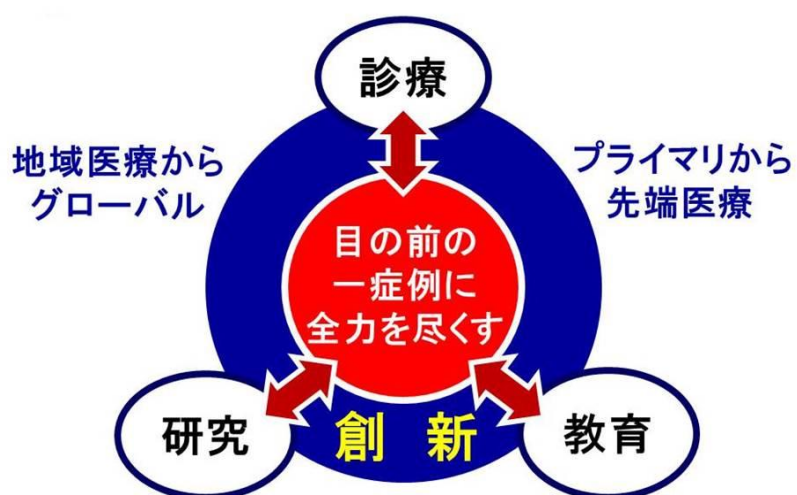
自治医科大学内科学講座 循環器内科学部門 2025年年報



自治医科大学
内科学講座循環器内科学部門

目 次 2025 年

1. 荏尾七臣主任教授挨拶	P5
2. 医局の現況 2025	P9
・ 原田顕治教授（2025 年度医局長）	
・ 過去 5 年間の診療実績	
3. スタッフの紹介	P14
・ 入局のご挨拶（島田達弥、丸山涼太、光山千智）	
・ 各分野からの報告＜2025～2026 年＞	
虚血性心疾患・心臓弁膜症カテーテル治療（大場祐輔）	
不整脈治療（今井 靖）	
心不全治療（小森孝洋、原田顕治）	
高血圧治療（星出 聡）	
留学報告（成田圭佑）	
4. 診療実績	P50
5. 研究業績	P54
・ (A) 原著論文	
・ (B) 学会発表	
「国内学会・国際学会」	
「座長・コメンテーター・ディスカッサント」	
「講演会・研究会」	
・ (C) 著書・総説／医学雑誌編集／テレビ放送等	
・ (D) その他	
受賞／研究助成／教室内カンファレンス／合同カンファレンス	
6. 学生教育	P119
7. 博士課程修了報告（渡邊裕昭）	P124
8. 論文・症例報告	P126
9. 1 年間を振り返って	P133



Mission 2017.4.1

【自治医科大学内科学講座 循環器内科学部門】

< ホームページ >

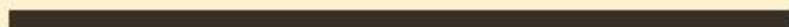
<https://www.jichi.ac.jp/usr/card/index.html>

< Facebook >

<https://www.facebook.com/junkan.jichi>



1. 教授挨撈





荻尾七臣教授挨拶

「変革から発展へ」—2025 年度の診療 ・教育・研究活動のご報告

自治医科大学内科学講座主任教授
循環器内科学部門教授 荻尾七臣

2025 年度、自治医科大学循環器内科は、前年度に着手した働き方改革と診療体制の見直しを土台に、「変革から発展へ」の歩みを着実に進めてまいりました。病棟・集中治療領域では、チームで患者情報を共有しながら、より機動的で継続性のある診療体制の定着を図り、日常診療の質と持続性の両立に取り組んでいます。医師一人ひとりが限られた時間の中で最大限の力を発揮し、組織として支え合う文化を育ててきたことは、当科にとって大きな前進であったと考えています。

私たちが最も大切にしているのは、自治医科大学の伝統である「目の前の一症例に全力を尽くす」という基本精神です。この姿勢のもと、虚血性心疾患、心不全、弁膜症、不整脈、大動脈疾患、肺血栓塞栓症など、多岐にわたる循環器疾患に対し、総合医的視点を持って診療にあたってまいりました。2025 年度は、心カテーテル・SHD 治療チームの持続的発展に加え、CCU・ICU・HCU の診療強化、PFA の定着など、重症例・専門治療の両面で診療力の底上げを進め、患者さん一人ひとりにとって最適な医療を追求してきました。

教育面では、「総合的視点を持つ循環器専門医」の育成を引き続き中核に据えています。各医師が専門領域を深めながら、その知見をカンファレンスや日常診療の場で共有し、組織全体として学び合う体制を整えてきました。レジデント・若手医師に対しては、症例の丁寧な検討と学会発表・論文化を通じて、臨床力と学術的視点の双方を磨く機会を積極的に提供しています。学位取得も含めたキャリア形成を支援し、全員で成長し合える文化をさらに育ててまいります。

研究においては、「**医学は記録に残すことで発展してきた**」という原点を大切にし、症例報告から原著論文まで、日々の診療から生まれる問いを着実に形にしてきました。特に、Digital Hypertension 研究開発拠点、最先端循環モニタリング研究開発拠点、AI バイオマーカー情報研究開発拠点（ABC）を基盤として、ウェアラブル血圧計、ICT 情報連結システム、AI を用いたデータサイエンス、アプリ血圧管理システムなどを活用した世界最先端の新しい高血圧学・循環器学の構築を推進しています。

また、自治医大地域医療臨床研究ネットワークやアジア家庭血圧研究拠点など、地域医療からグローバルへとつながる研究基盤も着実に広がっています。日本高血圧学会と Hypertension Research の相乗効果のもと、国際高血圧学会（International Society of Hypertension）との連携、アジア高血圧管理治療ガイドラインを見据えた学術的情報発信と社会実装を進め、自治医大ならではの地域性と国際性を兼ね備えた学術展開をさらに加速させていきたいと考えています。

大学医学部に求められる役割は、診療・教育・研究の三本柱にとどまりません。病院経営、地域医療への貢献、そして次世代育成までを見据えながら、医局員一人ひとりが周囲に責任を持ち、安心・安全な環境の中で力を発揮できる組織づくりを進めることが重要です。当教室が掲げる「**創新**」の精神と、「**人の力は、周辺環境**」という実感を共有しながら、それぞれが自らの持ち場で新たな価値を生み出す一年にしてまいります。

自治医科大学循環器内科は、これからも一丸となって前進してまいります。今後とも、皆さまの一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026 年 9 月吉日

＜2026 年度日本高血圧学会総会のご案内＞

「デジタル時代の時空間ネットワーク高血圧学」をテーマに、宇都宮で日本高血圧学会総会を主宰します。皆様の御参集をお待ちしています。



第48回 The 48th Annual Scientific Meeting
of the Japanese Society of Hypertension

日本高血圧学会総会

2026年 10月10日(土) ▶ 12日(月・祝)

会場 ライトキューブ宇都宮 **会長** 荻尾 七臣 自治医科大学内科学講座
循環器内科学部門 教授

<https://www.congre.co.jp/48jsh2026/>

新時代の
ネットワーク高血圧学

2. 医局の現況2025

医局の現況

「2025 年を振り返って」



自治医科大学内科学講座 循環器内科学部門

2025 年度 医局長 原田 顕治

2025 年は、社会全体として新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、日常を取り戻す一年となりました。病院においても、診療や教育体制は従来の姿を取り戻しつつあります。しかしながら、昨今の世界情勢に端を発する記録的な物価高騰や医療資材の価格上昇は、病院経営に深刻な影響を及ぼしています。依然として厳しい経営環境が続く中、当医局においては、コスト意識を共有しながらも医療の質を落とすことなく、地域医療への貢献と次世代の育成に励んで参りました。

人事

2025 年度の医局人事を振り返りますと、新たな戦力の加入と、学外での研鑽を経て戻られた先生方の合流により、非常に活気に満ちた布陣となりました。まず **2025 年 4 月**には、縣侑子先生、相馬瞬先生の 2 名が新たに入局いたしました。両名は当院にて初期臨床研修を修了した極めて優秀な人材であり、日頃からの医局員による熱心な指導や、学会活動を通じた積極的なリクルート活動が実を結んだ結果といえます。また、2023 年 4 月より国内留学に出られていた齋藤俊祐先生（大阪大学重症心不全・移植専攻医育成プログラム）と、小林久也先生（岐阜ハートセンター）の 2 名が、それぞれの拠点で研鑽を積み、当科へと復帰されました。学外の高度な医療現場で一回りも二回りも逞しく成長された両名の帰朝は、当医局の診療レベルをさらに引き上げる大きな力となっています。さらに、**自治医科大学**の義務年限を全うされた福田太郎先生が、本年度より当科医員として新たなスタートを切られました。こうした多様な背景を持つ若手・中堅医師が一堂に会し、一丸となってさらなる発展を目指す所存です。

医局体制と働き方改革

本年度も、毎週水曜日の「昼の医局会」はハイブリッド形式を継続いたしました。最新トピックの共有やガイドライン改訂の解説、学会予演など、対面とオンラインの利点を活かした活発な議論が展開されています。また、同日朝の「Complex Case Conference (C.C.C.)」も定着しており、ここでの緻密なディスカッションが多く、学会発表や論文執筆の契機となっております。また、2024年度より本格運用が開始された「医師の働き方改革」への対応として、当科では病棟体制の抜本的な見直しを断行いたしました。病棟医長の大場祐輔先生を中心に、従来の主治医制からチーム制への完全移行を推進。さらに、より柔軟な運用を可能にするため、3つの大グループおよび不整脈チーム、そしてCCUチームへの再編も定着してきました。この新体制により、急性期管理から慢性期医療まで、タスクシェアリングを通じた個々の負担軽減と診療の質の維持を両立する「柔軟な勤務体制」が軌道に乗りつつあります。当科では以前より、女性医師の産休・育休はもとより、男性医師の育休取得や時短勤務の活用にも積極的に取り組んでおり、こうした「時代に即した多様な働き方」を尊重する教室文化は、激変する医療環境下において、医局員のウェルビーイングを支える強固な基盤となっています。

診療活動

2025年度の診療実績につきましては、心臓カテーテル検査・治療、不整脈アブレーション、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）などの主要な施行件数は、前年と同等の高い水準を維持いたしました。特筆すべきは、本年5月に行われたICUとCCUの統合です。これにより、重症患者に対する集中治療体制がより専門的かつ強固なものへと再編されました。この体制変更に伴い、当科が受け入れる患者層の重症化が加速しており、IABP、ECMO、さらにはImpellaといった補助循環装置の使用件数は年々増加傾向にあります。こうした極めてリスクの高い症例に対し、新設されたCCUチームが昼夜を問わず尽力し、多くの重症患者の救命を実現していることは、当科の大きな誇りです。また、2024年5月より導入いたしました経皮的僧帽弁クリップ術（MitraClip）も、順調に症例を重ね、低侵襲治療の新たな選択肢として定着しつつあります。当科は常に最新の知見を取り入れ、病院全体の診療をリードすべく、着実に歩みを進めております。

教育活動

学生教育においては、対面講義およびBSLを全面的に実施いたしました。BSL終了

後の学生アンケートでは、実習内容の充実度や医局員による熱心な指導に対して極めて高い評価をいただいております。次世代の医師を志す学生たちの大きな励みとなっています。レジデント教育にも一層の注力をしております。従来の教授回診の形式を刷新し、現在はローテート中のレジデントが代表症例をプレゼンテーションし、苅尾教授を中心に上級医とともにディスカッションを行うスタイルを定着させました。この双方向性の高い回診形式により、臨床知識の確実な定着が図られています。医師の働き方改革に伴う時間的制約は厳しさを増しておりますが、当科の教育に対する情熱が揺らぐことはありません。いかなる環境下にあっても、優れた臨床医・研究者を育成するという使命を胸に、今後も質の高い教育体制を維持・発展させていく所存です。

研究活動

研究活動においては、当科の強みであるバイオマーカー研究や WISDOM 研究を継続し、着実な成果を挙げております。また、循環器疾患レジストリ研究「CLIDAS 研究」にも参画し、甲谷先生や興梠先生を中心として、全国規模のデータベースからエビデンスの発信を精力的に行っております。学会の開催形態は対面開催へと完全に移行いたしました。国内の地方会においては、若手医師に多数の発表機会を提供し、質の高い個別指導を徹底しております。また、2025 年にニューオリンズで開催された米国心臓協会学術集会（AHA 2025）には若手医師も同行し、世界の最前線に触れる貴重な刺激となりました。今年度も多数の英語論文が国際的な学術誌に掲載されており、日々の臨床から生まれた問いが、研究成果として着実に結実しております。

まとめ

引き続き、医局員一丸となって最先端医療の提供、救急医療体制の強化、そして栃木県内医療機関とのさらなる連携深化に邁進してまいります。物価高騰や働き方改革といった逆風下にあっても、私たちは歩みを止めることなく、臨床・教育・研究の三位一体を追求し、大学病院としての使命を果たす所存です。地域に根差し、かつ研究機関として世界へ向けた質の高い情報発信を実践し続けることで、当医局のさらなる発展と医療の向上に寄与して参ります。

過去5年間の診療実績

入院・外来患者数

	新入院患者数	外来患者数（新来）	外来患者数（再来）
2021年実績	1,847人	1,105人	26,963人
2022年実績	1,845人	1,186人	27,399人
2023年実績	1,750人	1,319人	27,478人
2024年実績	1,902人	1,255人	27,359人
2025年実績	1,937人	1,280人	27,253人

カテーテル検査・治療

	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2025年実績
心臓カテーテル検査	1,699件	1,714件	1,640件	1,749件	1,837件
冠動脈インターベンション数（件数）	496	507	482	470	429
POBA	76	103	103	34	28
Stent留置術	402	400	372	392	317
ローターレーダー	26	17	9	5	24
ダイヤモンドバック	-	19	23	7	7
エキシマレーザー（ELCA）	3	10	14	13	14
下大静脈フィルター（一時留置のみ）	5	4	8	13	8
IVUS/OCT	679	695	658	445/174	360/124
iFR/FFR	130	131	129	127	117
ECMO				39症例	37症例
IMPELLA			11症例	17症例	14症例
経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）	30症例	31症例	38症例	50症例	55症例
経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）				6症例	16症例
カテーテルアブレーション	279症例	293症例	291症例	322症例	369症例
WPW症候群	14	9	10	7	9
房室結節回帰頻拍	29	27	28	23	27
心房粗動	49	35	28	44	56
心房細動	180	193	191	227	274
心室頻拍・心室性期外収縮	32	33	35	24	30
心房頻拍	19	28	20	37	33
末梢動脈疾患のカテーテル治療	47症例	52症例	38症例	64症例	
インターベンション数（病変総数）	53病変	60病変	59病変	69病変	腎動脈：2
大動脈腸骨動脈領域	12病変	22病変	29病変	25病変	下肢動脈：31
大腿膝窩動脈領域	27病変	25病変	17病変	30病変	IVC filter留置：9
下腿領域	8病変	13病変	11病変	7病変	IVC filter抜去：9
腎動脈領域	1病変	4病変	2病変	6病変	
その他	5病変	4病変	7病変	4病変	
ペースメーカー植込み	95	102	116	103	124
新規	65	64	65	59	86
交換	30	38	51	44	38
リード固定		2	0	2	2
リード抜去	9	2	5	9	12
ICD, CRT-D植込み	68	33	58	60	60
新規	39	19	30	26	31
交換	21	14	28	34	29
その他	8	2	6	5	5
リード抜去		2	2	5	

3. スタッフの紹介



(2026 年度：2026.4.1 現在)

教 授	苅尾七臣
教 授	新保昌久(医療の質向上・安全推進センター)
教 授	今井 靖 (薬理学講座臨床薬理学部門)
教 授	星出 聡 (臨床研究センター)
学内教授	原田顕治【医局長】
准 教 授	甲谷友幸 (成人先天性心疾患センター)
講 師	小形幸代【外来医長】
講 師	小森孝洋 (高度治療部)
講 師	渡部智紀
講 師	桂田健一 (薬理学講座臨床薬理学部門)
講 師	上岡正志
講 師	大場祐輔 (心疾患治療部)
講 師	藤原健史 (データサイエンスセンター)
学内講師	石山裕介【病棟医長】
助 教	清水勇人 (冠動脈集中治療部)
特命助教	水野裕之 (最先端循環モニタリング研究開発講座)
助 教	横田彩子
助 教	渡邊裕昭
助 教	小古山由佳子
特命助教	富谷奈穂子 (デジタルハイパーテンション共同研究講座)
病院助教	久保田香菜 (臨床検査医学)
病院助教	鈴木悠介
病院助教	小林久也
病院助教	篠原 肇 (派遣中)
病院助教	成田圭佑 (派遣中)
病院助教	佐藤雅史
病院助教	三玉唯由季
病院助教	齋藤俊祐
病院助教	藤村研太 (派遣中)
病院助教	青山 泰 (臨床検査医学)
臨床助教	鈴木規泰
臨床助教	渡辺直生
臨床助教	加倉井俊也
臨床助教	平田悠翔

臨床助教	和地純佳
臨床助教	蓮見大樹 (ICU)
臨床助教	須田直樹
臨床助教	木下真緒
臨床助教	土屋亨規
臨床助教	小淵雄大 (派遣中)
臨床助教	朝日善治 (派遣中)
臨床助教	岩間春佳 (派遣中)
臨床助教	栗原綾乃 (派遣中)
臨床助教	永嶋貴樹 (派遣中)
臨床助教	弓田馨之 (派遣中)
臨床助教	福田太郎
臨床助教	縣 侑子
臨床助教	相馬 瞬
臨床助教	丸山涼太
臨床助教	島田達弥
臨床助教	プレブスレン ムンフトール(東大大学院研修プログラム)

大学院生	森田愛理
大学院生	安部加那子
大学院生	佐藤智英 (学外社会人大学院生)
大学院生	太田勇輝 (学外社会人大学院生)
大学院生	五所大和 (学外社会人大学院生)

兼務教員

教 授	高橋将文 (炎症・免疫研究部)
教 授	興梠貴英 (医療情報部)
教 授	松村貴由 (心血管・遺伝学研究部)
准 教 授	牧元久樹 (データサイエンスセンター)
准 教 授	桑原政成 (公衆衛生学)

客員教授	島田和幸
客員教授	松尾武文 (兵庫県立淡路病院 名誉院長)
客員教授	土橋卓也 (社会医療法人製鉄記念八幡病院)
客員教授	蜂谷 仁 (土浦協同病院)

客員教授	Bryan Williams (University College London)
客員教授	Sungha Park (Yonsei University College of Medicine)
客員教授	Daichi Shimbo (Columbia University)
客員教授	Richard J McManus (Brighton and Sussex Medical School)

非常勤講師	村田光延
非常勤講師	上野修市
非常勤講師	市田 勝
非常勤講師	去川睦子
非常勤講師	船山 大
非常勤医員	三橋武司
非常勤医員	蜂谷 仁
非常勤医員	宮下 洋
非常勤医員	星出陽子
非常勤医員	佐藤彰洋
非常勤医員	山中祐子
非常勤医員	松本知子
非常勤医員	奥山貴文

研 究 生	井上直也 (鳥取 38 期)
客員研究員	吉田哲郎
客員研究員	志賀利一
客員研究員	桑原光巨
客員研究員	鐘江 宏
客員研究員	西澤匡史 (宮城 20 期)

研究補助員

濱寄春菜	松本祐里	大河原幸恵	野末亮子	諏訪裕美
豊田理香	鈴木友貴子	岩下千英	森本智子	志賀智子
原田紀子	齋藤香織	大関麻子		

2025 年度末退職者

助 教	鳥海進一
病院助教	渡辺貴裕
病院助教	奥山貴文

兼務准教授 澤城大悟
 兼 務 講 師 東邦康智
 非常勤医員 生方 聡
 研 究 生 山下英治
 研 究 生 毛見勇太
 研 究 生 早川 学
 研 究 生 脇 広昂
 研究補助員 横山貴子

認定医・専門医（2026 年 4 月）

日本内科学会認定総合内科専門医	苅尾七臣	他 17 名
日本内科学会認定内科指導医	苅尾七臣	他 27 名
日本内科学会認定内科専門医	鈴木規泰	他 3 名
日本内科学会認定内科医	苅尾七臣	他 27 名
日本循環器学会専門医	苅尾七臣	他 27 名
日本高血圧学会専門医	苅尾七臣	他 5 名
日本心血管インターベンション治療学会専門医	大場祐輔	他 2 名
日本心血管インターベンション治療学会認定医	原田顕治	他 12 名
経カテーテル的大動脈弁置換術指導医	大場祐輔	他 1 名
経カテーテル的大動脈弁置換術実施医	大場祐輔	他 3 名
日本不整脈学会専門医	今井 靖	他 6 名
植込み型除細動器(ICD)治療認定医	今井 靖	他 4 名
ペースングによる心不全治療(CRT)認定医	今井 靖	他 4 名
日本超音波学会認定超音波専門医	原田顕治	他 2 名
日本周術期経食道心エコー認定医	石山裕介	他 1 名
日本心エコー図学会心エコー図専門医	原田顕治	他 1 名
日本心エコー図学会 SHD 心エコー図認定医	原田顕治	他 1 名
日本脈管学会認定脈管専門医	小形幸代	
日本臨床遺伝専門医	今井 靖	
日本心臓リハビリテーション学会認定指導士	星出 聡	他 1 名
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医	石山裕介	他 1 名
日本成人先天性心疾患学会認定専門医	今井 靖	他 2 名
日本老年医学会老年科専門医	星出 聡	
日本集中治療医学会集中治療科専門医	小古山由佳子	他 1 名

【令和8年4月 入局のご挨拶】

<光山千智（こうやまちさと）>

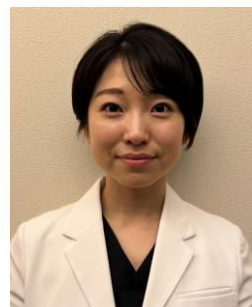
今年度より入局させていただきました後期研修医 1 年目の光山千智と申します。足利市生まれ、小山市育ちで自治医大を卒業しました。

学生時代の講義で TAVI を知ったことをきっかけに循環器疾患に興味を持つようになりました。研修医時代には循環器内科や CCU をローテーションし、バイタルサインや身体所見に加え、心エコーを用いてリアルタイムに病態を把握し治療につなげていく循環器診療の面白さを実感し、入局を決意いたしました。

現在は自治医科大学の卒業生として那須南病院で一般内科診療に従事しております。主治医として患者さんの診療にあたる中で、苦い経験もあれば嬉しい経験もあり、毎日が新鮮です。

同期の先生方と比べると、循環器領域の知識や手技を習得する機会が限られていることに不安を感じることもありますが、その分一つひとつの経験を大切にしながら、毎日精一杯学んでいきたいと考えております。

皆様と同じ現場で診療に携わらせていただくのは義務年限終了後になりますが、その際にはご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



<島田達弥（しまだたつや）>

今年度から循環器内科に入局させていただきました後期研修 1 年目の島田達弥と申します。長野県出身で杏林大学を卒業後、当院で初期研修を行いました。

研修医の頃、どの診療科に進むか迷っておりましたが、急性期と慢性期の両方の側面のある循環器診療に魅力とやりがいを感じ、より学びを深めて患者様のお役に立てたらと思い循環器内科に入局させていただきました。

今後も基本的な内科診療を学びつつ、循環器内科を専門的に学んでいきたいと思っております。

日々の診療で悩むことも多く、まだまだ未熟者ではありますが 1 つ 1 つ学びを深めて早く一人前の循環器内科医になれるように努力してまいります。

上級医の先生方、御迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、今後とも御指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



<丸山涼太（まるやまりょうた）>

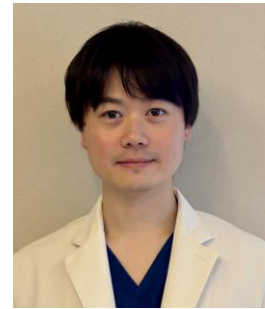
今年度から循環器内科に入局させていただきました後期研修医 1 年目の丸山 涼太と申します。

出身は埼玉県で山形大学を卒業後、山形県の日本海総合病院で初期研修を行いました。

各分野のスペシャリストの先生方がいらっしゃる環境で、幅広い循環器診療を学びたいと考え、栃木に来させていただきました。4 月より循環器内科での診療に携わるようになり、さっそく心エコーやカテーテル検査などの中で、これまで知らなかったことに多く触れ、日々大変勉強になっております。

まだ未熟ではございますが、一つひとつの経験を大切にしながら、少しでも早くチームの力となれるよう精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



各分野からの紹介 <2025～2026 年>

【カテ・SHD チーム： 大場祐輔】

高度治療・教育・学術発信を一体として進めた一年

本年度、自治医科大学循環器内科カテ・SHD チームは、Percutaneous Coronary Intervention（経皮的冠動脈インターベンション：PCI）および Structural Heart Disease（構造的心疾患：SHD）診療を基盤として、安全性の高い高度治療、人材育成、学術発信を一体として進めてきた。若手医師が補助にとどまらず、症例評価、治療戦略立案、学会発表、論文化まで主体的に関与できる体制整備に取り組んだ。

また、シミュレーション教育やハンズオンを継続的に実施し、安全を最優先としながら段階的に経験を積む仕組みを整備した。各症例の経験を個別の経験にとどめず、カンファレンス、研究会、学会発表へと接続することで、診療・教育・研究が相互に支え合う運営を目指した。

その結果、国際学会での発表、英文誌への論文掲載、Young Investigator Award 受賞などの成果につながった。これらは個人の実績にとどまらず、チームとしての継続的な取り組みが形となった成果である。今後も、一例一例の診療を大切にしながら、より安全で質の高い診療、持続的な教育体制、国内外への学術発信を進めていく。



1. 学会活動



PCR Tokyo Valves 2025 (2025 年 2 月 7 日–9 日)

小林久也

「HIV 合併の二尖弁 severe aortic stenosis に対する緊急 TAVI」

国内留学先である岐阜ハートセンターでの経験をもとに、複雑症例に対する TAVI の治療戦略を英語で発表した。特殊な背景を有する症例を国際的な場で整理して発信したことは、SHD 診療への理解を深めるとともに、若手医師の発表経験の蓄積にもつながった。

第 275 回日本循環器学会関東甲信越地方会 (2025 年 2 月 8 日)

木下真緒／小古山由佳子

「下肢閉塞性動脈硬化症に対する EVT を施行し生体腎移植に成功した一例」

Endovascular Therapy (EVT) を先行することによって腎移植へつなげた症例を通じて、多領域連携の重要性と末梢血管治療の臨床的意義を共有した。循環器診療が他領域治療の成立を支える場面を示した発表であり、日常診療における治療介入の意義を再確認する機会となった。



第 89 回日本循環器学会学術集会（2025 年 3 月 28 日–30 日、パシフィコ横浜）

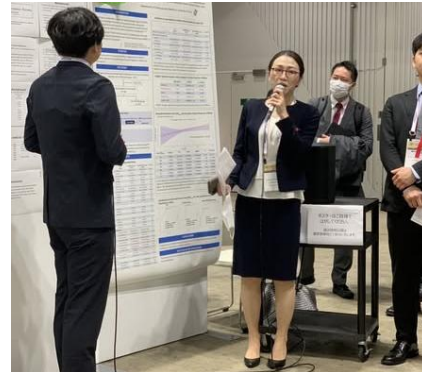
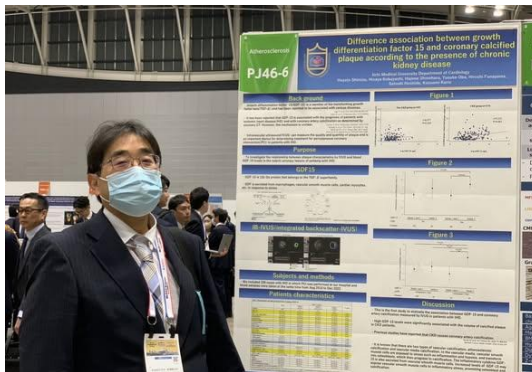
清水勇人

「Difference association between growth differentiation factor 15 and coronary calcified plaque according to the presence of chronic kidney disease」

小古山由佳子 ポスターセッション 46 Atherosclerosis 座長

大場祐輔 一般演題口述 16 Acute Coronary Syndrome（急性冠症候群） 座長

学会発表および座長経験を通じて、研究課題と臨床課題を言語化し、チーム内へ還元する機会となった。外部での議論を通じて得られた視点を、日常診療の質向上、次年度の研究テーマ設定、若手教育へつなげていく。

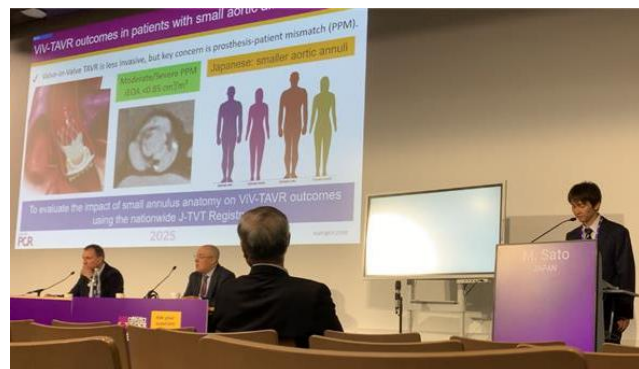


EuroPCR 2025（2025 年 5 月 20 日–23 日、パリ）

佐藤雅史／大場祐輔

「Valve-in-Valve TAVR for Degenerated Surgical Valves in Patients with Small Aortic Annuli: A Report from a Japanese Nationwide Registry」

日本人に多い小さい大動脈弁輪を有する患者を対象に、全国規模レジストリを用いて Valve-in-Valve TAVR の臨床転帰を検討した。単施設経験にとどまらないデータを国際学会で示すことで、わが国における Structural Heart Disease 治療戦略の位置づけを発信する機会となった。



第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（2025 年 5 月 10 日）

平田悠翔／清水勇人

「Stanford A 型大動脈解離に対する上行大動脈置換術中に異常構造物による冠動脈塞栓を来し吸引カテーテルで救命した一例」



清水先生の指導のもと、平田先生が発表を行い、日本心血管インターベンション治療学会認定医取得に必要な要件を満たした。若手医師が症例の臨床的意義を整理し、外部へ発信する経験を積むことは、個人の成長に加えて、チーム全体の診療水準向上にもつながる。

TOPIC 2025（2025 年 7 月 4 日-5 日）

小古山由佳子

EVT ライブデモンストレーション コメンテーター

ライブデモンストレーションにコメンテーターとして参加し、末梢血管治療に関する実践的な議論に加わった。実臨床に即した判断過程を共有する経験は、治療戦略の整理に加え、当院での教育内容を見直すうえでも有用であった。

第 33 回日本心血管インターベンション治療学会総会（CVIT 2025、2025 年 7 月 17 日-19 日）

鈴木規泰／大場祐輔

「A Case of Recurrent Stent Thrombosis Following PCI for STEMI Due to Plaque Protrusion and Heparin-Induced Thrombocytopenia」

PCI 後の再発性ステント血栓症に対し、プラークプロトラージョンと Heparin-Induced Thrombocytopenia（ヘパリン起因性血小板減少症：HIT）という複数の病態が関与し得る点を整理し、治療戦略と再発予防の要点を提示した。急性期 PCI の技術的側面だけでなく、抗血栓療法や合併症管理を含めた安全な診療運営の重要性を再確認する機会となった。

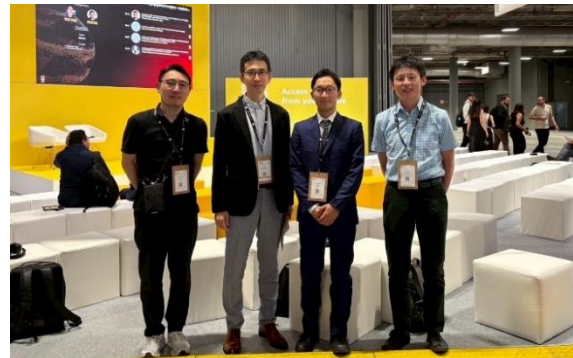


ESC 2025 (2025 年 8 月 29 日-9 月 1 日、スペイン)

鈴木規泰／大場祐輔

「Acute and Subacute Stent Thrombosis with Different Pathophysiological Mechanisms After STEMI in a Single Coronary Artery」

急性期と亜急性期で異なる病態機序によりステント血栓症が生じ得る点を報告し、病態に応じた評価と介入戦略を提示した。国内での症例経験を国際学会で発信することで、急性冠症候群における合併症対応と再発予防の知見を整理し、教育と診療標準化へ還元する足掛かりとなった。



第 10 回 POPAI 2025 (2025 年 9 月 12 日-13 日)

小林久也

「VR シミュレーションで行った PCI 症例」 発表

「石灰化病変への imaging and physiology-guided PCI」 コメンテーター

Virtual Reality (仮想現実: VR) シミュレーションを活用した症例発表に加え、石灰化病変に対する画像・生理学的評価に基づく PCI についてコメンテーターを務めた。手技経験にとどまらず、評価法と治療戦略を言語化して共有する点で、教育的意義の高い発表であった。

第 66 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (2025 年 10 月 11 日)

岩間春佳／大場祐輔

「DOAC 中和が契機となった急性心筋梗塞に対する治療経験」

DOAC 中和薬 (アンデキサネット) 投与後に急性心筋梗塞を発症した症例を提示し、中和療法に伴う血栓イベントリスクを報告した。薬剤選択の妥当性だけでなく、「どのタイミングで、何を指標に、どの体制で安全性を担保するか」という運用面の論点が共有され、会場でも活発な議論が行われた。



ストラクチャークラブ・ジャパン Live Demonstration (2025/12/6)

佐藤雅史

「I+II群 PH 合併重症 DMR に肺血管拡張薬先行後 MitraClip を施行した1例」

佐藤先生が Young Investigator Award (M-TEER 症例) を受賞した。高度な判断を要する症例に対し、病態把握から治療戦略、手技の工夫、合併症リスクへの備えまでを一貫して整理し、学術的価値の高い形で提示した点が評価されたものと考えます。本受賞は、SHD 領域における若手育成とチームとしての症例蓄積が形になった成果であり、次年度以降も発表・論文文化を継続的に推進する。

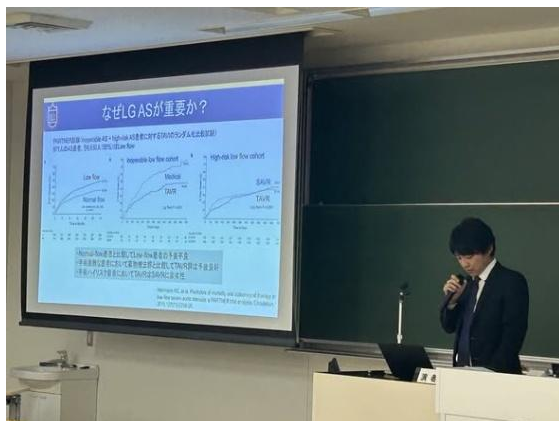


第 54 回下野循環器研究会 (2025/6/18)

小林久也

「大動脈弁狭窄症を合併した心不全患者の診断、治療を再考する」

地域の診療課題を共有し、地域連携の質を高める場として有意義な講演となった。

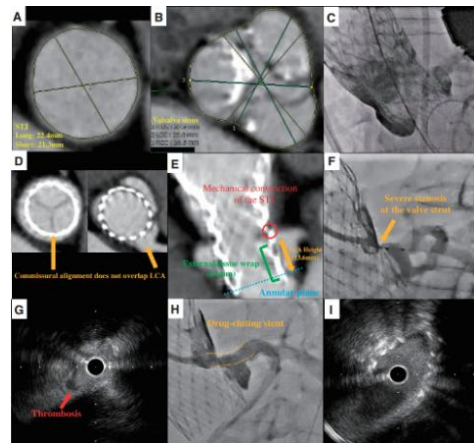


2. 論文実績

1) Late Sinus of Valsalva Sequestration after TAVI Causing Acute Coronary Syndrome J. Transcatheter Valve Therapy. 2025;7(1):47-48.

鈴木規泰

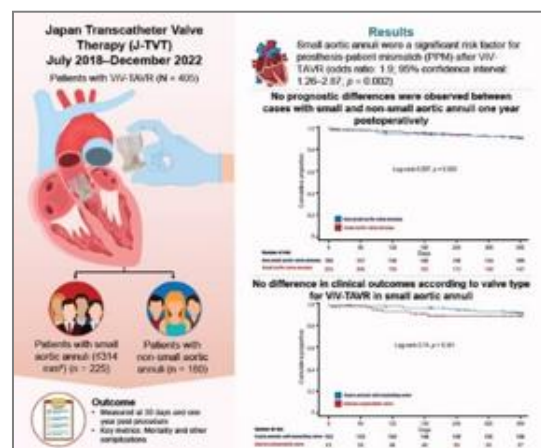
TAVI 後の解剖学的条件 (STJ 狭小、冠動脈高低、留置位置)の組み合わせにより、遅発性に Sinus of Valsalva sequestration を来し ACS を発症した症例を報告した。留置深度の最適化と合併症予見の重要性を再確認するとともに、急性期の救済手技として Chimney technique が有効に機能し得ることを示した。本症例の整理は、TAVI 症例選択、術前評価、術後フォローの標準化に還元可能である。



2) Valve-in-Valve TAVR for Degenerated Surgical Valves in Patients With Small Aortic Annuli: A Report From a Japanese Nationwide Registry Circ Cardiovasc Interv. 2025 Jul;18(7):e015087.

大場祐輔

小さい大動脈弁輪を有する患者に対する外科的生体弁内への経カテーテル大動脈弁置換術 (Valve-in-Valve Transcatheter Aortic Valve Replacement: ViV-TAVR) では、患者-人工弁ミスマッチ (Patient-Prosthesis Mismatch: PPM) が主要な課題となる。本研究は、日本全国レジストリに基づき、PPM リスクが高い集団においても短期～中期の臨床転帰が保たれる可能性を示した。日本人の体格特性を踏まえた全国規模データにより ViV-TAVR の妥当性を示した点は重要であり、SHD 診療における症例選択や弁サイズ戦略、周術期評価の意思決定を支える根拠となる。

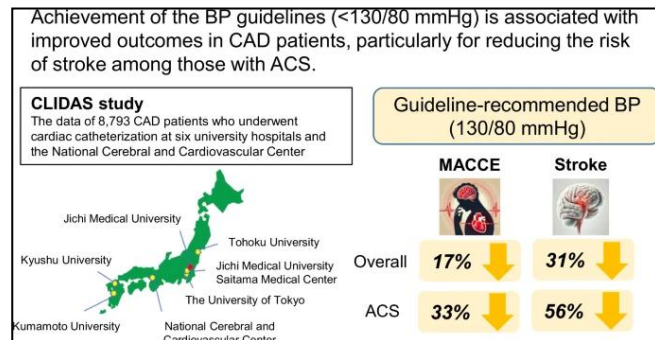


3) Achievement of Guideline-Recommended Target Blood Pressure Is Associated With Reducing the Risk of Hemorrhagic and Ischemic Stroke in Japanese Coronary Artery Disease Patients: The CLIDAS Study

Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):632-639

大場祐輔

PCI 後の日本人 CAD 患者において、ガイドライン推奨血圧の達成が、特に脳卒中（出血性・虚血性）のリスク低下と関連する可能性を示した。急性期治療と慢性期管理を接続するメッセージであり、院内の二次予防指標、退院指導、地域連携パスの改善にも波及し得る知見である。

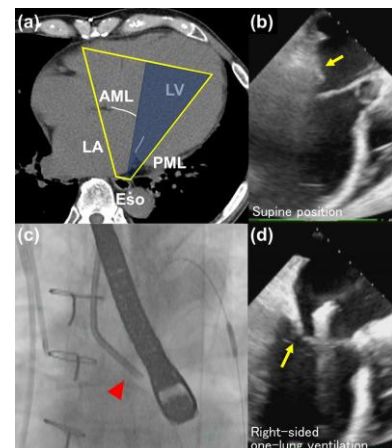


4) Enhancement of Posterior Mitral Leaflet Imaging Quality During the MitraClip Procedure Using One-Lung Ventilation

Cardiovasc Interv Ther. 2025 Oct;40(4):1027-1028

佐藤雅史

MitraClip 施行中に片肺換気を併用することで、僧帽弁後尖の描出を改善し、手技中の評価精度を高め得た症例を報告した。良好な画像描出は手技安全性と成功率に直結するため、麻酔・エコー・術者の連携による「手技環境の最適化」という観点で意義が大きい。

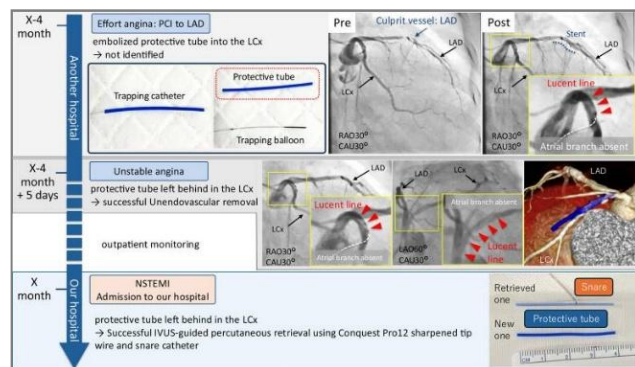


5) Successful Percutaneous Retrieval of a Trapping Balloon Protective Tube Embolized in the Coronary Artery

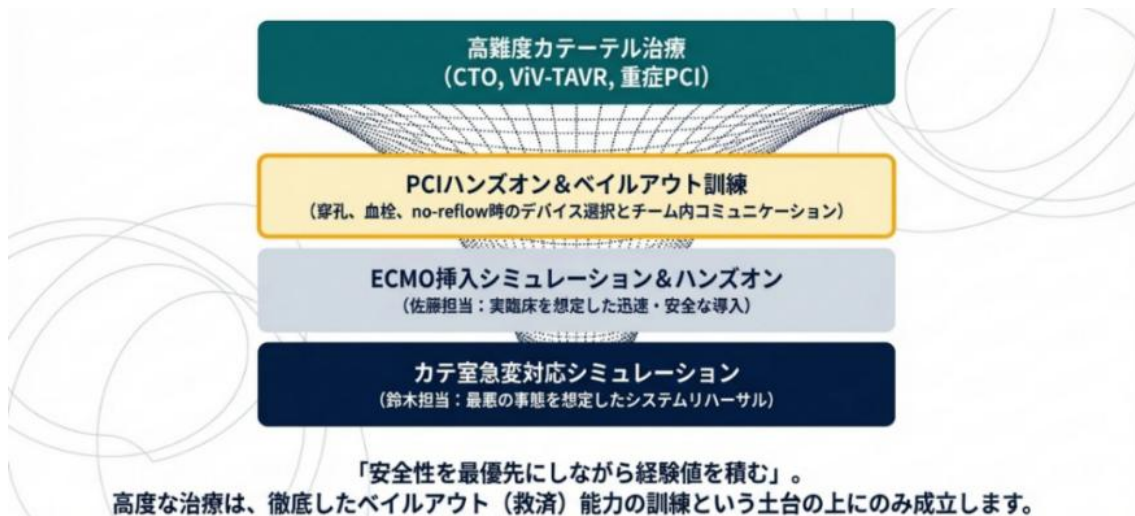
JACC Case Rep. 2025:106225

小林久也

冠動脈内に逸脱したデバイス関連トラブルに対し、経皮的回収に成功した症例であり、PCI におけるベイルアウト対応力とトラブルシューティング能力の重要性を示す報告である。



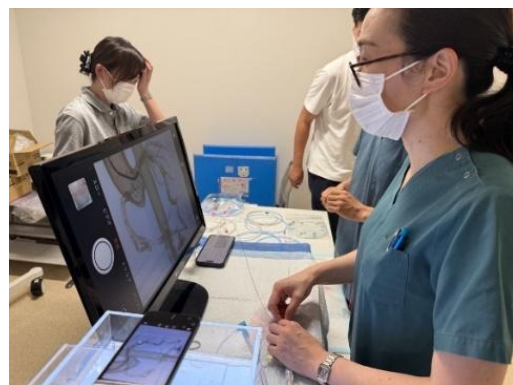
3. シミュレーション・ハンズオン



PCI ハンズオン&ベイルアウト対応訓練（2025/7、2025/11）

場所：心カテ室3（講義：カテ室奥カンファ室）

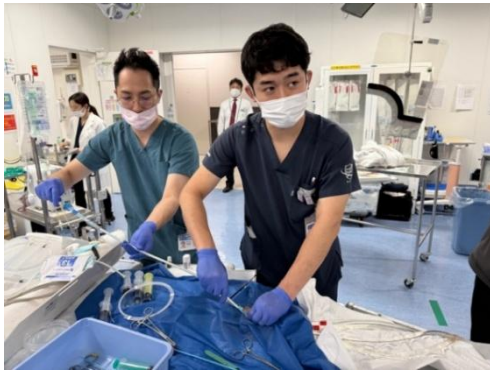
PCI 手技における合併症発生時の対応力向上を目的として、ハンズオン形式によるベイルアウト対応訓練を実施した。穿孔、血栓、no-reflowなどを想定シナリオとし、デバイス選択、手技の優先順位、チーム内コミュニケーションを含めた実践的訓練を行った。あわせて、ガイディング操作やワイヤリングなどの基本手技も確認し、手技の標準化と安全性向上を図った。



ECMO 挿入シミュレーション&ハンズオン (2025/5/28)

担当：佐藤雅史

場所：心カテ室3（講義：カテ室奥カンファ室）ECMO 挿入の安全かつ迅速な実施を目的として、心カテ室における実臨床を想定したシミュレーションおよびハンズオンを実施した。ECMO の適応および導入手技に関するレクチャーを行い、実際の挿入手順を共有することで、緊急時における安全かつ迅速な導入体制の強化を図った。



カテ室急変対応シミュレーション (2025/11/26)

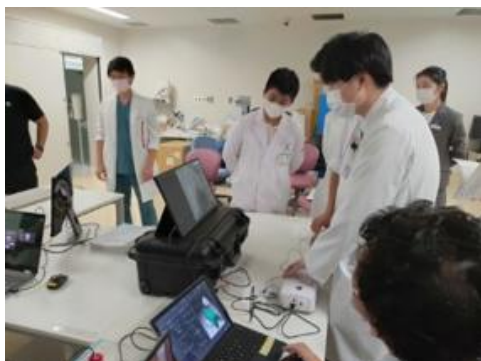
担当：鈴木規泰（指導：齋藤俊祐）

心カテ室での急変時対応力向上を目的として、急性循環不全や心肺停止を想定したシミュレーションを実施した。初期対応、役割分担、多職種連携を確認し、緊急時の安全な対応体制の強化を図った。

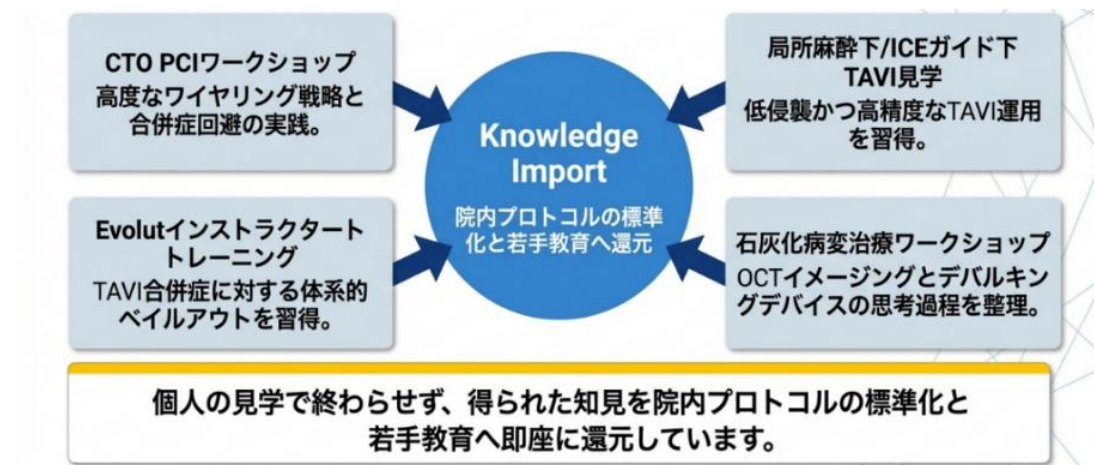


自治医科大学附属病院夏季セミナー (2025/7/19-20)

経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）シミュレーターを用いた実習コースを開催し、9名の学生が参加した。手技体験に加え、適応判断、合併症対応、チーム連携の要点を教育コンテンツとして整理し、セミナー後にはシニアレジデント向けの指導も行った。臨床技能教育を単発イベントで終わらせず、継続的なリクルートと人材育成につなげる取り組みとして位置づけている。



4. 学内・学外ワークショップ参加



1) 局所麻酔下 TAVI の見学

担当：鈴木規泰

日時：2025 年 3 月

会場：榊原病院

局所麻酔下での Evolut FX 留置について見学し、麻酔戦略と手技運用の実際を学んだ。

2) 石灰化病変治療ワークショップ

担当：大場祐輔

日時：2025 年 8 月 1 日

会場：足利赤十字病院

OCT イメージングを用いた石灰化病変評価を基盤に、デバルキングデバイス使用の経験を共有した。病変性状の見極めからデバイス選択、合併症回避までの思考過程を整理し、当院における石灰化病変治療の標準化および教育への還元を図った。

3) 心腔内超音波ガイド下 TAVI 留置ワークショップ

担当：小林久也、佐藤雅史

日時：2025 年 9 月 18 日

会場：大阪警察病院

ICE を用いた Evolut 留置について、2 症例の見学およびレクチャーを受け、画像ガイド下 TAVI の実践的知見を深めた。

4) 石灰化病変治療・PCI 最新エビデンス ワークショップ

担当：小林久也

日時：2025 年 10 月 9 日

会場：藤田医科大学病院

石灰化病変に対する治療戦略を症例ベースで体系的に学ぶ機会であり、当院での高度 PCI 症例への対応力向上と若手教育への応用を目指している。

5) Evolut インストラクタートレーニング (2025/12/14)

担当：大場祐輔

TAVI 手技中に発生し得る合併症に対するベイルアウト対応について、体系的なレクチャーおよびシミュレーターを用いた実践訓練を実施した。

6) CTO PCI ワークショップ（プロクター招聘）

国内留学先での指導医である樋上先生をプロクターとして招聘し、慢性完全閉塞（CTO）症例に対する治療戦略と手技の高度化を目的としたワークショップを実施した。2 症例を対象に、アンテグレードアプローチおよびレトログレードアプローチを用いた治療戦略について、アプローチ決定、ワイヤリング手技、合併症回避までを含めて実践的に学習した。両症例とも成功し、治療戦略の妥当性と術前評価から術中判断に至る一連の意思決定プロセスの重要性を再確認する機会となった。若手医師のモチベーション向上とスキルアップにも大きく寄与しており、今後も継続していきたい。



5. Next generation

鈴木規泰

・今年度の到達点

TAVI では Sapien3 術者として本年 12 例を施行し、実施医要件を達成した。累計 22 例となり、指導医要件 30 例達成に向けて着実に経験を積み重ねている。PCI では、急変時対応シミュレーションの企画・実施、学会発表、石灰化病変に対するロータブレーター使用、若手向けレクチャーを通じて、診療・教育・学術発信の各面で役割を広げた。

・今後の育成方針

TAVI、PCI の両領域で術者としての経験をさらに蓄積し、高難度症例への対応力を高めていく。あわせて、症例報告や国際学会発表の経験を継続的な論文化につなげ、チームの中核を担う人材として育成を進める。

福田太郎

・今年度の到達点

自治医科大学の義務年限修了後、カテーテルチームに参画し、PCI および EVT において症例経験を重ねた。基本手技の習得と症例対応力の向上を着実に進め、日常診療の基盤形成を図った。

・今後の育成方針

まずは基本手技の安定化と症例判断力の向上を進め、そのうえで症例の整理や学会発表にも段階的に取り組む。今後は SHD 領域への関与も広げ、診療範囲の拡大を目指す。

平田悠翔

・今年度の到達点

PCI 領域では、第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会において症例発表を行った。SHD 領域では MitroClip 手技の習得に継続的に取り組み、本年度、日本心血管インターベンション治療学会認定医を取得したことで、カテーテル診療に必要な基礎的技能と経験の到達が確認された。

・今後の育成方針

PCI と SHD の双方で症例経験を蓄積し、診療経験を学術的発信へ結びつける力を養っていく。発表機会と実臨床経験を連動させながら、段階的に自立した診療能力の向上を支援する。

岩間春佳

・今年度の到達点

第 66 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会「DOAC 中和が契機となった急性心筋梗塞に対する治療経験」において、症例整理と発表に関わった。カテチーム

2 年目として、日本心血管インターベンション治療学会総会や地方会での経験を通じ、臨床経験を学術的に整理し発信する力を着実に伸ばした一年であった。

・今後の育成方針

今後は日本心血管インターベンション治療学会認定医取得を見据え、日常診療で経験する症例を発表へつなげながら、無理のない形で成長を支援していく。バイルアウト対応を含めた実践的経験を重ね、判断力と対応力の向上を図る。

6. 総括

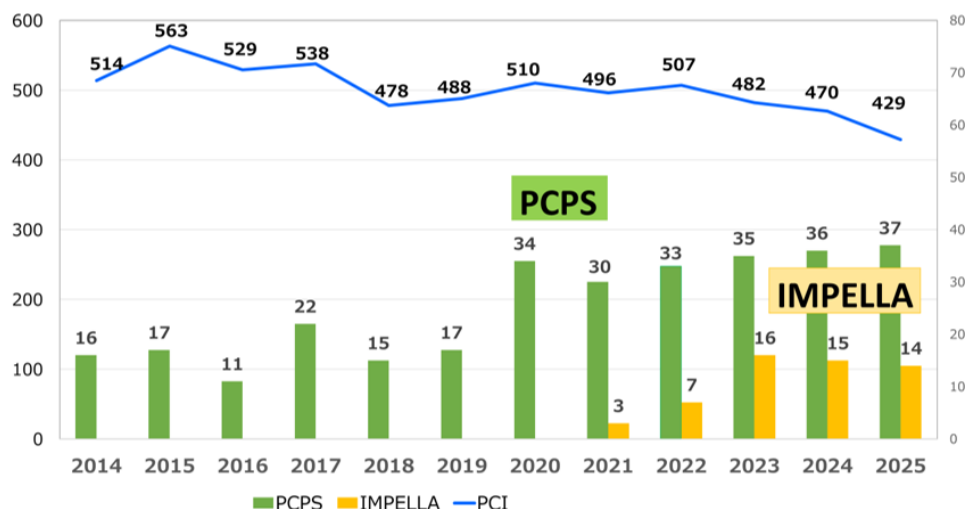
本年度のカテ・SHD チームは、高度で複雑な症例に安全に対応しながら、若手医師が段階的に経験を積み、学会発表や論文化へつなげる体制づくりを進めた一年であった。国際学会発表、英文誌掲載、Young Investigator Award 受賞といった成果は、日常診療の積み重ねが教育と学術発信に結びついた結果である。

また、シミュレーション教育、ハンズオン、外部ワークショップ参加を通じて、手技の標準化と対応力向上を図るとともに、チーム全体で知識と経験を共有する基盤が整いつつある。これらの取り組みは、個人の成長にとどまらず、診療の質向上と持続的な人材育成につながるものである。

次年度も、一例一例の診療を丁寧に積み重ねながら、安全性の高い高度治療、計画的な若手育成、国内外への学術発信をさらに発展させていきたい。

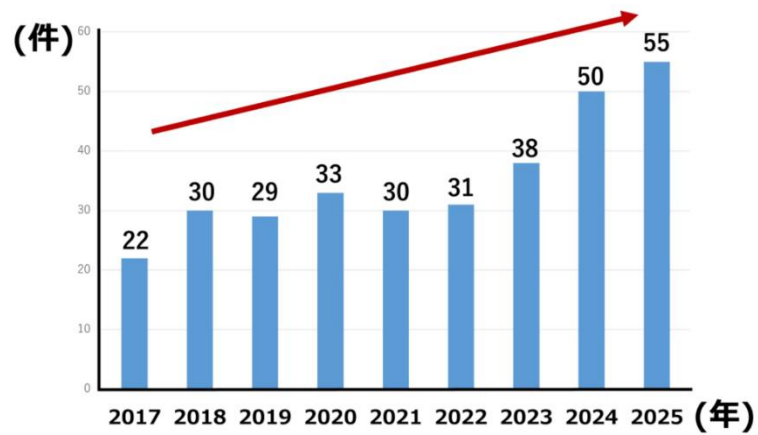
PCI 施行件数の年次推移

PCPS や IMPELLA を要する重症患者に対する PCI の増加を認める



TAVI 施行件数の年次推移

TAVI の施行件数は増加している



各分野からの紹介 <2025～2026 年>

【不整脈治療：今井 靖】

不整脈診療は元来、心電図・電気生理学的診断と薬物療法から成り立っておりましたが、植え込み型電子デバイスではもともと心臓血管外科管轄であったペースメーカ植え込みが内科に移管され、さらに ICD, CRT-D が 20 数年前に加わり、その当時から自治医大循環器内科では植え込み型電子デバイスに 20 年来注力しておりハイボリューム施設としての診療規模を現在まで維持しております。植え込み型電子デバイスではリードまたはデバイスの感染、遺残リードの除去のため等リード抜去を行う必要性が時々生じますがリード抜去は渡邊裕昭先生、甲谷先生を中心に進めておられ県内唯一の実施施設となっております。

カテーテルアブレーションも高周波カテーテルアブレーションが 1994 年保険収載され、2000 年頃から心房細動アブレーションが本邦でも始まり、自治医大でもカテーテルアブレーション症例を蓄積して参りました。さらに 2013 年から現在に至るまで土浦協同病院循環器内科部長 蜂谷 仁 先生から定期的にご指導頂きながら特に心房細動に対する高周波あるいはクライオバルーンによるカテーテルアブレーションの定着化を進め、2024 年にはパルスフィールド法（パルス状の電界を形成し、心筋細胞を特異的に細胞死に誘導するもの 従来の高周波、クライオのような熱エネルギーによる手法では、食道、横隔神経など周辺臓器への影響がありましたが、それも大幅に軽減されるようになりました）という安全かつ迅速な肺静脈隔離を可能とするゲームチェンジャーの登場により、新たな時代の幕開けとなり、当院におきまして Farapulse パルスフィールド法を導入、2025 年 2 月 3 日に初回例の実施を皮切りにさらに心房細動治療件数の増加につながりました。他社のパルスフィールド法についても修練を行い、症例によって利用しております。

デバイスおよびアブレーションについて本邦で認可された不整脈手技のほぼ全てを網羅して実施しており、地域の患者さんに最善かつ最適な診療を提供出来る体制を確保しております。日本不整脈心電学会認定不整脈専門医を 8 名擁し大学病院としても非常に充実した陣容と思います。当院のみならず関連施設である新小山市民病院、佐野厚生病院におけるカテーテルアブレーションの実施にも積極的に参画・支援を行っております。さらに地域の診療ニーズに応えるべく不整脈チーム一丸となって取り組んで参る所存でございますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床アクティビティ

●心臓電気生理検査・カテーテルアブレーション

2025 年 1-12 月年間 369 件 （前年 322 例）

WPW 症候群 9

房室結節回帰頻拍（AVNRT）27

心房頻拍（AT）33

心房粗動（AFL）56

心房細動[pulsefield 法] 274 [156]

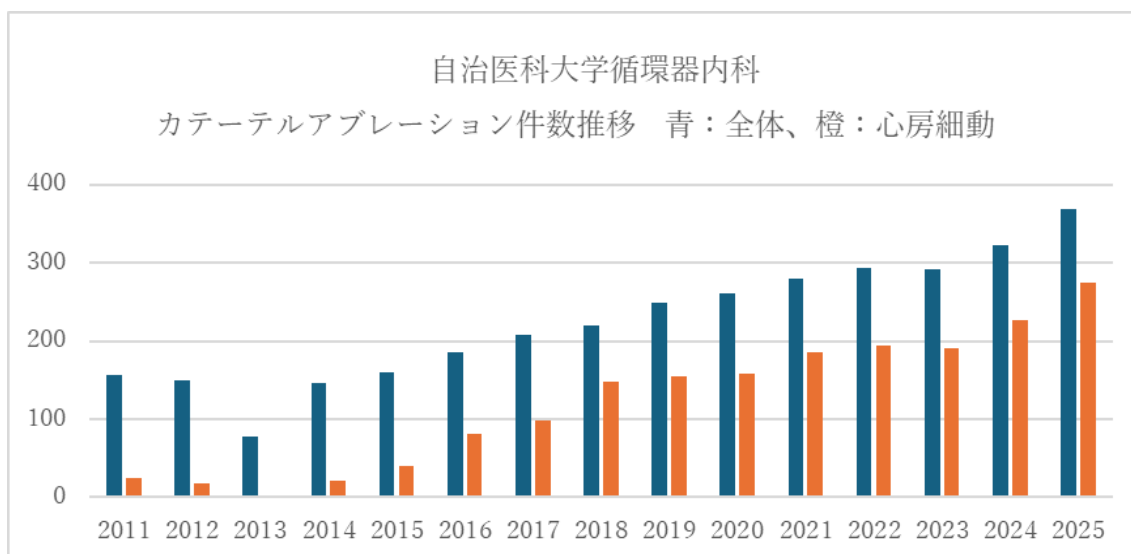
（小計）上室性不整脈 339

心室性期外収縮 15

心室頻拍〔器質的心疾患合併〕15 [9]

（小計）心室性不整脈 30

カテーテルアブレーションの件数は昨年 300 件超となり、2025 年 369 件に達し、病院の収益増・経営改善にも大きく貢献することが出来ました。今後も新たな技術導入および業務効率化・迅速化を図り年間 400 例超を目標に取り組んで参ります。心血管治療センター(IVR センター)2 カテ室をホームグラウンドとし既存の CARTO(Biosense Webster 社)、EnSite(Abbott 社)の 2 つの 3-D mapping system 2 システムに加え Rhythmia(Boston Scientifics 社)をパルスフィールド法アブレーション導入と並行してラインナップに加え、症例ごとに最適な 3Dmapping system を用いて手技を展開しております。カテーテルアブレーションについては不整脈グループ全員が参画しておりますが、渡部智紀先生を責任者として上岡正志先生、牧元久樹先生、渡邊裕昭先生、奥山貴文先生の合計 5 名が中心となってアブレーション手技に注力頂いておりました。たまに私も手技に加えて頂いておりますが、この 10 数年の治療技術の変貌と人材増加を嬉しくまた驚きをも



って受け止めております。長らく不整脈診療にご貢献頂いたお二人の先生方 牧元久樹先生、奥山貴文先生が2026年3月に御退職され新たな道に進まれることとなり、残りのメンバーと若手の先生方の協力の元、2025年度までの診療規模を2026年度も同様の診療規模を維持すべく励んでおります。なお牧元先生はドイツ リューベック大学循環器内科不整脈分野教授として再度ドイツへ赴任され、臨床不整脈の牽引・指導をされるとともに併設される研究所と基礎・医工連携を展開されております。奥山先生はご親族の病院の継承・小山地区の地域医療に貢献されることとなりました。お二人の先生方の自治医大不整脈グループへの今までのご貢献に深く感謝申し上げますとともに、学外から我々不整脈グループへのご支援ご指導を引き続きお願い申し上げます。

今は“働き方改革”の真っ只中にあり医師のみならず看護師、臨床工学技士、放射線技師など全ての職種において日中勤務時間帯でしっかり仕事をして夕方には仕事を終え、帰宅するあるいは残ったとしても以後は本人の研究や学習など自己研鑽にあてるという働き方が一般化し数年が経過し、かつては夕方17:15以降の時間帯への超過が60-70%と慢性化しておりましたが、現在では20%以下まで減少しております。今日の自治医科大学附属病院循環器内科の電気生理・カテーテルチームの体制の充実、本邦のカテーテルアブレーションを牽引される土浦共同病院循環器内科部長・副病院長の蜂谷 仁先生のご指導・ご支援の賜物であり、2013年以来、月1-2回ご来学頂き、当科の不整脈チームの経験・診療体制等、折々の状況に応じて懇切丁寧にご指導頂いております。2020年9月から循環器内科客員教授にご就任頂き今日に至るまで難治例再発例への対処を含めご教示頂いております。今後も更なるご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。また長年にわたり南会津病院 佐藤彰洋先生（自治医科大学 OB）が火曜日に時折ご来学頂いており侵襲的手技のサポートを頂いております。若手循環器内科スタッフも不整脈診療に加わってくれており、特に加倉井俊也先生、須田直樹先生、土屋亨規先生、永嶋貴樹先生、弓田馨之先生、丸山涼太先生は電気生理・カテーテルアブレーションの手技に積極的に加わっていただきご尽力いただいております。さらに増加するカテーテルアブレーション症例に応じられるよう若手・次世代育成にも並行して注力して参ります。

●植込み型電子デバイス 2025 年 1-12 月 191 件

<新規>	<交換>
ペースメーカー 86 (リードレス 42)	ペースメーカー⇒ペースメーカー 38
ICD 17 (S-ICD 6、TV-ICD 11)	ペースメーカー⇒ICD 1
CRT-P 1	ICD⇒ICD 18
CRT-D 11	ICD⇒ペースメーカー 1
植込み型心電計(ILR) 5	ICD⇒CRTD 2
	CRTP⇒CRTP 1
	CRTD⇒CRTP 1
	CRTD⇒CRTD 9

植込み手技は小森孝洋先生、横田彩子先生が中核として担当されていますが、若手として三玉唯由季先生も積極的に参画頂いております。また甲谷先生が成人先天性心疾患センター長等の業務で多用な中、難易度が高い手技について術者あるいは指導的術者として加わっておられます。

リードレスペースメーカー（メドトロニック社およびアボット社）については従来、適応を選びながらで少数での実施にとどまっておりましたが 2025 年度からは大幅に増加し、2026 年に入ってから上大静脈からのアプローチが適する症例については経頸静脈経由での Micra(メドトロニック社)の植え込みも開始しました。アボット社では心房、心室にそれぞれリードレスペースメーカーを植え込みその2台の間を communicate させることで DDD pacing を可能とするシステムも上市されており、これらデバイスも積極的に活用を進める予定です。心室ペーシングにおいてはヒス束あるいは左脚を直接刺激する刺激伝導系ペーシングが話題ですが、症例を選びながら取り組んでおあります。

植え込み型除細動器については従来の経静脈的リードによる ICD に加え、皮下 ICD という選択肢があり渡邊先生、上岡先生、甲谷先生のご尽力により当院でも積極的に実施しております(最近では胸骨下に除細動リードを留置する機種も上市されましたが当院では未実施です)。

さらにリード・デバイス感染に対してはリード抜去を含む全システム抜去が推奨されておりますが、エキシマレーザーを用いたリード抜去について筑波大学で研鑽を積んだ渡邊裕昭先生を主軸に据え 2019 年度から心臓血管外科・麻酔科のご支援のもと実施しており、最近ではさらに他の抜去デバイスも活用しつつ地域から多くの症例をご依頼頂いておりますが治療成績も良好です。2025 年では 10 例の実施がありました。

デバイス植込み患者は年 1-2 回程度外来で対面でのデバイス点検を実施しますが ICD/CRT/ペースメーカーの機種によらず積極的に 遠隔監視（機械の情報を専用の小型通信機

を用いてウェブ上に情報送信)を導入し不整脈デバイス担当スタッフと臨床工学技士CEとが協力しつつ管理業務を行っています。大半の患者さんではMRI対応デバイスが植え込まれていることもあり、患者さんのMRI検査時の立会い業務が増加しており、医師、臨床工学技士の協働・協力体制の強化を進めております。

教育・研究アクティビティ

入局された若手医局員の先生方も最近では病棟担当をする折に不整脈チームに一定期間配属され、病棟診療のみならずカテーテルアブレーション、デバイス植込み手技に変わって頂いており、次世代の不整脈医養成に努めております。病棟体制におきましても循環器の全体を診療する3つのチームとは独立して不整脈チームが編成され、そこに若手医師がローテーションしており若手医師、医学生教育にも精力的に取り組んでいます。学術面では日本循環器学会、日本不整脈心電学会および関連学会(アブレーション、デバイス、心電図)、AHA、ESC、Europace等で不整脈疾患・手技に関する症例報告・臨床研究、不整脈と血圧・血行動態に関する臨床研究について学術発表を行い、さらにそれらを国際誌に投稿・論文化しております。またデータサイエンスセンターを本務とする牧元先生がカルテ・心電図情報などを活用したビッグデータ解析・AI研究が展開されております。毎週月曜日夕方に不整脈カンファランスを開催し症例検討会を行い、不定期ですが研究ミーティングを行っております。

後進の指導についてはペースメーカ植込みが独立して実施出来ること、またその設定・管理に熟知していること、発作性心房細動も含めた上室性不整脈に対するカテーテルアブレーションが実施出来ること および 電気生理学的解釈が行えること を到達目標として若手医師を育成できる指導体制を敷いています。

今後の目標

2025年2月導入の新技术PFAをフル活用し、カテーテルアブレーション、植込み型デバイスの両面において、安全性と治療成績をさらに向上しつつ症例数の増加を図りたいと考えております。また全国で活躍される自治医科大学卒業生、また様々な外部医療機関からの見学・研修の受け入れも積極的に進めます。

また小児例や先天性心疾患患者についても小児科・循環器チームと密に連携しカテーテルアブレーションに取り組んでおります。体格の小さい小学校低学年以下の手技については外部からプロクターを招聘しその指導下となりますが、地域からは一定のニーズがあり、それに応えられるよう体制の整備・維持に努めます。

最後になりますが、治療対象となりうる症例がございましたら是非ともご紹介ください。

2026 年 7 月現在、月曜から金曜まで各曜日に少なくとも 1 名は不整脈医を配置し紹介受診のその日に専門的な対応が取れる体制を確保しております。今後も不整脈グループの御指導御鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



各分野からの紹介 <2025～2026 年>

【心不全治療：小森孝洋、原田顕治】

臨床アクティビティ

心不全グループは、標準的な心不全内科的治療を実施するための教室員の教育、心不全患者に対する多職種連携の取り組み、重症心不全に対する治療を行っています。心不全治療においてはガイドラインに基づいた標準的な薬物治療が必須となっています。心エコーでのLVEFに基づき、収縮力の低下した心不全(HFrEF)と収縮力の保たれた心不全(HFpEF)を区別して治療薬の処方を行っています。

薬物治療だけでなく、リハビリや生活指導が再発予防には欠かせません。病棟心不全患者に対しては、毎週月曜日に心不全教室を開催し、患者家族を含めて教育に努めています。心不全は進行性の病気であることを説明し、アドバンス・ケア・プランニングを意識して診療を行っています。

心不全患者は疾患以外の問題も多く有しており、家族関係、ADL、認知機能、生活状況などの問題点へも同時に介入していく必要があります。これは医師だけでは解決できない問題点であり、コメディカルとの連携が欠かせません。そのため、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士を加えた心不全チーム医療カンファレンスを毎週月曜夕方に開催しています。患者さんの非医療的な問題点に対し、速やかに介入できるように努めております。心不全に対する緩和ケアも緩和ケア科協力のもとに行っており、終末期心不全の患者さんが安楽に過ごせるよう取り組んでいます。

外来においては、外来看護師と栄養士が主体となって、減塩指導を中心とした心不全患者の指導プログラムを運用し、患者さん自身の自己管理意識や疾患への理解が高まるよう努めております。

重症心不全については、心臓血管外科や看護師、臨床工学技士を含めたハートチームで診療に当たっています。現在植込み型補助人工心臓装着者は1名、心移植に到達した患者も1名おります。植込み型補助人工心臓での移植待機症例においては、多職種で協力しながらケアを行っています。心移植の登録は東京大学と連携しながら、石山裕介医師が中心となって行っております。斎藤俊祐医師が大阪大学循環器内科の重症心不全・移植専攻医育成プログラムへの国内留学中から帰局し、VAD外来を担当しています。

検査

原田顕治准教授、小形幸代講師を中心に、外来・病棟の心エコーを積極的に実施しています。2025 年 8, 306 件の経胸壁心エコー、262 件の経食道心エコーを行いました。経食道心エコーでは術前心内血栓評価や 3D エコーを用いた弁膜症の詳細な評価を行っています。TAVI や MitraClip などの弁膜症に対するカテーテル治療の術中評価・モニタリングも行い、検査室外で活躍の場も増えています。核医学検査は桂田講師を中心に行われています。心臓 MRI は心機能低下の鑑別、心サルコイドーシスの鑑別目的に実施され、2025 年は 215 件行われました。また、心臓リハビリテーションは、延べ人数 7,412 人について施行しました。

研究アクティビティ

心不全患者を対象としたバイオマーカー研究を進めております。病棟では弁膜症に対する簡易負荷心エコー、心不全患者に対する起立性血圧変動研究なども進行しています。





各分野からの紹介 <2025～2026 年>

【高血圧治療：星出 聡】

臨床アクティビティ

米国コロンビア大学に留学していた成田圭佑先生が帰国し、2026 年 4 月から下都賀総合病院に派遣の傍ら、研究日には当科での臨床研究に関わっています。2026 年 4 月から、茨城県西部メディカルセンターに派遣に出ていた水野裕之先生が大学に戻り、診療及び臨床研究に従事しております。

臨床面では、高血圧専門外来（星出・藤原・水野）、SAS 外来（桂田）を開設しており、治療抵抗性高血圧や二次性高血圧の精査、治療にあたっています。二次性高血圧の原因として最も多い、睡眠時無呼吸症候群などを積極的に鑑別しています。高齢化に伴い、動脈硬化性の腎動脈狭窄の頻度も増加しており、その表現型の一つとして腎血管性高血圧があります。これに対するカテーテル治療も当科で行っております。また、治療抵抗性高血圧の治療としての腎交感神経デナベーション(renal denervation; RDN)が本年度保険適応となったため、当院でも今後臨床で実施予定です。RDN に対しては、2024 年より HRT(高血圧 RDN 治療チーム)を形成し、医師や看護師、薬剤師、栄養師といった多職種のメンバーの基で、RDN の適応や患者選択プロセスを議論しております。

研究アクティビティ

高血圧グループが主体となり、日本全国の自治医大の卒業生や実地医家の先生方とともに多くの臨床研究を行っています。

・観察研究

- ▶ 震災被災者の家庭血圧モニタリングによる循環器リスク予防に関する疫学研究 (DCAP 研究)
- ▶ 80 歳以上の超高齢者における 24 時間自由行動下血圧の追跡研究 (SEARCH 研究)
- ▶ 循環器リスク患者における情報技術を用いた家庭血圧予測研究 (Predict 研究)
- ▶ ICT による新規血圧モニタリングシステムを用いた心血管イベント発症を予測する血圧変動と応性に関する研究
- ▶ 家庭血圧測定機能および身体活動計搭載のマルチセンサーABPM を用いた ICT による全国血圧追跡研究 (HI-JAMP 研究、HI-JAMP-V 研究)
- ▶ 新規手首型家庭血圧測定を用いた観察研究 (WISDOM 研究)

- ▶ 循環器リスク患者における心臓・血管関連の予後に関する前向き研究（Coupling 研究）
- ▶ 生活習慣改善における『デジタル行動変容』評価指標の研究開発（AMED）
- ▶ 皮膚交感神経活動記録を使用した循環器リスクと交感神経活性に関する観察研究・基礎研究
- ▶ 高血圧モデル動物を使用した自律神経性循環調節の病態変化と薬物介入に関する研究



海外留学報告書

成田圭佑

2024年4月から2026年3月までの2年間、米国ニューヨークのColumbia University Irving Medical Centerに研究留学させていただきました。本稿では、研究活動および現地での生活を含め、海外研究留学についてご報告いたします。

1. 留学の目的と研究環境

留学の主な目的は、これまで取り組んできた家庭血圧および24時間自由行動下血圧測定（ABPM）の研究を発展させるとともに、研究デザイン、論文執筆、多施設共同研究の運営を体系的に学ぶことでした。所属したShimbo/Abdalla研究室は、研究責任者、マネージャー、コーディネーター、データアナリストなど約13名で構成され、出身国や専門性の異なるメンバーが協働する多文化的な研究環境でした。研究者が研究課題の立案と科学的判断に集中できるよう、役割分担と研究支援体制が整備されており、質の高い臨床研究を継続的に生み出すためのラボ運営を実地に学ぶことができました。

2. 主な研究活動と成果

中心となった研究は、診察室血圧、ABPM、家庭血圧の信頼性および標的臓器障害との関連を比較する多施設共同観察研究であるIDH-Mega Studyです。診察室血圧を複数回測定するとともに、ABPMと家庭血圧測定を順序無作為化して反復実施しました。主に研究計画および解析案の作成から、心臓超音波検査に関する業務まで携わりました。並行して、米国心臓協会（AHA）の大規模データや心血管リスク予測モデルPREVENTを用いた解析、ならびにKaiser Permanente Southern California (KPSC) やUniversity of Alabama at Birmingham (UAB) との共同研究に参加しました。前者では、厳格降圧の有用性を検証した米国SPRINT研究のデータを用いて、PREVENTモデルにより推定された心血管リスク別の層別解析に参画しました（Derington CG, ..., Narita K, ... Shimbo D, Bress AP. *J Am Coll Cardiol*. 2025;86(17):1437-1448.）。また、日本の家庭血圧データを用いてPREVENTリスクと仮面高血圧との関連を解析し、論文として発表することができました（Narita K, Hoshide S, Tomitani N, et al. *Hypertension*. 2026;83(1):238-241.）。後者では、高齢高血圧患者を対象として、ABPMで評価した食後血圧低下および血圧変動性と転倒リスクとの関連を検討しました。食後血圧低下に関する成果を論文として発表し（Narita K, Bowling CB, Cannavale C, et al. *Hypertension*. 2026;83(4):e25518.）、血圧変動性と転倒リスクとの関連に関する研究についても、現在、論文を投稿中です。また、Columbia Universityの工学系研究者が開発したカフレス血圧計の妥当性検証にも参画し、医療機器開発に関する研究も経験できました。

3. 留学を通じて得た学び

第一に、研究上の問いを明確にし、妥当な研究デザインへ落とし込む過程を繰り返し経験しました。観察研究、比較研究、予測モデル研究では、統計手法だけでなく、対象集団、曝露とアウトカムの定義、交絡、結果の解釈可能性を、研究開始時から設計することの重要性を学びました。論文や研究提案書の作成に関して、Shimbo先生、Abdalla先生、他にもColumbiaのSchwartz先生、KPSCのReynolds先生、元UAB所属のMuntner先生より親身にご指導頂き、ここでは書き尽くせないほど多くのことを学びました。第二に、研究を推進するための組織づくりとコミュニケーションを学びました。研究責任者だけでなく、マネージャー、コーディネーター、統計家、データアナリストがそれぞれの専門性を担い、共通のプロトコルと定期的な議論によって研究の質を維持していました。NIHによる戦略的投資、研究コンソーシアム、データ共有を重視する仕組みに触れた一方、米国における政権交代などの社会情勢の変化が、アカデミアに直接影響する現実も経験しました。この経験を通じて、持続可能な研究基盤を構築することに加え、研究の意義を社会へ伝えること（または、一般の方々にもその重要性を理解していただけるような研究を行なっていくこと）の大切さを実感しました。第三に、実装科学の視点を学びました。従来の臨床研究は、治療や検査の有効性を明らかにすることを目的としますが、実装科学では、有効な介入を実地医療へどのように導入し、普及・定着させるかを検討します。患者アウトカムに加えて、医療者や医療システムも評価対象とするこの考え方は、これまで行なってきた研究エビデンスを臨床実装へつなげる重要な軸になると確信しております。さらに、AHA Scientific Sessionsでの活動やInvited Mentorとしての経験、米国内外の研究者との交流を通じて、研究成果を国際的に発信し、領域や世代を越えた研究者とのつながりを形成することができました。同時に、自身の未熟さと研究者としての現在地を認識できたことも、今回の留学で得た大きな財産です。

4. 今後の展望・謝辞

帰国後は、留学中に培った研究デザイン、国際共同研究、Manuscript/Grant writing、実装科学の視点を生かし、日本発のエビデンスを国際的に発信するとともに、得られた知見を実臨床へ還元していきたいです。また、自らが受けた指導と支援を、初期キャリアの先生方の教育・研究支援へつなげていきたいと考えております。

最後に、本留学の機会を与えてくださった苅尾七臣先生をはじめ、自治医科大学循環器内科、関係施設の先生方およびスタッフの皆様には深く感謝申し上げます。留学中に親身にご指導と温かいご支援を賜りましたラボのメンターであるDr. Daichi Shimbo、Dr. Marwah Abdalla、研究室の皆様、共同研究者の皆様には心より御礼申し上げます。また、海外留学助成金によりご支援をいただきました国際医学研究振興財団に、深く感謝申し上げます。



左上：ラボの同僚とAbdalla先生と学会にて、**左下：**緻密な研究指導をして下さったSchwartz先生 **中央：**ラボのボス・メンターのShimbo先生、**右上：**仲良くさせて頂いた日本人ポストドク留学の先生方、**右下：**Columbia CBCH創設に貢献されたPickering先生の名前が残る会議室にて。

4. 診療実績



診療実績

Clinical service (2025.1.1 ~ 2025.12.31)

1. 外来患者数

	新来	再来	計
年間	1,280	27,253	28,533
1日平均	5.3人	113人	118人
実日数 241日 健保上紹介率(病院全体) : 94% 健保上紹介率(循環器内科) : 117%			

2. 入院患者数(一般67床(A,B)、CCU10床、7階 20床)

年間	1,937名
月平均	161名
平均在院日数	10.3日(外科転科の入院日数を含む)

3. 病名別入院患者人数(主病名での抽出)

分類	病名	患者数
心不全	心不全	247
虚血性心疾患	虚血性心疾患	58
	急性心筋梗塞	147
	陳旧性心筋梗塞	104
	狭心症	305
	無症候性心筋虚血	41
	冠動脈疾患	13
弁膜症	僧帽弁疾患	50
	大動脈弁疾患	113
	三尖弁閉鎖不全症	3
	弁膜症その他	5
先天性心疾患	心房中隔欠損症	13
	房室中隔欠損症	1
	動脈管開存症	1
	先天性心疾患その他	4
心筋症	拡張型心筋症	2
	肥大型心筋症	4
	閉塞性肥大型心筋症	2
	たこつば型心筋症	2
	心サルコイドーシス	12
	心アミロイドーシス	8
不整脈	洞不全症候群	16
	WPW症候群	3
	ブルガダ症候群	8
	徐脈頻脈症候群	6
	房室ブロック	45
	心室細動・心室頻拍	43
	心房細動・心房粗動・心房頻拍	334
	上室性頻拍症	42
	心室期外収縮	10
	Pacemaker・ICD交換	60
	Pacemaker・ICD植え込み後感染症	7
	不整脈その他	1
感染症	感染性心内膜炎	21
心筋炎・心膜炎	心筋炎	8
	心タンポナーデ	1
	急性心膜炎	2
	収縮性心膜炎	6
	心膜液貯留	2
血管・血栓症	大動脈解離/解離性大動脈瘤	26
	肺塞栓症	24
	肺高血圧症	11
	肺動脈性肺高血圧症	14
	閉塞性動脈硬化症	33
	血管・血栓症その他	23
その他	肺炎(COVID-19含む)	10
	蘇生に成功した心停止	7
	腎不全	5
	心臓腫瘍	1
	深部静脈血栓症	2
	脳梗塞	1
	高血圧緊急症	2
	敗血症	3
	上記以外	34
合計	重複あり	1,946

4. 死亡退院症例病名別リスト

病 名	人 数
急 性 心 筋 梗 塞	11
心 不 全	17
不 整 脈	1
心筋症・心筋炎	2
弁膜症	2
そ の 他	6
合 計	39

5. 主な検査・処置・治療件数

①カテーテル検査・治療

心臓カテーテル検査 1,837件
(含:緊急カテーテル) (361件)

PCI	429件
AMI/UAP	144・80件
Rotablator/OAS/ELCA/IVL	24/7/14/24件
IVUS/ OCT	360/124件

ECMO (体外式膜型人工肺) 37件
IMPELLA (補助循環用ポンプカテーテル) 14件
TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術) 55件
MitraClip®(経皮的僧帽弁接合不全修復術) 16件

カテーテルアブレーション 369件
(内訳) ※重複あり

上室性不整脈	339
※心房細動	274
(うち、パルスフィールド)	156
心房粗動・心房頻拍	56・33
心室性不整脈	30
心室頻拍	15
心室性期外収縮	15
流出路起源期外収縮・心室頻拍	15
左室起源特発性心室頻拍	5
心室頻拍(器質的心疾患に伴うもの)	9

末梢動脈疾患のカテーテル治療

腎動脈	2
下肢動脈	31
IVC filter 挿入	9
抜去	9

②CT・核医学検査

マルチスライスCTによる心臓(冠動脈)診断 733件
心臓PET-CT 58件
心臓MRI 226件
心筋シンチ 614件

テクネ負荷心筋(合計)	391件
(運動負荷)	(150件)
(薬剤負荷)	(241件)
安静タリウム心筋	0件
心筋 (タリウム+BMIPP)	47件
BMIPP心筋シンチ	0件
MIBG心筋シンチ	123件
安静テクネ心筋	5件
心筋ピロリン酸シンチ	48件

③デバイス関連手術

デバイス植込み・交換

203件

ペースメーカー	新規	86
	房室ブロック	56
	洞不全	20
	徐脈性AF	9
	交換	38
	房室ブロック	25
	洞不全	8
	徐脈性AF	5
ICD/CRT	新規植込み	37
	ICD植込み	17
	CRT-D、-P 植込み	15
	ICM植込み	5
	交換	28
	ICD交換	18
	CRT-D、-P 交換	10
リード固定	2	
リード抜去	12	

(新規合計 122件、交換合計 67件、抜去 12件)

④生理機能検査

トレッドミル負荷試験

53件

循環器内科 (外来)	41
循環器内科 (入院)	1
他 科	11

心肺運動負荷試験 (CPX件数)

134件

循環器内科 (外来)	67件
循環器内科 (入院)	62件
他 科	5件

心臓エコー検査

8,306件

	循環器内科	心外+他科	合 計
外 来	4,178件	- 件	4,178件
入 院	3,736	392件	4,128件
総 合 計	7,914	392件	8,306件

(経食道エコー 262件)

Holter心電図検査

1,616件

循環器内科 (外来)	1,009件
循環器内科 (入院)	129件
その他	478件

late potential検査

26件

循環器内科 (外来)	19件
循環器内科 (入院)	7件
その他	0件

心電図マスター負荷試験

54件

ABPM (他科)

14件

ABPM (当科)

99件

⑤リハビリテーション

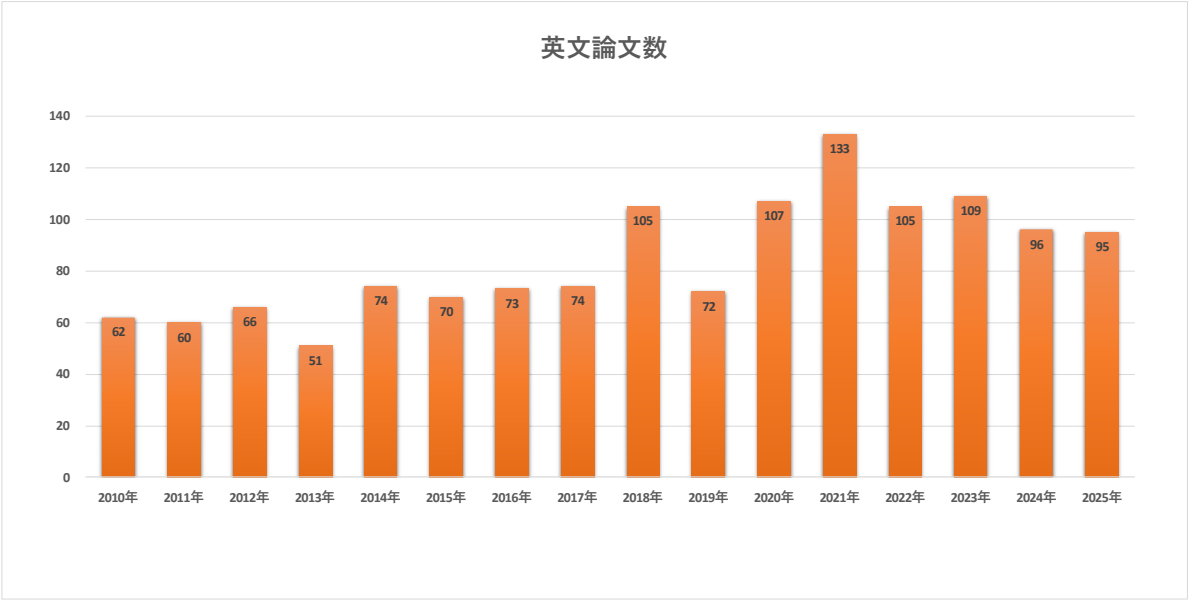
心臓リハビリテーション

9,415件

5. 研究業績

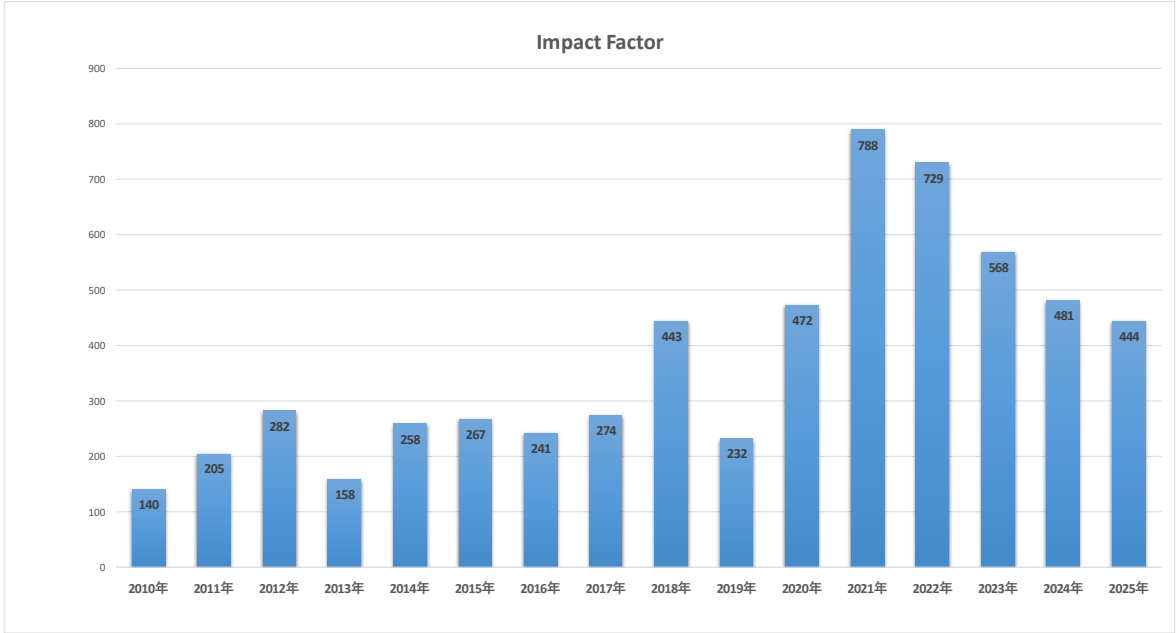
英文論文数

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
英文論文数	62	60	66	51	74	70	73	74	105	72	107	133	105	109	96	95



Impact Factor

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
Impact Factor	140	205	282	158	258	267	241	274	443	232	472	788	729	568	481	444



原著論文 (2025)

1. 甲谷友幸 : P波を調べて何か役に立つことあるんですか? 心電図. 45:121-126, 2025.
2. Asayama, K., Ohkubo, T., Shibata, S., Nishiyama, A., **Kario, K.**: Kiosk blood pressure measurement in Japan: clinical and population application. *Hypertens Res* 48(10):2515-2520, 2025.
3. Bezerra, R., Feitosa, A.D.M., Guimarães-Neto, V.S., Sá-Filho, A.P., Mota-Gomes, M.A., Paiva, A.M.G., Barroso, W.S., Miranda, R.D., Barbosa, E.C.D., Brandão, A.A., Furtado, R.H.M., Drager, L.F., Coca, A., **Kario, K.**, Sposito, A.C., Nadruz, W. Jr.: Discrepancies between office and home blood pressure targets in patients with hypertension according to the 2024 European Society of Cardiology Hypertension Guidelines. *Eur J Prev Cardiol* 32(14):1409-1411, 2025.
4. Chia, Y.C., He, F.J., Cheng, M.H., Shin, J., Cheng, H.M., Sukonthasarn, A., Wang, T.D., Van, Huynh M., Buranakitjaroen, P., Sison, J., Siddique, S., Turana, Y., Verma, N., Tay, J.C., Schlaich, M.P., Wang, J.G., **Kario, K.**; HOPE-Asia Network.: Role of dietary potassium and salt substitution in the prevention and management of hypertension. *Hypertens Res* 48(1):301-313, 2025.
5. Derington, C., Berchie, R.O., Greene, T., Jacobs, J.A., Moran, A., Xu, Y., **Narita, K.**, Zheutlin, A.R., Cohen, J.B., Shimbo, D., Bress, A.P.: Using PREVENT Equations to Compare Intensive vs Standard Systolic Blood Pressure Control for Primary Prevention in SPRINT. *J Am Coll Cardiol* 86(17):1437-1448, 2025.
6. Ding, J., Lyu, G., Nakayama, M., Nochioka, K., Takahashi, J., Yasuda, S., Matoba, T., **Kohro, T.**, Akashi, N., Fujita, H., **Oba, Y.**, **Kabutoya, T.**, **Kario, K.**, **Imai, Y.**, Kiyosue, A., Mizuno, Y., Iwai, T., Miyamoto, Y., Ishii, M., Tsujita, K., Nakamura, T., Sato, H., Nagai, R.: Predicting Left Ventricular Ejection Fraction Recovery After Percutaneous Coronary Intervention in

Patients With Chronic Coronary Syndrome by Using Interpretable Machine Learning Models: Retrospective Study. *JMIR Med Inform* 13:e77839, 2025.

7. Fujita, Y., **Kabutoya, T., Hoshide, S., Kario, K.** : The Relationships among the Cardio-Ankle Vascular Index Values, Proteinuria, and Estimated Glomerular Filtration Rate in Diabetic and Non-Diabetic Patients (the Coupling Registry). *Pulse (Basel)* 14(1):12-19, 2025.
8. **Fujiwara, T., Hoshide, S., Kario, K.** : Association between home blood pressure control status and cardiovascular prognosis in participants with left ventricular hypertrophy: the J-HOP study. *J Hypertens* 43(11):1793-1801, 2025.
9. **Fujiwara, T.,** Iwashima, Y., **Narita, K.,** Satoh, M., Sakima, A. : Combination of Medical Therapy and Percutaneous Transluminal Renal Angioplasty Versus Medical Therapy Alone for Patients with Atherosclerotic Renal Artery Stenosis: Systematic Review and Meta-Analysis. *Hypertens Res* 48(6):1870-1879, 2025.
10. **Fujiwara, T.,** Koshiaris, C., Cai, T., Wang, A., Lee, J., Lay-Flurrie, S., Banerjee, A., Clegg, A., Payne, R.A., Swain, S., Ogden, M., **Hoshide, S., Kario, K.,** Hobbs, F.D.R., McManus, R.J., Sheppard, J.P. : Associations between falls and other serious adverse events and antihypertensive medication in individuals with dementia: An observational cohort study. *PLoS Med* 22(9):e1004731, 2025.
11. **Harada, K., Ishiyama, Y., Wachi, S., Sato, M., Ogata, Y., Kawahito, K., Kario, K.** : Isolated Cleft of the Posterior Mitral Valve Leaflet With Papillary Muscle Abnormalities. *Circ Rep* 7(7):582-583, 2025.
12. **Harada, K., Saito, S., Wachi, S., Sato, M., Ogata, Y., Kario, K.** : "Aquarium Sign" Observed in All Four Cardiac Chambers During Mechanical Ventilation in a Heart Failure Patient. *Circ J* 89(6):846, 2025.

13. Haze, T., **Katsurada, K.**, Sakata, S., **Kuwabara, M.**, Nishida, N., Azegami, T., Sakima, A., Kai, H.: Effects of intensive versus standard blood pressure control on cardiovascular outcomes in adult patients with hypertension: a systematic review and meta-analysis. *Hypertens Res* 48(6):1846–1858, 2025.
14. Hiya, U., **Kabutoya, T.**, **Fujimura, K.**, **Kubota, K.**, **Imai, Y.**, Yokomizo, A., Seki, M., **Kario, K.**: Electrocardiogram indicators of right ventricular dilation in repaired tetralogy of Fallot patients. *Expert Rev Cardiovasc Ther* 23(7):367–371, 2025.
15. **Hoshide, S.**, **Nishizawa, M.**, **Kanegae, H.**, **Kario, K.**: Association of Longitudinal Change in Ambulatory Blood Pressure With Cognitive Decline in Older Adults. *JACC Adv* 4(2):101560, 2025.
16. **Hoshide, S.**, **Tomitani, N.**, **Hamasaki, H.**, **Ozeki, A.**, **Toyoda, S.**, **Kario, K.**: Awareness campaign about hypertension for junior high school students. *Hypertens Res* 48(3):1257–1259, 2025.
17. Ishida, M., Kusaka, M., Matsuura, H., Higashi, Y., Ozono, R., Kajikawa, M., Maruhashi, T., Yamaji, T., Harada, T., Yusoff, F.M., Kawarazaki, W., Shinohara, K., Kitada, K., Nakamura, S., Kaseda, K., Ohishi, M., Shibata, S., Nishiyama, A., **Kario, K.**: Engaging the public on World Hypertension Day 2025: "Asakatsu"—Inspired BP screening and educational forum in Hiroshima, Japan. *Hypertens Res* 48(11):3052–3054, 2025.
18. **Iwama, H.**, **Kamioka, M.**, **Watanabe, H.**, **Ogoyama, Y.**, **Watanabe, T.**, **Kario, K.**: Pulmonary vein stenosis requiring angioplasty or surgical treatment following pulmonary vein isolation: case series. *Eur Heart J Case Rep* 9(3):ytaf 101, 2025.
19. Iwasaki, Y.K., Noda, T., Akao, M., Fujino, T., Hirano, T., Inoue, K., Kusano, K., Nagai, T., Satomi, K., Shinohara, T., Soejima, K., Sotomi, Y., Suzuki, S., Yamane, T., Kamakura, T., Kato, H., Katsume, A., Kondo, Y., Kuroki, K.,

- Makimoto, H.**, Murata, H., Oka, T., Tanaka, N., Ueda, N., Yamasaki, H., Yamashita, S., Yasuoka, R., Yodogawa, K., Aonuma, K., Ikeda, T., Minamino, T., Mitamura, H., Nogami, A., Okumura, K., Tada, H., Kurita, T., Shimizu, W.; Japanese Circulation Society and Japanese Heart Rhythm Society Joint Working Group.: JCS/JHRS 2024 Guideline Focused Update on Management of Cardiac Arrhythmias. *J Arrhythm* 41(3):e70033, 2025. *Circ J* 89(7):1012-1073, 2025.
20. Kandzari, D.E., Mahfoud, F., Townsend, R.R., **Kario, K.**, Weber, M.A., Schmieder, R.E., Tsioufis, K., Pocock, S., Liu, M., DeBruin, V., Brar, S., Böhm, M.: Long-Term Safety and Efficacy of Renal Denervation: 24-Month Results From the SPYRAL HTN-ON MED Trial. *Circ Cardiovasc Interv* 18(7):e015194, 2025.
21. **Kario, K.**, Akari, S., **Kanegae, H.**: Cardiovascular Events During Treatment With Xanthine Oxidoreductase Inhibitors in Patients With Gout and Hyperuricemia in Japan – A JMDC Claims Database Study. *Circ Rep* 7(3):183-190, 2025.
22. **Kario, K.**, Asayama, K., Arima, H., Matsumoto, C., Nakagawa, N., Nomura, A., Satoh, M., Shinohara, K., **Tomitani, N.**, Yamamoto, K., **Hoshide, S.**; JSH Working Group on new technology and BP monitoring systems for better management of hypertension.: Digital hypertension – what we need for the high-quality management of hypertension in the new era. *Hypertens Res* 48(12):3130-3146, 2025.
23. **Kario, K.**, **Hoshide, S.**, **Kabutoya, T.**, **Nishizawa, M.**, Yamagiwa, K., Kawashima, A., **Fujiwara, T.**, Nakazato, J., Yoshida, T., Negishi, K., Matsui, Y., Sekizuka, H., Abe, Y., Fujita, Y., Hashizume, T., **Morimoto, T.**, **Nozue, R.**, **Kanegae, H.**: Impact of vascular biomarkers and supine hypertension on cardiovascular outcomes in hypertensive patients: first results from the Cardiovascular Prognostic COUPLING Study in Japan. *Hypertens Res* 48(2):693-701, 2025.
24. **Kario, K.**, **Hoshide, S.**, Mogi, M.: Hypertension Research global initiatives 2025 added new themes-”implementation hypertension” and ”morning hypertension”. *Hypertens Res* 48(3):877-878, 2025.

25. **Kario, K.**, Ito, S., Itoh, H., Rakugi, H., Okuda, Y., Yamakawa, S.: Efficacy of Esaxerenone Plus a Renin-Angiotensin System Inhibitor or Calcium Channel Blocker for Nocturnal Hypertension: A Post Hoc Analysis. *Am J Hypertens* 38(8):605-611, 2025.

26. **Kario, K.**, Kandzarim D.E., Mahfoud, F., Weber, M. A., Schmieder, R.E., Tsioufis, K., Liu, M., Böhm, M., Townsend, R.R.: Two-year nighttime blood pressure changes after radiofrequency renal denervation: pooled results from the SPYRAL HTN trials. *Hypertens Res* 48(6):1951-1962, 2025.

27. **Kario, K.**, Kanegae, H., Hoshide, S.: Home blood pressure stability score is associated with better cardiovascular prognosis: data from the nationwide prospective J-HOP study. *Hypertens Res* 48(2):604-612, 2025.

28. **Kario, K.**, Katsuya, T., Shimosawa, T., Taguchi, T., Tanabe, A., Ohishi, M.; ESCORT-HT investigators: Rationale and Design of a Randomized, Open-Label, Parallel-Group Study of Esaxerenone Versus Angiotensin Receptor Blockers in Older Patients With Uncontrolled Hypertension on Calcium Channel Blocker Monotherapy (ESCORT-HT). *J Clin Hypertens (Greenwich)* 27(1):e14947, 2025.

29. **Kario, K.**, Nishiyama, A., Shibata, S., Arima, H., Furuhashi, M., Ichihara, A., Ishida, M, Katsuya, T., Kishi, T., Miura, K., Miura, S.I., Mogi, M., Ohishi, M., Shibata, H., Shimosawa, T., Sugawara, A., Tamura, K., Toyoda, K., Yamamoto, K., Node, K.: Digital hypertension, implementation hypertension, and internationalization - 3 pillars of Japanese Society of Hypertension 2024-2026 advancing hypertension science from Japan to the world in the information network era. *Cardiovasc Hypertens Res* 48(1):1-5, 2025.

30. **Kario, K.**, Nishiyama, A., Shibata, S., Mogi, M., Arima, H., Kishi, T., Ishida, M., Furuhashi, M., Ichihara, A., Katsuya, T., Miura, K., Miura, S., Node, K., Ohishi, M., Shibata, H., Shimosawa, T., Sugawara, A., Tamura, K., Toyoda, K., Yamamoto, K.; the Promoting Committee for Morning Hypertension Eradication.: Declaration for the eradication of morning hypertension. *Hypertens Res*

48(9):2287-2289, 2025.

31. **Kario, K.**, Nishiyama, A., Shibata, S., Mogi, M., Arima, H., Kishi, T., Ishida, M., Furuhashi, M., Ichihara, A., Katsuya, T., Miura, K., Miura, S., Ohishi, M., Shibata, H., Shimosawa, T., Sugawara, A., Tamura, K., Toyoda, K., Yamamoto, K., Hoshide, S., Nakagawa, N., Tomita, H., Tanaka, A., Hozawa, A., Hatta, T., Nomura, A., Kabayama, M., Rakugi, H., Ohya, Y., Node, K.; Promoting Committee of the Eradication of Morning Hypertension.: The JSH Morning Hypertension Eradication Program Project. *Hypertens Res* 48(11):2771-2780, 2025.
32. **Kario, K.**, Ohbayashi, H., Hashimoto, M., Itabashi, N., Kato, M., Uchiyama, K., Hirano, K., Nakamura, N., Miyamoto, T., Nagashima, H., Kajiyama, S., Ishida, H., Imai, E., Ebe, Y., Ohishi, M., Katsuya, T., Taguchi, T., Tanabe, A., Shimosawa, T.; EXCITE-HT investigators.: Home blood pressure-lowering effect of a non-steroidal mineralocorticoid receptor blocker, esaxerenone, versus trichlormethiazide for uncontrolled hypertension: the EXCITE-HT randomized controlled study. *Hypertens Res* 48(4):1586-1598, 2025.
33. **Kario, K.**, Ohbayashi, H., Hashimoto, M., Itabashi, N., Kato, M., Uchiyama, K., Hirano, K., Nakamura, N., Miyamoto, T., Nagashima, H., Ishida, H., Ebe, Y., Hatta, T., Fukui, T., Shimosawa, T., Katsuya, T., Taguchi, T., Tanabe, A., Ohishi, M.; EXCITE-HT investigators.: Home blood pressure-lowering effect of esaxerenone versus trichlormethiazide for uncontrolled hypertension: a predefined subanalysis of the EXCITE-HT randomized controlled trial by basal calcium channel blocker versus angiotensin receptor blocker. *Hypertens Res* 48(2):506-518, 2025.
34. **Kario, K.**, Ohya, Y.: Synchronizing science and society: JSH2025 Guidelines × "Asakatsu BP" action - Morning Blood Pressure 130 Campaign. *Hypertens Res* 48(10):2512-2514, 2025.
35. **Kario, K.**, Okawara, Y., Kanegae, H., Tomitani, N., Hoshide, S.: Peak nocturnal home blood pressure as an early and strong novel risk factor for stroke: the

- practitioner-based nationwide J-HOP Nocturnal BP study. *Hypertens Res* 48(2):622-631, 2025.
36. **Kario, K., Okawara, Y., Kanegae, H., Tomitani, N., Hoshide, S.:** Relationship Between Home Blood Pressure Monitoring-Confirmed Resistant Hypertension and Cardiovascular Prognosis. *Hypertension* 82(12):2241-2251, 2025.
 37. **Kario, K., Tomitani, N.,** Haimoto, K., **Narita, K.,** Komi, R., Koba, S., Shimizu, H., Ohbayashi, H., **Fujiwara, T., Kabutoya, T.,** Kihara, H., Sekizuka, H., **Mizuno, H.,** Abe, Y., Haimoto, H., **Harada, K., Hoshide, S.:** Concept, study design, and baseline nighttime blood pressure control status of the WISDOM-Night Study using a wrist-type oscillometric home blood pressure monitoring device. *Hypertens Res* 48(2):592-603, 2025.
 38. **Kario, K., Tomitani, N., Harada, N., Fujiwara, T., Hoshide, S.:** Time-Space Network Hypertension in the Digital Era – Update From Jichi Medical University Hypertension Study. *Circ J* 89(12):1839-1848, 2025.
 39. **Kario, K., Tomitani, N., Hoshide, S.:** Validation of the A&D BP UA-1100NFC/UA-1100NFC-W, hoseless upper arm-type home blood pressure devices, according to the ISO81060-2:2018/Amd 1:2020 protocol. *Blood Press Monit* 30(3):130-135, 2025.
 40. **Kario, K.:** Achievement rate of blood pressure control <130/80 mmHg as the core metric of implementation hypertension, based on the new JSH2025 and AHA/ACC2025 guidelines. *Hypertens Res* 48(11):2784-2788, 2025.
 41. **Katsurada, K.:** Interaction between SGLT2 and the sympathetic nervous system in normal and various cardiovascular metabolic disease states. *Hypertens Res* 48(7):2072-2078, 2025.
 42. Kishi, T., Miura, K., Sakima, A., Takemi, Y., Shimosawa, T., Matsumoto, C., **Kario, K.:** How to manage water and salt intake during the hot summer of 2025.

Hypertens Res 48(11):2789-2791, 2025.

43. **Komori, T., Hoshide, S., Kario, K.**: The prognostic impact of home blood pressure measurements in patients with stage B heart failure. *Hypertens Res* 48(5):1779-1786, 2025.
44. Kulkarni, S., Parati, G., Bangalore, S., Bilo, G., Kim, B.J., **Kario, K.**, Messerli, F., Stergiou, G., Wang, J., Whiteley, W., Wilkinson, I., Sever, P.S.: Blood pressure variability: a review *J Hypertens*. 43(6):929-938, 2025.
45. **Kurihara, A., Harada, K., Wachi, S., Sato, M., Kario, K.**: Ruptured Caseous Calcification of the Mitral Annulus With Left Ventricular-Left Atrial Fistula Formation Causing Hemolytic Anemia. *Echocardiography* 42(8):e70265, 2025.
46. Liu, J., Brettler, J., Ramirez, U.A., Walsh, S., Sangapalaarachchi, D., **Narita, K.**, Byfield, R.L., Reynolds, K., Shimbo, D.: Home Blood Pressure Monitoring. *Am J Hypertens* 38(4):193-202, 2025.
47. Liu, J., Li, Y., Asayama, K., Zhang, X.J., Cheng, H.M., Park, S., **Kario, K.**, Mirrakhimov, E., Wang, J.G.: Asian Expert Consensus on Nocturnal Hypertension Management. *Hypertension* 82(6):945-956, 2025.
48. Mahfoud, F., Townsend, R.R., Kandzari, D.E., Mancina, G., Whitbourn, R., Lauder, L., Bhatt, D.L., **Kario, K.**, Schmieder, R.E., Schlaich, M., Fahy, M., Böhm, M.: Long-Term, Patient-Level Analysis of Radiofrequency Renal Denervation in the SYMPPLICITY Clinical Trial Program. *JACC Adv* 4(3):101606, 2025.
49. **Makimoto, H.**: Waist Circumference as a Superior Predictor of Atrial Fibrillation Compared to Body Mass Index? *ACC Asia* 5(1):140-142, 2025.
50. **Makimoto, H.**, Sasabuchi, Y., **Kabutoya, T., Kohro, T.**, Yamana, H., **Oba, Y., Imai, Y., Kario, K.**, Sato, H., Kiyosue, A., Mizuno, Y., Nochioka, K., Nakayama, M., Iwai, T., Miyamoto, Y., Ishii, M., Nakamura, T., Tsujita, K., Akashi, N.,

- Fujita, H., Yasunaga, H., Matoba, T., Nagai, R.; CLIDAS-PCI Research Group.: Preventive Effects of Prasugrel on Cerebrovascular Events Following Percutaneous Coronary Intervention. *Stroke* 56(8):2101-2109, 2025.
51. **Makimoto, H.**, Yamana, H., Isogai, T., Matsui, H., Fushimi, K., Yasunaga, H., **Kohro, T.**: Association Between Periprocedural Anticoagulation in Ventricular Tachycardia Ablation and Postprocedural Stroke and Intracranial Hemorrhage. *JACC Asia* 5(4):595-598, 2025.
 52. Matoba, T., Katsuki, S., Nakano, Y., Kawahara, T., Kimura, M., Hino, R., Tabuchi, T., Fukata, M., Hieda, M., Yamashita, T., Nakashima, N., **Kohro, T.**, **Kabutoya, T.**, **Oba, Y.**, **Kario, K.**, **Imai, Y.**, Fujita, H., Akashi, N., Kiyosue, A., Mizuno, Y., Kodera, S., Nakayama, M., Nochioka, K., Miyamoto, Y., Iwai, T., Tsujita, K., Nakamura, T., Ishii, M., Sato, H., Matoba, Y., Nagai, R.; CLIDAS Research Group.; Efficacy and Safety of High-Intensity Statins in Japanese Patients After Percutaneous Coronary Intervention – Insights From the Clinical Deep Data Accumulation System (CLIDAS®)). *Circ J* 89(8):1204-1215, 2025.
 53. **Mizuno, H.**, **Harada, K.**, **Fujimura, K.**, **Kario, K.**: Infective rupture of caseous calcification of the mitral annulus resulting in fatal systemic embolism. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 26(4):766, 2025.
 54. **Mizuno, H.**, **Kario, K.**: Gut Butyrate and Blood Pressure: Insights From Recent Clinical Trials. *J Am Heart Assoc* 14(17):e044128, 2025.
 55. Mogi, M., **Hoshide, S.**, **Kario, K.**: Participating in ISH 2024. *Hypertens Res* 48(3):879, 2025.
 56. Mogi, M., **Hoshide, S.**, **Kario, K.**: Intensive blood pressure control <130/80 mmHg is recommended for prevention of MCI and dementia from the New JSH2025 and AHA/ACC2025 guidelines. *Hypertens Res* 48(12):3065-3066, 2025.

57. Motoki, H., Kuwahara, K., Uchida, H.A., Wada, J., **Kario, K.**, Katsuya, T., Shimosawa, T., Tsujita, K., Suzuki, S., Suedomi, T., Taguchi, T.: Efficacy and safety of esaxerenone with and without sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor use in hypertensive patients with type 2 diabetes mellitus: a pooled analysis of five clinical studies. *Hypertens Res* 48(11):2924–2937, 2025.

58. Morita, H., Abe, M., Suematsu, Y., Uehara, Y., Koyoshi, R., Fujimi, K., Ideishi, A., Takata, K., Kato, Y., Hirata, T., Yahiro, E., Morito, N., Kitajima, K., Satoh, A., Yoshimura, C., Ishida, S., Okutsu, S., Takahashi, K., Shinohara, Y., Sakaguchi, T., Katsuki, S., Tada, K., Fujii, T., Funakoshi, S., Hu, Y., Satoh, T., Ohnishi, H., Okamura, K., **Mizuno, H.**, Arakawa, K., Asayama, K., Ohtsubo, T., Ishigami, T., Shibata, S., Fujita, T., Munakata, M., Ohishi, M., Ichihara, A., Katsuya, T., Mukoyama, M., Rakugi, H., Node, K., Arima, H., Miura, S.I.: Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials. *Hypertens Res* 48(2):733–743, 2025.

59. **Narita, K.**: Single pill combination therapy for hypertension management: Clinical benefits and considerations. *Trends Cardiovasc Med* 35(8): 504–505, 2025.

60. **Narita, K., Hoshide, S., Kario, K.**: Utility of urinary sodium-to-potassium ratio for identifying individuals at elevated risk of heart failure. *Hypertens Res* 48(10):2727–2729, 2025.

61. **Narita, K.**, Yuan, Z., Yasui, N., **Fujiwara, T., Mizuno, H., Komori, T., Hoshide, S., Kario, K.**: Estimation of echocardiographic cardiac function using pulse waveform analysis derived from ambulatory blood pressure monitoring. *Blood Press Monit* 30(6):287–294, 2025.

62. Nishiyama, C., Yoshimura, S., Taniguchi, T., Amano, T., Ando, H., Homma, Y., Imamura, T., Itoh, T., Kiguchi, T., Kiyohara, K., Konno, S., **Makimoto, H.**, Manabe, T., Matsuzawa, Y., Mitamura, H., Niwamae, N., Sakuma, M., Sato, K.,

- Satoh, Y., Tahara, Y., Tsujita, K., Tsukada, Y.T., Uchida, M., Ueda, Y., Iwami, T.: Strategies for Reducing Sudden Cardiac Death by Raising Public Awareness – A Statement From the Education and Implementation for Cardiac Emergency Committee of the Japanese Circulation Society. *Circ J* 25;89(3):394–418, 2025.
63. **Oba, Y., Kabutoya, T., Kohro, T., Imai, Y., Kario, K.,** Sato, H., Nochioka, K., Nakayama, M., Akashi, N., Fujita, H., Mizuno, Y., Kiyosue, A., Iwai, T., Miyamoto, Y., Nakano, Y., Ishii, M., Nakamura, T., Tsujita, K., Matoba, T., Nagai, R.; CLIDAS research group.: Achievement of guideline-recommended target blood pressure is associated with reducing the risk of hemorrhagic and ischemic stroke in Japanese coronary artery disease patients –the CLIDAS study. *Hypertens Res* 48(2):632–639, 2025.
64. **Oba, Y.,** Kumamaru, H., **Hoshide, S.,** Kohsaka, S., Shimamura, K., Ohno, Y., **Sato, M., Kobayashi, H., Funayama, H., Harada, K., Kawahito, K., Kario, K.:** Valve-in-Valve TAVR for Degenerated Surgical Valves in Patients With Small Aortic Annuli: A Report From a Japanese Nationwide Registry. *Circ Cardiovasc Interv* 18(7):e015087, 2025.
65. **Okuyama, T., Watanabe, T., Hoshide, S., Suda, N., Watanabe, H., Kamioka, M., Makimoto, H., Yokota, A., Komori, T., Kabutoya, T., Imai, Y., Kario, K.:** Impact of diagnosis-to-ablation time on rhythm outcome after catheter ablation for paroxysmal versus non-paroxysmal atrial fibrillation. *Int J Cardiol* 439:133667, 2025.
66. Otsuka, Y., Ishii, M., Ikebe, S., Tokai, T., Nakamura, T., Tsujita, K., Akashi, N., Fujita, H., Nakano, Y., Matoba, T., **Kohro, T., Oba, Y., Kabutoya, T., Kario, K., Imai, Y.,** Kiyosue, A., Mizuno, Y., Nochioka, K., Nakayama, M., Iwai, T., Miyamoto, Y., Sato, H., Nagai, R.; CLIDAS research group.: Long-term bleeding events post-percutaneous coronary intervention in patients with malignancy with and without anticoagulant therapy. *Cardiovasc Interv Ther* 40(4):796–806, 2025.

67. Ozawa, T., Suzuki, H., Miyata, T., Kameda, T., Kobari, T., Tetsuka, M., Arai, F., Ohtani, K., Miyawaki, T., Nagai, M., Hashimoto, M., Fujiwara, T., **Kario, K.**, Kawai, K., Fujimoto, S., Tanaka, R.: Untreated and uncontrolled hypertension in Japanese patients with spontaneous intracerebral hemorrhage. *Hypertens Res* 48(4):1575–1585, 2025.

68. Parati, G., Pengo, M.F., Avolio, A., Azizi, M., Bothe, T.L., Burnier, M., Cappuccio, F.P., Sierra, A., Fava, C., Gironacci, M.M., **Hoshide, S.**, **Kario, K.**, Kollias, A., Lombardi, C., Maiolino, G., Maule, S., Narkiewicz, K., Ohkubo, T., Palatini, P., Pepin, J.L., Sarafidis, P., Schutte, A.E., Silvani, A., Stergiou, G., Verdecchia, P., Mancia, G., Bilo, G.; ESH Working Group on Blood Pressure Monitoring and Cardiovascular Variability.: Nocturnal blood pressure: pathophysiology, measurement and clinical implications. Position paper of the European Society of Hypertension. *J Hypertens* 43(8):1296–1318, 2025.

69. Patel, T.A., **Katsurada, K.**, Zheng, H., Patel, K.P.: Degradation of nNOS in the PVN of rats with heart failure: role of CHIP. *Hypertension* 82(8):1292–1302, 2025.

70. Pilz, N., Narkiewicz, K., Wolf, J., **Kario, K.**, Visser, T., Opatz, O.S., Reuter, A., Dippel, L.J., Fessler, L., Heinz, V., Patzak, A., Bothe, T.L.: Blood pressure measurement and nocturnal dipping patterns are heavily affected by body posture through changes in hydrostatic pressure between the arm and the heart. *Hypertens Res* 48(3):1144–1154, 2025.

71. Sakamoto, T., Mitsuyama, S., Nagasawa, T., **Kario, K.**, Ozawa, S.: The difference in arterial baroreflex sensitivity between the supine and standing positions in healthy subjects. *J Physiol Sci* 75(1):100006, 2025.

72. **Sato, M.**, **Harada, K.**, Yoshinaga, K., Seki, K., Kawahito, K., **Kario, K.**; PROTECT investigators.: Enhancement of posterior mitral leaflet imaging quality during the MitraClip procedure using one-lung ventilation. *Cardiovasc Interv*

Ther 40(4):1027-1028, 2025.

73. Sato, T., Saito, Y., Aoki, J., Yamamoto, E., Maekawa, Y., **Kario, K.**, Kozuma, K., Kobayashi, Y.: Renal Denervation for Hypertension – Mechanisms, Evidence, and Clinical Integration. *Circ J* 2025 Dec 27. doi: 10.1253/circj.CJ-25-1042., 2025.
74. Schmieder, R.E., Hettrick, D.A., Böhm, M., Kandzari, D.E., **Kario, K.**, Mahfoud, F., Tsioufis, K., Weber, M.A., Esler, M.D., Townsend, R.R.: Novel approaches to define responders to interventional treatment in hypertension: insights from the SPYRAL HTN-OFF and HTN-ON MED trials. *Hypertens Res* 48(1):327-335, 2025.
75. Schmieder, R.E., Mahfoud, F., Mancina, G., Townsend, R.R., Kandzari, D.E., **Kario, K.**, Bhatt, D.L., Whitbourn, R., Liu, M., Böhm, M.; Impact of baseline systolic blood pressure on blood pressure changes following renal denervation. *EuroIntervention* 21(21):e1281-e1287, 2025.
76. Shimada, T., Fukuda, D., Shibata, A., Ito, A., Otsuka, K., Okamura, H., Matoba, T., **Kohro, T.**, **Oba, Y.**, **Kabutoya, T.**, **Imai, Y.**, **Kario, K.**, Kiyosue, A., Mizuno, Y., Nochioka, K., Nakayama, M., Iwai, T., Miyamoto, Y., Ishii, M., Nakamura, T., Tsujita, K., Sato, H., Akashi, N., Fujita, H., Nagai, R.; CLIDAS Research Group.: Risk stratification of net adverse clinical events using CHADS-P(2)A(2)RC and CHADS(2) scores in chronic coronary syndrome patients without atrial fibrillation: Insights from the CLIDAS-PCI. *Int J Cardiol* 437:133464, 2025.
77. **Shimizu, H.**, **Hoshida, S.**, **Funayama, H.**, **Kario, K.**: Difference in the Association between Growth Differentiation Factor 15 and Coronary Calcified Plaque According to Chronic Kidney Disease. *Int Heart J* 66(4):540-546, 2025.
78. Stergiou, G.S., Kyriakoulis, K.G., Kollias, A., McManus, R.J., Menti, A., Parati, G., Schutte, A.E., Wang, J., Asayama, K., Asmar, R., Bilo, G., Chapman,

N., Fujiwara, T., Head, G., Kahn, N., **Kario, K.**, Li, Y., Manios, E., Marigliis, D., Mihailidou, A.S., Muntner, P., Myers, M., Niiranen, T., Ohkubo, T., Omboni, S., Protogerou, A., Saladini, F., Sharman, J., Shimbo, D., De, La, Sierra, A., Palatini, P.: Blood pressure measurement at kiosks in public spaces: systematic review and consensus statement by the European Society of Hypertension Working Group on Blood Pressure Monitoring and Cardiovascular Variability endorsed by the International Society of Hypertension and the World Hypertension League. *J Hypertens* 43(4):577–588, 2025.

79. Suematsu, Y., Morita, H., Abe, M., Uehara, Y., Koyoshi, R., Fujimi, K., Ideishi, A., Takata, K., Kato, Y., Hirata, T., Yahiro, E., Morito, N., Kitajima, K., Yano, Y., Satoh, A., Yoshimura, C., Ishida, S., Okutsu, S., Takahashi, K., Shinohara, Y., Sakaguchi, T., Katsuki, S., Tada, K., Fujii, T., Funakoshi, S., Hu, Y., Satoh, T., Ohnishi, H., Okamura, K., **Mizuno, H.**, Arakawa, K., Asayama, K., Ohtsubo, T., Ishigami, T., Shibata, S., Fujita, T., Munakata, M., Ohishi, M., Ichihara, A., Katsuya, T., Mukoyama, M., Rakugi, H., Node, K., Arima, H., Miura, S.I.: Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis. *Hypertens Res* 48(2):720–732, 2025.

80. Suzuki, T., Nagasu, H., Ebara, T., Kagiya, N., Kishi, T., Yano, Y., **Kario, K.**, Nishiyama, A., Arima, H., Kawai, F., Shibata, S., Node, K., Mizuno, A.: Unraveling the Implications of Digit Bias in Digital Health – A Literature Review. *Intern Med* 15;64(14):2090–2099, 2025.

81. Tabata, K., Sudo, T., Nagata, Y., Ihara, K., Asada, K., Kinoshita, A., Tanaka, Y., Yamauchi, Y., Sasaki, T., **Hachiya, H.**, **Imai, Y.**, Fujita, H., Sasano, T., Furukawa, T., Iwata, T., Tanaka, T.: Rare genetic variants involved in increased risk of paroxysmal atrial fibrillation in a Japanese population. *Sci Rep* 15(1):13216, 2025.

82. Tamaki, S., Higaki, A., Kawakami, H., Nishimura, K., Inoue, K., Ikeda, S.,

- Yamaguchi, O., Akashi, N., Matoba, T., **Kohro, T., Kabutoya, T., Kario, K.,** Kiyosue, A., Nakayama, M., Miyamoto, Y., Tsujita, K., Fujita, H., Nagai, R.: Usefulness of the AHEAD score for prediction of all-cause death in patients with acute and chronic coronary syndromes. *Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev* 26:200457, 2025.
83. Tokai, T., Ishii, M., Otsuka, Y., Ikebe, S., Nakamura, T., Tsujita, K., Akashi, N., Fujita, H., Nakano, Y., Matoba, T., **Kohro, T., Oba, Y., Kabutoya, T., Kario, K., Imai Y.,** Kiyosue, A., Mizuno, Y., Nochioka, K., Nakayama, M., Iwai, T., Miyamoto, Y., Sato, H., Nagai, R.; CLIDAS Research Group.; Proton Pump Inhibitor Use, Gastrointestinal Bleeding Reduction, and Long-Term Prognosis After Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol* 252:78-87, 2025.
84. **Tomitani, N.:** Challenges in monitoring nighttime blood pressure. *Hypertens Res* 48(4):1649-1651, 2025.
85. **Tomitani, N., Hoshide, S., Kario, K.:** Response to: Correspondence on 'Utility of 24-hour ambulatory blood pressure monitoring for detecting masked hypertension and masked uncontrolled hypertension' by Espeche et al. *Hypertens Res* 48(1):446-447, 2025.
86. **Tomitani, N., Hoshide, S., Kario, K.:** Comparison of nocturnal blood pressure dipping status detected by home vs. ambulatory blood pressure monitoring: analysis of J-HOP Nocturnal BP Study data. *Hypertens Res* 48(3):1163-1168, 2025.
87. **Tomitani, N., Hoshide, S., Kario, K.:** Effect of Nocturia and Sleep Quality on Sleep Blood Pressure: The HI-JAMP Study. *Hypertension* 82(12):2208-2217, 2025.
88. **Tomitani, N., Kario, K.:** Wearable devices for physical activity: limited impact on blood pressure, unlimited potential for health innovation. *Hypertens Res* 48(10):2735-2736, 2025.

89. Uchida, H.A., Wada, J., Motoki, H., Kuwahara, K., **Kario, K.**, Katsuya, T., Shimosawa, T., Tsujita, K., Suzuki, S., Suedomi, T., Taguchi, T.: Efficacy and safety of esaxerenone in hypertensive patients with chronic kidney disease, with or without type 2 diabetes mellitus: a pooled analysis of five clinical studies. *Hypertens Res* 48(9):2413–2426, 2025.
90. **Wachi, S., Harada, K., Suzuki, Y., Kario, K.**: Transesophageal Echocardiography-related Gastric Bleeding after Transcatheter Aortic Valve Implantation. *Intern Med* 64(9):1442–1443, 2025.
91. **Wachi, S., Narita, K., Fujiwara, T., Komori, T., Hoshide, S., Kario, K.**: Association of home blood pressure with asymptomatic Stage B heart failure determined by cardiac biomarkers. *Hypertens Res* 48(10):2654–2663, 2025.
92. **Waki, H., Harada, K., Suzuki, Y., Aoyama, Y., Sato, M., Wachi, S., Ishiyama, Y., Ogata, Y., Kawahito, K., Kario, K.**: One-Week Postoperative Valvuloarterial Impedance as a Predictor of Left Ventricular Hypertrophy Regression 1 Year After Surgical Aortic Valve Replacement in Patients With Aortic Stenosis. *Circ Rep* 7(6):473–480, 2025.
93. Walsh, S., Choi, E., Fang, C., **Narita, K.**, Cepeda, M., Frangaj, B., Kim, S., Mercado, Y., Nesheim-Case, R., Ramirez, U.A., Barret, M., Schwartz, J.E., Shimbo, D.: The diagnostic accuracy of using borderline high office blood pressure thresholds to diagnosis masked hypertension according to the 2017 American College of Cardiology/American Heart Association blood pressure guideline. *Am J Hypertens* 38(5):288–294, 2025.
94. **Watanabe, N., Harada, K., Kawai, S., Kobayashi, H., Kario, K.**: Pathologic Evidence of Granulomatosis With Polyangiitis as a Cause of Atrioventricular Block. *JACC Case Rep* 33;30(21):104414, 2025.
95. Yamamoto K, Yarimizu D, Shimanishi A, Eguchi S, Iekushi K, Takami Y, Nozato Y, **Kario, K.**, Rakugi, H.: Efficacy and Safety of Sacubitril/Valsartan Versus

Amlodipine in Japanese Patients With Essential Hypertension: A Randomized, Multicenter, Open-Label, Noninferiority Study (PARASOL Study). *J Clin Hypertens (Greenwich)* 27(1):e14938, 2025.

(B) 学会発表 (2025 年)

◆「国内学会・国際学会」◆

1. **Abe K**, Watanabe T, Okuyama T.: 一般演題口述 Atrial/Supraventricular Arrhythmia Ablation 2: Characteristics of Patients with Non-pulmonary Vein Foci in Repeated Catheter Ablation for Atrial Fibrillation. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
2. **朝日善治**, 小森孝洋, 星出聡, 苅尾七臣: 一般演題 (ポスター) 20 心臓 3: HFrEF に対する 24 時間血圧測定は心不全治療薬の導入に有用である。 第 47 回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
3. Derington C, Berchie RO, Greene T, Jacobs JA, Moran A, Xu Y, **Narita K**, Zheutlin AR, Cohen JB, Shimbo D, Bress AP.: Moderated digital poster: Effect of intensive versus standard systolic blood pressure control for primary prevention of cardiovascular disease by PREVENT risk score levels: A secondary analysis of SPRINT. American College of Cardiology 74th Annual Scientific Session & Expo (ACC), Chicago, IL, 2025/3/29-31.
4. **藤村研太**, 甲谷友幸, 関 満, 久保田香菜, 今井靖, 苅尾七臣, 古井貞浩, 鈴木峻, 岡健介, 佐藤智幸, 金子政弘, 岡徳彦: 一般演題: ASD デバイス閉鎖時のヘパリン投与量と ACT に関与する因子。 第 26 回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会, 神戸, 2025/1/10-12.
5. **Fujiwara T**, Hoshide S, Kario K.: Poster: Association Between Nocturnal Hypertension and Composite Cardiovascular Outcomes in Extremely Elderly Population Aged ≥ 80 Years. 第 89 回日本循環器学会総会, 横浜, 2025/3/28-30.
6. **Fujiwara T**, Katherine L Tucker, Paul A Bateman, Cynthia Wright-Drakesmith, Simon de Lusignan, Gary A Ford, Richard FD Hobbs, Jonathan Mant, Brian McKinstry, Stephanie Pollock, Cathy Rice, Yaling Yang, Paul Stevens, Hernan Guidi, and Richard J McManus.: Oral: Effectiveness of a Novel Digital Intervention in Reducing Home Blood Pressure in Hypertensive Patients: Insights from a Real-World Observational Study. 34th European Meeting on

Hypertension and Cardiovascular Protection (ESH2025), Milano, 2025/5/23-26.

7. **藤原健史**: 第23回ダイバーシティ・フォーラム Beyond Borders: そのキャリア、国内限定でいいの?: 地域医療から海外留学へ. 第276回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/6/14.
8. **Fujiwara T**, Hoshide S, Kario K.: Poster: Association between nocturnal hypertension and composite cardiovascular outcomes in the extremely elderly population aged ≥ 80 years. European Society of Cardiology Congress 2025 (ESC 2025), Madrid, 2025/8/30-9/1.
9. **Fujiwara T**, Hoshide S, Kario K.: Poster: Home blood pressure control status altered the cardiovascular prognosis associated with left ventricular hypertrophy in a Japanese nationwide general practice population: The J-HOP Study. Poster, European Society of Cardiology Congress 2025 (ESC 2025), Madrid, 2025/8/30-9/1.
10. **藤原健史**: 一般演題 疫学4(Oral): 認知症患者における転倒およびその他の重篤な有害事象と降圧薬使用との関連: 観察コホート研究. Oral, 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
11. **Fujiwara T**, Makimoto H, Hiroike H, Itou S, Wachi S, Aoyama Y, Yokota A, Suzuki N, Komori T, Okura A, Makimoto A, Iwami T, Kario K.: Oral: Validation of Daytime and Nighttime Heart Rates Measured by a Wearable Device and the Impact of Physical Activity. 第71回日本不整脈心電学会学術大会 (JHRS2025), 横浜, 2025/11/12-15.
12. **藤原健史**: Oral: 血圧テレモニタリングが切り拓く先制医療 — 実臨床から社会実装への道. 第26回日本医療情報学会学術大会(JMCI2025), 姫路, 2025/11/12-15.
13. Gundsambuu N, **Katsurada K**, Mori S, **Imai Y.**: 優秀発表賞審査セッション2: Elucidation of neuropathological mechanisms in

Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome and its therapeutic application.
第 46 回日本臨床薬理学会学術総会，東京，2025/12/5-6.

14. **平田悠翔**，船山大，清水勇人，小古山由佳子，大場祐輔，篠原肇，佐藤雅史，鈴木規泰：口演 6 ACS: Stanford A 型大動脈解離に対する上行大動脈置換術後に異常構造物による冠動脈塞栓を来し 吸引カテーテルで救命した一例．第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会，東京，2025/5/10.
15. 廣池英紀，**藤原健史**，青山泰，横田彩子，鈴木規泰，小森孝洋，牧元久樹，**苅尾七臣**，大倉綾子，石見拓：一般演題 デバイス：ウェアラブルデバイスで測定した心拍数の精度の検証．第 276 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/6/14.
16. **星出聡**：予防委員会企画セッション 循環器病予防 Up to Date 一次予防から二次予防まで：血圧管理 Up to Date．第 277 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/9/13.
17. **今井靖**：特別企画：遺伝子検査と遺伝子カウンセリング．第 11 回日本心不全学会心筋症研究会，山形県天童市，2025/5/10.
18. **今井靖**：市民公開講座 動脈硬化を防いで日本を元気にしよう：動脈硬化性疾患における薬物療法とカテーテル・外科治療の実際．日本動脈硬化学会，札幌医科大学，2025/10/24.
19. **今井靖**，志賀剛，植田真一郎：シンポジウム 9 医学教育に Prescribing safety assessment(PSA)をどう取り込むか：PSA (prescription safety assessment) Japan CBT トライアル昨年度の結果と今年度の実施体制．第 46 回日本臨床薬理学会学術集会，東京，2025/12/5.
20. **石山裕介**，和地純佳，鈴木悠介，小形幸代，甲谷友幸，原田顕治，**苅尾七臣**：ディベート：右左シャントのスクリーニングにおける経胸壁心エコー図の有用性．第 1 回日本脳神経超音波と栓子検出学会学術総会，宇都宮，2025/6/13-14.

21. **岩間春佳**, 大場祐輔, 鈴木規泰, 佐藤雅史, 小林久也, 小古山由佳子, 清水勇人, 荻尾七臣: 一般演題: DOAC 中和が契機となった急性心筋梗塞に対する治療経験. 第 66 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/10/11.
22. **甲谷友幸**: シンポジウム 4: New JCDTR からのエビデンス: 心サルコイドーシスのデバイス適応を考える. 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会, 福岡国際会議場, 2025/2/21-22.
23. **Kabutoya T**, Matoba T, Nakayama M, Yasuda S, Kohro T, Imai Y, Makimoto H, Kario K, Fujita H, Koderu S, Hiroi Y, Iwata H, Sakata Y, Fukuda D, Kitai T, Yamaguchi O, Node K, Tsujita K, Sato H, Nagai R; CLIDAS research group.: Plenary Session II (Emer/Med Policy/New Fields) Medical Digital Twin in the Society 5.0: Toward Building a Database of Japanese Heart Failure Patients and a Sustainable Research System through Industry-Academia Collaboration -CLIDAS-HF Database-. 第 89 回日本循環器学会学術集会, パシフィコ横浜, 2025/3/28-30.
24. **Kabutoya T**, Imai Y, Kario K.: ポスター (英語): Broad P is associated with heart failure rehospitalization in patients with a history of heart failure. EHRA 2025, Wien Messe, 2025/3/30-4/1.
25. **甲谷友幸**: シンポジウム 2: リアルワールド電子カルテ情報を用いた循環器病の研究. 第 61 回日本循環器病予防学会学術集会, 佐賀大学, 2025/5/24-25.
26. **甲谷友幸**: シンポジウム: 循環器内科医からみた卵円孔閉鎖術の課題と今後の展望. 第 1 回日本脳神経超音波と栓子検出学会総会, 宇都宮ライトキューブ, 2025/6/13-14.
27. **甲谷友幸**, 星出聡, 荻尾七臣: 一般演題 疫学 4: 心血管リスク患者の flat T の心電図所見は心血管イベントに関連している. 第 47 回日本高血圧学会総会, 東京 KABUTO ONE, 2025/10/17-19.

28. **甲谷友幸**：心電学フロンティア 2025：理系脳と文系脳で考える心電図P波．第71回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2025，パシフィコ横浜，2025/11/12-15．
29. Kameda S, **Makimoto H, Fujiwara T**, Kikuchi T, **Kario K, Kohro T**, Miyashita H.: Poster: Impact of Abnormal ECG and Blood Pressure Findings in Health Check-ups on Cardiovascular Care. 第89回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30．
30. Kameda S, **Yokota A, Komori T, Kabutoya T.**: Poster: Impact of Abnormal Electrocardiogram Findings on Cardiovascular Care: Findings from 15 Years of Health Check-ups. EHRA 2025, Vienna, Austria, 2025/3/30-4/1．
31. Kameda S, **Makimoto H, Fujiwara T**, Kikuchi T, **Kario K, Kohro T**, Miyashita H.: e-Poster: Impact of Annual Health Check-ups for the Detection and Improvement of High Blood Pressure. ESC Congress 2025, Madrid, Spain, 2025/8/30-9/1．
32. Kameda S, **Makimoto H, Fujiwara T**, Kikuchi T, **Kario K, Kohro T**, Miyashita H.: Moderated Poster: Impact of Abnormal Findings in Health Check-ups on Medical Care: Findings from 15 Years of Health Check-ups. ESC Congress 2025, Madrid, Spain, 2025/8/30-9/1．
33. **亀田聡子, 牧元久樹, 藤原健史, 菊地智博, 興梠貴英, 宮下洋**：ポスター：健康診断でのスクリーニングが、高血圧および糖・脂質代謝異常者の抽出とコントロール改善に与える影響．ポスター，第47回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19．
34. **Kamioka M**, Okuyama T, Watanabe H, Yokota A, Watanabe T, Komori T, Kabutoya T, Imai Y, Kario K.: Poster: HP-SD ablation reduces epicardial conduction gaps after PVI and high unipolar voltage areas can predict epicardial connection sites. 第89回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30．
35. **Kamioka M**, Watanabe T, Watanabe H, Makimoto H, Okuyama T, Yokota A, Komori T, Kabutoya T, Imai Y, Kario K.: Poster: Evaluation of the Efficacy and

Feasibility of Unipolar Voltage Criteria for Left Atrial Posterior Wall Isolation in Patients with Long-Standing Persistent Atrial Fibrillation. Heart Rhythm 2025, San Diego, 2025/4/24-27.

36. 神谷茂之, 河村出, 里中利帆, 甲谷友幸, 藤村研太, 久保田香菜, 今井靖, 苅尾七臣, 横溝亜希子, 関 満: Student Award: ファロー四徴症術後患者の心臓超音波検査、MRI 所見の比較検討. 第 275 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/2/8.
37. 苅尾七臣: シンポジウム 2 日本高血圧学会との合同 脳心腎連関と変貌する降圧療法: 腎デナベーション治療に寄せる期待. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025/3/6-8.
38. 苅尾七臣: プレナリーセッション 8 Digital Hypertension は循環器病予防に有用かどうか: Digital Hypertension: Evidence and Perspectives. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
39. 苅尾七臣: Fireside Seminar 5 未来の高血圧診療: ここまできた高血圧最新治療. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
40. 苅尾七臣: Late breaking Clinical Trials 2 Atherosclerosis and Risk Factors: Home Blood Pressure-Lowering Effect of Esaxerenone vs Trichlormethiazide for Uncontrolled Hypertension: A Subanalysis of the EXCITE-HT Study by Age Subgroup. 第 89 回年次学術集会日本循環器学会, 横浜, 2025/3/28-30.
41. 苅尾七臣: Special Lecture14: Time-space Network Hypertension in the Digital Era. 第 89 回年次学術集会日本循環器学会, 横浜, 2025/3/28-30.
42. Kario K.: Joint Session CHL-JSH-WHL-ESH WORLDWIDE GUIDELINES The Japanese hypertension guidelines Time at disposal. European Society of Hypertension, Milano, 2025/5/23-26.
43. Kario K.: Poster presentation and Discussion: EFFICACY PREDICTION SCORE OF

HYPERTENSION DIGITAL THERAPEUTICS: THE BEHAVIORAL MODIFICATION INDEX (B-INDEX) STUDY Day of presentation. European Society of Hypertension, Milano, 2025/5/23-26.

44. **荻尾七臣**：高血圧の最新治療：腎デナベーションを含めて。第 72 回日本内科学会四国支部生涯教育講演会，WEB，2025/5/25.
45. **荻尾七臣**：会長企画シンポジウム I 2050 年の未来医療予想図（パート I）：未来構想・パーフェクト 24 時間血圧コントロールへ。第 25 回日本抗加齢医学会総会，大阪，2025/6/13-15.
46. **荻尾七臣**：シンポジウム 6 我が国の AI の実用化と課題：「時空間ネットワーク高血圧学」に基づくデジタルハイパーテンション研究の展望。第 7 回メディカル AI 学会シンポジウム，京都，2025/6/27-28.
47. **荻尾七臣**：RDN の適正使用指針（3 学会合同案）から臨床導入 Up-to-date。第 33 回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会，大阪，2025/7/17-19.
48. **荻尾七臣**：いよいよ腎デナベーション！3 学会で頑張ろう！！～適応指針（案）と高血圧腎デナベーション治療チームの役割～。第 33 回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会，大阪，2025/7/17-19.
49. **荻尾七臣**：ランチョンセミナー3 Renal Denervation in Asia: 2025 Asia Renal Denervation Consortium (ARDeC) Consensus Statement: Clinical evidence and guidelines for RDN。第 33 回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会，大阪，2025/7/17-19.
50. **荻尾七臣**：アフタヌーンセミナー 高血圧管理・治療ガイドライン 2025 が導く新しい高血圧マネジメント：高血圧治療補助アプリがもたらしている変化とは～B-index 研究の最新成績を含めて～。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.

51. **荻尾七臣**：シンポジウム 14 高血圧関連疾患治療薬のブレイクスルー：高血圧治療：今後の展望。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
52. **荻尾七臣**：シンポジウム 17：アプリ・ウェアブル・オンライン 高血圧デジタル診療の現状と未来（生成 AI や EDC データ臨床・研究への応用も含めて）：高血圧デジタル療法における効果予測スコアの検討：The Behavioral Modification INDEX(B-INDEX)研究。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
53. **荻尾七臣**：スポンサードシンポジウム 4 睡眠時無呼吸と高血圧 ～最新のガイドラインとエビデンス～：2025 JSH ガイドラインと夜間高血圧の最新エビデンス。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
54. **荻尾七臣**：スポンサードシンポジウム 6 RDN の実臨床への導入：適正使用指針（案）の Overview。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
55. **荻尾七臣**：スポンサードシンポジウム 11 家庭血圧モニタリングの新展開：高血圧管理と心房細動リスク評価の最前線：家庭血圧計による早朝高血圧管理の現状と将来展望。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
56. **荻尾七臣**：モーニングセミナー3 新しく市販される夜間家庭血圧計：最新情報と実装症例：夜間高血圧測定の世界動向。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
57. **荻尾七臣**：ランチョンセミナー3 Renal Denervation in Asia: 2025 Asia Renal Denervation Consortium (ARDec) Consensus Statement: Clinical evidence and guidelines for RDN。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
58. **荻尾七臣**：ランチョンセミナー6 RDN mission: the path to well-being: いよいよ腎デナベーション！3 学会で頑張ろう！！～高血圧治療ガイドライン 2025・腎デナベーション適正使用指針～。第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19。
59. **荻尾七臣**：一般演題（口演）薬物療法 I：降圧不十分な本態性高血圧患者に対す

るエサキセレノンとトリクロルメチアジドの早朝家庭血圧に及ぼす降圧効果の比較研究：EXCITE-HT 研究 NT-proBNP 値別サブ解析．第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.

60. **荻尾七臣**：理事長講演 日本高血圧学会 Up-To-Date：実装高血圧学とデジタルハイパーテンションが創る未来へ．第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.

61. **荻尾七臣**：特別講演 2 妊娠と高血圧管理：家庭血圧、高血圧デジタル療法を含めて．第 45 回日本妊娠高血圧学会学術集会，東京，2025/10/18-19.

62. **荻尾七臣**：シンポジウム 52 地域・職域における新たな高血圧対策：日本高血圧学会からの提案：『血圧朝活！』全国キャンペーンの提案．第 84 回日本公衆衛生学会総会，静岡，2025/10/29-31.

63. **荻尾七臣**：2025 HOPE Asia Hypertension Guideline. Chinese Hypertension Meeting, WEB, 2025/10/31-11/2.

64. **荻尾七臣**：HOPE Asia Network Blood Pressure Targets in Relation to JSH 2025 and AHA/ACC 2025 Guidelines. Chinese Hypertension Meeting, WEB, 2025/10/31-11/2.

65. **荻尾七臣**：Wearables in Hypertension Management Advances and Perspectives. Chinese Hypertension Meeting, WEB, 2025/10/31-11/2.

66. **荻尾七臣**：基調講演：もしもの時に備える“健康の防災”－高血圧と日々の暮らしのつながり－．第 46 回世界健康フォーラム 2025，京都，2025/12/19.

67. **桂田健一**：ティータイムセミナー RDN mission: the path to well-being: 高血圧診療チームによる治療抵抗性高血圧マネジメント．高血圧フォーラム 2025，広島，2025/5/17-18.

68. **桂田健一**：Hypertension Research Update and Perspectives 2025: Renal

Denervation. Hypertension Research Update and Perspectives 2025, 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.

69. **桂田健一**: スポンサーシップシンポジウム 6 RDN の実臨床への導入: 高血圧腎デナベーション治療 (HRT) チームとチェックシートの活用. スポンサーシップシンポジウム 6 RDN の実臨床への導入, 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
70. **桂田健一**: 教育講演 11: 治療抵抗性高血圧の治療戦略: アップデート. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
71. **桂田健一**: 自律神経生理研究会共催ミニシンポジウム: 腎臓を支配する自律神経と循環調節. 第78回日本自律神経学会総会, 名古屋, 2025/10/24-25.
72. **木下真緒**, 小古山由佳子, 三玉唯由季, 鈴木規泰, 篠原肇, 大場祐輔, 清水勇人, 船山大, 荻尾七臣: 一般演題 セッション3 不整脈/末梢血管/肺高血圧: 下肢閉塞性動脈硬化症に対する EVT を施行し生体腎移植に成功した一例. 第275回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/2/8.
73. **Kobayashi H.**: TAVI complex cases: Emergent TAVI for cardiogenic shock due to aortic stenosis in a patient with human immunodeficiency virus infection. PCR Tokyo Valves 2025, 東京, 2025/2/7-9.
74. **小林久也**: VR シミュレーションで行った PCI 症例. PCI Optimization by Physiology And Imaging, WEB, 2025/9/12-13.
75. **光山千智**, 渡辺直生, 岩間春佳, 久保田香菜, 石山裕介, 横田彩子, 小形幸代, 原田顕治, 荻尾七臣: 一般演題セッション4 静脈: 妊娠契機の静脈血栓症に対して先天性 AT-Ⅲ欠損症とヘパリン起因性血小板減少症を考慮して対応した一例. 第278回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/12/20.
76. **Komori T**, Hoshide S, Kario K.: Poster Session (English) 39 (HF/CM) Heart Failure(Laboratory/Biomarkers) I: Risk Stratification of Stage B Heart Failure for Future Heart Failure Event. 第89回日本循環器学会学術集会, 横

浜, 2025/3/28-30.

77. **小森孝洋**: 研究委員会企画シンポジウム: 登山医学の研究活動の支援について
個人でも参加しやすい研究スタイルとは? 第45回日本登山医学会学術集会, 石巻市, 2025/6/7-8.
78. **小森孝洋**: シンポジウム4 心不全パンデミックを防ぐ! ステージA、Bからの予防戦略: 心血管予後改善のための心不全ステージA/Bに対する血圧管理. 第29回日本心不全学会学術集会, 米子市, 2025/10/10-12.
79. **小森孝洋**: Hypertension Research Update and Perspectives 2025: Heart+Cardiovascular. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
80. **栗原綾乃**: ポスターセッション (日本語) 27 (HF/CM) Heart Failure (Pathophysiology) I: Short-term Prognostic Impact of Orthostatic Hypertension in Elderly Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
81. **桑原政成**: 会長企画セッションII 循環器診療の未来を考える: 官民連携での循環器病対策の推進を願って. 第275回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/2/8.
82. **Kuwabara M.**: Plenary Session 5 (Basic Res) Exploring Cardiac Energy Metabolism for Innovative Heart Failure Therapies: Effects of Xanthine Oxidase Inhibitors (XOI) on ATP Storage and XOI Withdrawal Syndrome. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
83. **桑原政成**: 教育セッションIII-2: 心血管疾患と尿酸ー高血圧から心房細動まで. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
84. **桑原政成**: スポンサーシンポジウム2 高血圧合併高尿酸血症の病態と治療: 高血圧管理・治療ガイドライン2025の内容も踏まえた、尿酸管理の重要性. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.

85. **桑原政成**：日本痛風・尿酸核酸学会合同シンポジウム 高尿酸血症と家庭血圧（早期血圧）：JSH2025 を踏まえた、高尿酸血症・痛風の管理。第47回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
86. **牧元久樹**：シンポジウム AI を不整脈臨床・研究にどう生かす：AI を利用した研究テーマの探索と立案。第5回日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会，東京，2025/1/18.
87. **牧元久樹**：ランチョンセミナー8 CRT の”本質”を再考する-SmartCRT の最新エビデンスを踏まえて-：CRT 管理編「Heart Logic 将来への期待」。第17回植込みデバイス関連冬季大会，福岡，2025/2/21-22.
88. **Makimoto H.**：Oral Presentation (English)
37(Arrhythmia)Atrial/Supraventricular Arrhythmia Exploring Patient Profiles in Atrial Fibrillation Ablation: A High-Density Mapping and Machine Learning Approach. 第89回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30.
89. **牧元久樹**，荻尾七臣：シンポジウム 12「AI と心臓リハビリテーションの未来」：高血圧治療補助アプリによる血圧コントロール。第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，名古屋，2025/7/19-20.
90. **Makimoto H**, Kohro T, Yamashita T, Suzuki S, Okumura K, Kario K.: Moderated Poster on behalf of ANAFIE Investigators: Switch, Stop, or Continue? Data-Driven Guidance for Oral Anticoagulation in Japanese Patients with Atrial Fibrillation $\geq$ aged 75 years: Insights from the ANAFIE Registry. AHA Scientific Sessions 2025, New Orleans, USA, 2025/11/7-10.
91. **Makimoto H**, Morishima I, Fukaya H, Nitta J, Hayashi Y, Kimura M, Sato K, Sakamoto Y, Inaba O, Inamura Y, Mizukami Y, Takahashi Y.: Poster: Impact of Fibrillatory Electrograms from Left Atrium to Predict Defibrillation Threshold in Persistent Atrial Fibrillation. 第71回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2025, 横浜, 2025/11/12-15.

92. **Makimoto H.**: Session: How to utilize the device diagnostics for HF management?: What have we learn from CorVue™ System? Present and Future. 第71回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2025, 横浜, 2025/11/12-15.
93. **Makimoto H.**: Session: What is the best management of arrhythmia in patients with heart failure?: Primary Prevention of Sudden Cardiac Death. 第71回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2025, 横浜, 2025/11/12-15.
94. **牧元久樹**: Symposium 12 誘導心電図の機械学習: 心電図に内包される心機能低下シグナルはどこにあるのか? 人工知能を用いた解明. 第71回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2025, 横浜, 2025/11/12-15.
95. **水野裕之**, 原田顕治, 藤村研太, 山中祐子, 去川睦子, 石山裕介, 小形幸代, 苅尾七臣: 症例 感染性心内膜炎(口述): 乾酪様僧帽弁輪石灰化の感染性破裂が致死的な全身性塞栓症を引き起こした1例. 日本超音波医学会第98回学術集会, 京都, 2025/6/1.
96. **Narita K**, Reynolds K, Wei R, Harrison TN, Cannavale K, Qian L, Bowling BC, Fang C, Muntner P, Schwartz JE, Sim JJ, Shimbo D.: Poster: Association Between Postprandial Hypotension Determined by Ambulatory Blood Pressure Monitoring and Falls Among Older Adults with Hypertension Who Are Taking Antihypertensive Medication: Results from the AMBROSIA Study. AHA Hypertension Scientific Session 2025, Baltimore, MD, 2025/9/4-7.
97. **Narita K**, Hoshide S, Fujiwara T, Tomitani T, Kario K.: Moderated digital poster: Prevalence of Masked Hypertension Assessed by Home Blood Pressure Monitoring According to AHA PREVENT Risk Estimation Among Japanese Outpatients. AHA Scientific Session 2025, New Orleans, USA, 2025/11/7-10.
98. **西澤匡史**, 星出聡, 苅尾七臣: 一般演題(ポスター) 17 血圧変動3: 新規家庭血圧遠隔モニタリングシステムの特徴とシステムの利用が病状の経過観察に有用であった上室性頻拍の一例. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.

99. **丹羽薫那**, 渡邊裕昭, 鈴木規泰, 佐藤雅史, 桂田健一, 苅尾七臣: 一般演題 セッションII 不整脈2: 器質的心疾患の鑑別が重要であったHis束近傍起源心室頻拍の1例. 第277回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/9/13.
100. **納富那菜**, 原田顕治, 新保昌久, 苅尾七臣, 澤城大悟, 桂田健一: Resident Award: トランスサイレチン型心アミロイドーシス治療効果指標としてのピロリン酸シンチグラムの可能性. 第276回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/6/14.
101. **小淵雄大**, 甲谷友幸, 藤村研太, 久保田香菜, 今井靖, 苅尾七臣, 関 満: Case Report Award: 2度の出産の経過を追えた one and a half repair の1例. 第275回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/2/8.
102. **Ogoyama Y.**: Case Report Session (English) 4 (HF/CM) Heart Failure (Non-pharmacology): A Case of Successful PTR for Heart Failure Due to Transplant Renal Artery Stenosis after 18 Years of Transplantation. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
103. **Sato M.**: (Valve-in-valve TAVI): Valve-in-valve TAVI for degenerated surgical valves in patients with small aortic annuli. EuroPCR, Paris, 2025/5/20-23.
104. **佐藤雅史**: YIA 審査口演4 M-TEER 症例: I + II群 PH 合併重症 DMR に肺血管拡張薬先行後 MitraClip を施行した1例. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション, 横浜, 2025/12/5-6.
105. **澤城大悟**, 五家里栄, 中村大輝, 杉山史弘, 今井靖: シンポジウム5 循環器薬物療法の進歩と課題: 地域医療ネットワーク・チーム医療に根差した心不全診療(会議録). 第46回日本臨床薬理学会学術集会, 東京, 2025/12/5.
106. **清水勇人**, 星出聡, 船山大, 苅尾七臣: ポスターセッション Atherosclerosis: Difference association between growth differentiation factor 15 and coronary calcified plaque according to the presence of chronic kidney disease. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.

107. **住茜音**, 甲谷友幸, 小森孝洋, 星出聡, 苅尾七臣: 一般演題 セッション2 心不全2: 心不全患者における心電図自動解析のST変化と心血管イベントの関連. 第276回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/6/14.
108. **鈴木規泰**, 船山大, 苅尾七臣, 大場祐輔, 小古山由佳子, 清水勇人, 渡辺直生, 佐藤雅史, 青山泰: A Case of Recurrent Stent Thrombosis Following PCI for STEMI Due to Plaque Protrusion and Heparin-Induced Thrombocytopenia. 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT2025 学術集会, 大阪, 2025/7/17-19.
109. **鈴木規泰**: Acute and Subacute Stent Thrombosis with Different Pathophysiological Mechanisms After STEMI in a Single Coronary Artery. ESC 2025, Madrid, Spain, 2025/8/29-9/1.
110. **Suzuki Y.**: Poster Session (English) 66 (Surg/SHD) Valvular Heart Disease 7: Diagnostic Accuracy for Valvular Heart Disease with a New Phonocardiography Device. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
111. **高橋慧**, 指導医: 甲谷友幸: JCSEARLYCAREERCHAMPIONSHIP: Association of Cardiovascular Events and Electrocardiographically Assessed Left Ventricular Hypertrophy in Hypertensive Patients with or without Chronic Kidney Disease. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
112. **Tomitani N**, Hoshida S, Kario K.: Oral: The effect of sleep disturbance on blood pressure during sleep assessed by a multisensor blood pressure monitoring device: results from the HI-JAMP study baseline data. 34th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection (ESH2025), Milano, 2025/5/23-26.
113. **富谷奈穂子**, 星出聡, 苅尾七臣: 一般演題 (口演) 血圧: マルチセンサー血圧計で評価した夜間尿の「睡眠血圧」への影響: HI-JAMP 研究. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.

114. **富谷奈穂子**, 星出聡, 桂田健一, 藤原健史, 苅尾七臣: 一般演題(ポスター): 多様な睡眠習慣における上腕式ホースレス家庭夜間血圧計で測定した「睡眠血圧」. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
115. **富谷奈穂子**: モーニングセミナー 新しく市販される夜間家庭血圧計: 最新情報と実装症例: 新規夜間家庭血圧計の開発と実装症例. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
116. **土屋亨規**, 石山裕介, 藤村研太, 渡邊裕昭, 横田彩子, 上岡正志, 小形幸代, 苅尾七臣, 谷 礁, 石澤彩子: 一般演題 セッション12 心筋炎・心筋症I: 心不全徴候を初発症状とした抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の1例. 第275回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/2/8.
117. **和地純佳**: ポスターセッション(日本語) I4(IMG)Echo/Doppler I: Postoperative Valvuloarterial Impedance as a Predictor of Left Ventricular Hypertrophy Regression One-year after Surgical Aortic-Valve Replacement in Aortic Stenosis Patients. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
118. **Watanabe H.**: Oral Presentation (English) 2I (Edu/Res/Epid/Clin Res) Obesity, Metabolic Syndrome and Diabetes: Prognosis of Malignant Phenotype of Obesity Defined by Cardiac Biomarker in Hypertension: The Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
119. **渡邊裕昭**, 奥山貴文, 横田彩子, 上岡正志, 小森孝洋, 渡部智紀, 牧元久樹, 甲谷友幸, 今井靖, 苅尾七臣: 口述 日本語: 左房天蓋部と左上肺静脈を繋ぐ unusual vein に電氣的伝導性を認めた発作性心房細動の1例. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連大会 2025, 那覇市, 2025/5/29-31.
120. **Watanabe H**, Kabutoya T, Okuyama T, Yokota A, Kamioka M, Komori T, Watanabe T, Makimoto H, Imai Y, Kario K.: Oral English: The Impact of IHB burden and NT-proBNP on Left Atrial Remodeling Using a Home Blood Pressure Monitor in Patient with AF. The 71st Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society, The 18th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, 横浜,

2025/11/12-15.

121. **渡辺直生**, 小古山由佳子, 小淵雄大, 鈴木規泰, 佐藤雅史, 篠原肇, 清水勇人, 濱本耕平, 船山大, 苅尾七臣: ポスター: VA-ECMO 導入後の内胸動脈・肋間動脈損傷に対して経カテーテル的動脈塞栓術を行った5症例についての検討. 第52回日本集中治療学会総会, 福岡, 2025/3/14-16.
122. **Watanabe N**, Kamioka M, Sawaki D, Aoyama Y, Komori T, Kario K.: Oral/Secondary Cardiomyopathy: The Clinical Impact of Steroid Pulse Therapy on Outcome in Patients with Fulminant Myocarditis. 第89回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2025/3/28-30.
123. **Watanabe T.**: Poster: Difference of impact of atrial natriuretic peptide on rhythm outcome after catheter ablation among atrial fibrillation types. 第71回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2025, 横浜, 2025/11/12-15.
124. **横田彩子**, 甲谷友幸, 星出聡, 苅尾七臣: ベストアブストラクト賞: 心血管リスクを有する患者における自動解析された広いP波幅と心血管イベントとの関連. 心電学関連春季大会 2025, 京都, 2025/4/26.
125. **横田彩子**, 甲谷友幸, 星出聡, 苅尾七臣: 一般演題: 心血管リスクを持つ患者における自動解析されたP波持続時間および左室肥大と心血管イベントとの関連. 第47回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
126. **弓田馨之**, 上岡正志, 奥山貴文, 渡邊裕昭, 牧元久樹, 渡部智紀, 横田彩子, 小森孝洋, 甲谷友幸, 今井靖, 苅尾七臣: e-Poster: Multipolar マップが心室頻拍基質の描出に有効であった Electrical storm を来した亜急性心筋梗塞の一例. カテーテルアブレーション関連大会 2025, 沖縄, 2025/5/29-31.
127. **Yumita Y**, Kamioka M, Okuyama M, Watanabe H, Yokota A, Watanabe T, Komori T, Makimoto H, Kabutoya T, Imai Y, Kario K.: Poster: Impact of Hepatitis C Virus Infection on the Clinical Characteristics of Atrial Fibrillation and the Outcomes of Catheter Ablation Therapy. 第71回日本不整脈心電学会学術大会

/APHR2025, 横浜, 2025/11/12-15.

◆「座長・コメンテーター・ディスカッサント」◆

1. 船山大：座長：口演 10 ACS：第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会，東京，2025/5/10.
2. 星出聡：座長：一般演題 セッション 3 虚血性心疾患 I：第 277 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/9/13.
3. Satoshi Hoshide：Chairs：スポンサードシンポジウム 3：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
4. 星出聡：座長：Hypertension Research Update and Perspectives 2025：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
5. 星出聡：座長：シンポジウム 14 高血圧関連疾患治療薬のブレイクスルー：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
6. 星出聡：座長：一般演題（口演）20 循環器 4：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
7. 今井靖：座長：一般演題 セッション 3 不整脈/末梢血管/肺高血圧：第 275 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/2/8.
8. 今井靖：審査員：コメディカル賞【検査・治療】：第 89 回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28.
9. 今井靖：コメンテーター：一般演題 セッション 11 肺高血圧：第 276 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/6/14.
10. 今井靖：座長：教育講演 5 がん薬物療法に関連する不整脈の予測、治療：第 71 回日本不整脈心電学会学術集会・アジア太平洋不整脈学会 JHRS2025/APHR2025

(共同開催)，横浜，2025/11/13.

11. **今井靖**：座長：英語口述 anticoagulation：第 71 回日本不整脈心電学会学術集会・アジア太平洋不整脈学会 JHRS2025/APHRS2025 (共同開催)，横浜，2025/11/14.
12. **今井靖**：座長：Symposium 99 不整脈薬物療法の新展開 基礎・臨床の話題から：第 71 回日本不整脈心電学会学術集会・アジア太平洋不整脈学会 JHRS2025/APHRS2025 (共同開催)，横浜，2025/11/15.
13. **今井靖**：座長：シンポジウム 5 循環器薬物療法の進歩と課題：第 46 回日本臨床薬理学会学術集会，東京，2025/12/5.
14. **今井靖**：座長：シンポジウム 11 海外研修制度を振り返って：第 46 回日本臨床薬理学会学術集会，東京，2025/12/5.
15. **今井靖**：座長：シンポジウム 21 循環器領域の遺伝子検査：第 46 回日本臨床薬理学会学術集会，東京，2025/12/6.
16. **今井靖**：座長：一般演題 セッション 6 不整脈 2：第 278 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/12/20.
17. **甲谷友幸**：座長：リードレスペースメーカー Oral Session：第 17 回植込みデバイス関連冬季大会，福岡国際会議場，2025/2/21-22.
18. **甲谷友幸**：座長：一般演題 (口演) 4：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，KABUTO ONE，2025/10/17-19.
19. **荻尾七臣**：座長：Luncheon Seminar20 循環器イベントゼロに向けた総合医的視点からの新高血圧管理～便秘治療を含めて～：第 89 回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30.
20. **荻尾七臣**：座長：スポンサードシンポジウム 11 家庭血圧モニタリングの新展開：高血圧管理と心房細動リスク評価の最前線：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，

2025/10/17-19.

21. **荻尾七臣**：座長：スポンサードシンポジウム 12 肥満症と治療抵抗性高血圧：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
22. **荻尾七臣**：座長：ランチョンセミナー14 高血圧診療に携わる医師が知っておきたい肥満症の最新知見：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
23. **荻尾七臣**：座長：モーニングセミナー2 心臓と血管の連関を意識した高血圧診療：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
24. **荻尾七臣**：座長：モーニングセミナー3 新しく市販される夜間家庭血圧計：最新情報と実装症例：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
25. **荻尾七臣**：座長：プレナリーセッション 8(Emer/MedPolicy/NewFields) Digital Hypertension は循環器病予防に有用かどうか：第 89 回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30.
26. **荻尾七臣**：座長：Fireside Seminar5 未来の高血圧診療：第 89 回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30.
27. **荻尾七臣**：座長：会長講演 DNA 損傷と血管：炎症と老化の視点から：高血圧フォーラム 2025，広島，2025/5/17-18.
28. **荻尾七臣**：座長：会長講演 日本高血圧学会～プロレニンとボクと、時々、レニン～：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
29. **荻尾七臣**：座長：教育講演 12 災害地域における医療支援活動とその研究倫理：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.
30. **荻尾七臣**：総括発言：シンポジウム 14 高血圧関連疾患治療薬のブレイクスルー：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17-19.

31. **苅尾七臣**: Chairs: スポンサーシップシンポジウム 1: 第 47 回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
32. **苅尾七臣**: 座長: スポンサーシップシンポジウム 4 睡眠時無呼吸と高血圧～最新のガイドラインとエビデンス～: 第 47 回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
33. **桂田健一**: 座長: シンポジウム 16 知っておきたい最近話題の高血圧成因: 第 47 回日本高血圧学会総会, 東京, 2025/10/17-19.
34. **桑原政成**: 座長: 循環器病対策推進セッション: 第 276 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/6/14.
35. **桑原政成**: コメンテーター: 一般演題 セッション 13 心筋炎・心筋症 1: 第 276 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/6/14.
36. **桑原政成**: 座長: 循環器病対策推進セッション: 第 277 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/9/13.
37. **桑原政成**: 座長: 循環器病対策推進セッション: 第 278 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/12/20.
38. **Hisaki Makimoto**: commentator: The Good, the Bad and the Ugly of Cardiovascular Evidence, Luebeck, Germany, 2025/9/2.
39. **牧元久樹**: 座長: 第 23 回ダイバーシティフォーラム: 第 276 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2025/6/14.
40. **水野裕之**: 座長: 一般演題(ポスター)20 心臓 3: 第 47 回日本高血圧学会総会, 東京都, 2025/10/19.
41. **Keisuke Narita**: AHA Early Career Speed Mentorship program, Invited-Mentor: AHA Scientific Session 2025, New Orleans, LA, 2025/11/7-10.

42. **大場祐輔**：コメンテーター：一般演題 セッション 10 虚血性心疾患 2：第 275 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2025/2/8.
43. **大場祐輔**：座長：一般演題口述 16 Acute Coronary Syndrome（急性冠症候群）：第 89 回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30.
44. **小古山由佳子**：座長：ポスターセッション 46 Atherosclerosis：第 89 回日本循環器学会学術集会，横浜，2025/3/28-30.
45. **小古山由佳子**：コメンテーター：EVT Live Demonstration 2：TOPIC 2025，浦安，2025/7/4-5.
46. **富谷奈穂子**：コメンテーター：Hypertension Research Update and Perspectives 2025：第 47 回日本高血圧学会総会，東京，2025/10/17.

◆「講演会・研究会」◆

2025 年 1 月 11 日（東京）第 33 回頻拍症カンファランスプログラム

今井靖：座長

牧元久樹：「心房細動の進化 欧州と日本の視点」

2025 年 1 月 23 日（Web）Medtronic Web discussion

渡部智紀：「冷凍エネルギーを活かした房室結節リエントリー性頻拍治療」

2025 年 1 月 23 日（自治医大/Web）第 2 回薬師寺肺高血圧症診療科連携カンファレンス

青山泰：ディスカッサント「肺高血圧の早期発見・早期治療介入を目指して」

2025 年 1 月 25 日（愛知県岡崎市）スマートウェルネス協議会・岡崎市開催
市民公開講座「老いは血管から」

今井靖：「「血管の老い」を防ぐ くすり」

2025 年 1 月 30 日（宇都宮/自治医大）心臓弁膜症治療連携セミナー

船山大：総合司会

市田勝：座長

大場祐輔：「T 左室流出路高度石灰化を伴う超重症 AS における TAVI の治療戦略：症例提示」

鈴木規泰：「TAVI の術前評価から術後管理」

2025 年 1 月 31 日（Web）とちぎ健康フォーラム

－はかろう、家庭血圧。まもろう、125/75mmHg 未満。－

荻尾七臣：「健康寿命延伸の為に必要なことは？」，「栃木県の特徴を考慮した最新高血圧治療 2025」

2025 年 1 月 31 日（Web）抗血栓療法 WEB セミナー

牧元久樹：「高齢患者の抗凝固療法を考える」

2025 年 2 月 4 日（Web）エリアで脳卒中を防ぐ会

牧元久樹：「脳卒中予防へ、心房細動治療からのアプローチ」

2025 年 2 月 13 日（下野/Web）第 7 回栃木県心臓核医学講演会

桂田健一：「症例検討」

2025 年 2 月 14 日（栃木市/Web）CHF Total Care Seminar 2025 in Tochigi

原田顕治：Opening Remarks

加倉井俊也：Lecture1 「心不全薬物治療の昔と今」

三玉唯由季：Lecture2 座長

石山裕介：「心不全治療における経皮的僧帽弁クリップ術の位置付け」

2025 年 2 月 22 日（Web）薬師寺心血管エコーセミナー

原田顕治：特別講演座長

齋藤俊祐：特別講演「心エコーガイド下の重症心不全管理：血行動態把握から補助循環の最適化、そして症例集約化に向けて」

三玉唯由季：座長

和地純佳：「拡張型心筋症のエコー診断のポイント」

渡辺直生：「心筋梗塞の機械的合併症のエコー診断のポイント」

2025 年 2 月 27 日 (Web) MEDTRONIC WEB Symposium

ディスカッションー臨床における心房細動治療戦略の検討ー

上岡正志：コメンテーター

2025 年 2 月 28 日 (Web) NEXT -New Generation Expert Meeting-

桂田健一：Special Lecture 「心腎連関を考慮した高血圧・心不全治療戦略」

石山裕介：Closing Remarks

2025 年 3 月 7 日 (自治医大/Web) Next Generation Forum

Evidence と実臨床のギャップ

大場祐輔：ディスカッション座長

石山裕介：ディスカッション座長

蓮見大樹：ディスカッサー

須田直樹：ディスカッサー

木下真緒：ディスカッサー

2025 年 3 月 9 日 (東京都/Web) 認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会 第 18 回成果報告会

小森孝洋：「高所滞在中の血行動態に自律神経が及ぼす影響についての検討」

2025 年 3 月 11 日 (筑西市) 真壁医師会学術講演会～心腎連関疾患と医療連携～

水野裕之：座長：オープニングリマークス、座長(演題 1、演題 2)

2025 年 3 月 12 日 (宇都宮/Web) 栃木県 SURI ネットフォーラム

東邦康智：「循環器診療と尿酸：残された課題の行方」

2025 年 3 月 14 日 (金沢/Web) Acid related diseases Symposium

大場祐輔：「経皮的冠動脈インターベンション後の抗血栓療法：出血リスクとその最適化」

2025 年 4 月 8 日（筑西市/Web）真壁医師会学術講演会 茨城県糖尿病登録医認定制度更新研修会

水野 裕之：「心腎イベント抑制を考慮した糖尿病治療戦略」

2025 年 4 月 14 日（練馬/Web）Clinical PCI Web Conference

大場祐輔：「Vulnerable Patients の最適な薬物治療」

2025 年 4 月 15 日（Web）脂質管理で連携する

苅尾七臣：症例発表座長

大場祐輔：「未治療プラークを見据えた積極的脂質管理：症例提示」

2025 年 4 月 17 日（宇都宮/Web）第 12 回 SHATS 談話会

苅尾七臣：開会の辞

2025 年 4 月 17 日（Web）虚血医の考える脂質管理 web seminar

大場祐輔：非責任病変を見据えた脂質管理」

2025 年 4 月 22 日（筑西市/Web）適正使用推進セミナー 心房細動編

水野裕之：「最新のガイドラインを踏まえた心房細動の薬物治療と非薬物治療」

2025 年 4 月 23 日（仙台市 良陵会館）第 207 回仙台心臓血管研究会

甲谷友幸：「成人先天性心疾患(ACHD)における不整脈マネジメント」

2025 年 5 月 10 日（Web）第 36 回 両毛不整脈セミナー

今井靖（当番幹事）：開会のご挨拶、一般演題座長、特別講演座長

藤原健史：「Validation of Daytime and Nighttime Heart Rates Measured by a Wearable Device and the Impact of Physical Activity.」

2025 年 5 月 16 日（広島市）2025 年世界高血圧デー記念イベント

苅尾七臣：皆さ～ん、血圧は「朝活」ですよ！

2025 年 5 月 16 日（Web）世界高血圧デーに降圧治療を考える～最新の高血圧治療～

星出聡：座長

**2025 年 5 月 16 日（筑西市/Web）真壁医師会学術講演会 CHF Total Care Seminar 2025
in Ibaraki**

原田顕治：Opening Remarks

水野裕之：「2025 年改訂版心不全診療ガイドラインと当院ハートチームの歩み」

石山裕介：「心不全治療における経皮的僧帽弁クリップ術の位置付け」

2025 年 5 月 21 日（東京）第 14 回関東アブレーションフロンティア

今井靖：「長時間記録パッチ型ホルター心電図～Heartnote の活用～」

2025 年 5 月 27 日（宇都宮）PCI Management Conference

大場祐輔：Session2 座長

土屋享規：パネリスト「ACS への取り組み・プロトコル・個別最適化の実践」

2025 年 6 月 10 日（神戸市）高血圧と心不全について考える会—in KOBE—

荻尾七臣：「高血圧治療の最前線 2025：ARNI の特徴と位置づけを含めて」

2025 年 6 月 12 日（自治医大/Web）TOCHIGI Cardiology Seminar 2025

—最適な心不全治療を再考する—

小森孝洋：Lecture 座長、症例提示&Discussion 司会

和地純佳：ディスカッサー「ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドが著効した HFgEF
の一例」

朝日善治：ディスカッサー「重症心不全に対する血行再建術後の心保護薬導入に難
渋した一例」

2025 年 6 月 13 日（Web）抗血栓療法と医療訴訟を考える会

牧元久樹：「抗血栓療法を考える～今の時代に大切なポイントは何か～」

2025 年 6 月 18 日（自治医大）第 54 回下野循環器研究会

新保昌久：開会の辞

小林久也：基調講演「大動脈弁狭窄症を合併した心不全患者の診断、治療を再考す
る」

甲谷友幸：一般演題座長

三玉唯由季：「高齢末期心不全患者の終末期医療における問題点について～安らかな

最期の為に我々が出来ること～」

渡邊裕昭：「リード抜去の実際」

苅尾七臣：閉会の辞

2025 年 6 月 20 日（下野市）第 10 回 栄養管理研修会

苅尾七臣：「高血圧治療の最前線」

2025 年 6 月 23 日（北九州）産業医科大学大学院講義

牧元久樹：「循環器領域での医療データ研究 AI 技術の活かし方を考える」

2025 年 6 月 26 日（宇都宮/Web）心臓弁膜症治療連携セミナー

大場祐輔：総合司会/Opening Remarks

三玉唯由季：座長

佐藤雅史：「ここまで出来る TAVI～外科生体弁機能不全に対する TAVI～」

船山大：Closing Remarks

2025 年 6 月 26 日（南相馬市）相双循環器カンファレンス

牧元久樹：「心房細動治療 2025」

2025 年 6 月 28 日（宇都宮市コンファレンスホール）第 12 回日本 ICD の会宇都宮講演会

甲谷友幸：「ICD 最近の話題」

2025 年 7 月 3 日（Web）Next Stage TAVI

～自施設でも活かせるハイボリュームセンターの取り組み～

小林久也：座長

2025 年 7 月 4 日（Web）VTE・CTEPH の最新治療を考える会

今井靖：特別講演座長

久保田香菜：「自治医大病院の肺高血圧診療」

2025 年 7 月 10 日（宇都宮/Web）KOWA WEB Seminar

大場祐輔：「脂質低下療法アップデート～動脈硬化性疾患の二次予防に向けて～」

2025 年 7 月 12 日（下野市）自治医科大学公開講座

苅尾七臣：「栃木県の循環器ヒートショックに備える！」

2025 年 7 月 17 日（宇都宮/Web）

新保昌久：座長

大場祐輔：「脂質低下療法アップデート～動脈硬化性疾患の二次予防に向けて～」

2025 年 7 月 28 日（Web）Obesity update seminar

苅尾七臣：座長

2025 年 7 月 28 日（関東/Web）AF×VTE フォーラム（ファイザー株式会社）

今井靖：「2024-2025 年の国内外の指針からみた心房細動トータルマネジメント～抗凝固療法を中心に～」

2025 年 7 月 29 日（Web）DDT3 Dcb match Des for Treating coronary

小林久也：症例提示「TBD」

2025 年 7 月 31 日（Web）第 14 回 TIJ Network Meeting

苅尾七臣：講演 1「高血圧診療ガイドライン 2025 の改定 point と ARNI の位置づけ」

新保昌久：講演 2 座長

藤原健史：講演 2「日常診療で診る高血圧患者をどう捉えるか？」

2025 年 8 月 5 日（Web）Hypertension Update Seminar in 栃木

苅尾七臣：「高血圧管理・治療ガイドライン 2025～MRA の位置付けも含めて～」

2025 年 8 月 19 日（Web）栃木県 SUR1 ネットフォーラム

東邦康智：「循環器診療と尿酸：残された課題の行方」

2025 年 8 月 21 日（Web）8th 栃木県心臓核医学講演会

新保昌久：司会

桂田健一：「症例検討」

2025 年 8 月 21 日 (Web) 人生 100 年時代の脳卒中・心臓病対策を考える

苅尾七臣：「JSH 高血圧管理・治療ガイドライン 2025 を活かした最新の高血圧治療」

2025 年 8 月 26 日 (宇都宮) PCI Management Conference

大場祐輔：座長

2025 年 8 月 28 日 (栃木市/Web) 重症心不全症例の地域連携 Meeting

～薬物療法から補助循環用ポンプカテーテル (IMPELLA) まで～

三玉唯由季：総合座長

木下真緒：「重症心不全症例から考える急性期および慢性期の心不全薬物治療」

渡辺直生：「Impella 5.5®による左室補助下に心不全に対する集学的治療を行い奏功した経験～重症心不全症例に対する県南地域における Hub and Spoke model について～」

2025 年 9 月 5 日 (宇都宮/Web) TAVI Round Table Discussion Evolut™ FX Procedure

大場祐輔：ディスカッサント

小林久也：症例提示 3

2025 年 9 月 9 日 (宇都宮) Meet the Expert ～Lesion Prep Academy～

小林久也：「多職種で進める脂質管理の重要性」

2025 年 9 月 9 日 (小山/Web) CHF Total Care Seminar 2025 in OYAMA

原田顕治：Opening Remarks

佐藤雅史：「心不全治療における経皮的僧帽弁クリップ術の位置付け」

2025 年 9 月 10 日 (Web) Cardiology and Diabetes Update Seminar

大場祐輔：総合座長

2025 年 9 月 11 日 (Web) TOCHIGI Cardiology KAMPO Web Conference

循環器領域 (心不全) における漢方薬の役割を考えるカンファレンス

小森孝洋：司会

2025 年 9 月 12 日 (Web) 心アミロイドーシス栃木医療連携セミナー

荻尾七臣：座長

原田顕治：「日常診療に潜む心アミロイドーシス～早期発見の可能性を探る～」

2025 年 9 月 12 日 (Web) 第 10 回 PCI Optimization by Physiology And Imaging (POPAI2025)

荻尾七臣：「高血圧治療の進化：腎デナベーションと MRA の統合的アプローチ」

2025 年 9 月 13 日 (熊本市) 第 16 回熊本心血管総合カンファレンス

荻尾七臣：「高血圧治療の最前線 2025：ARNI の特徴と位置づけを含めて」

2025 年 9 月 16 日 (Web) 高岡市内科医会学術講演会 ARNI Collaboration Seminar

荻尾七臣：「JSH 高血圧管理治療ガイドライン 2025 の改定ポイントと血圧朝活～ARNI の使い方も含めて～」

2025 年 9 月 17 日 (古河市) 古河赤十字病院 令和 7 年度市民公開講座

船山大：「狭心症・心筋梗塞治療の最前線」

2025 年 9 月 25 日 (筑西市/Web) 真壁医師会学術講演会 第 363 回 筑西支部研修会

水野裕之：「高血圧管理・治療ガイドライン 2025 の要点と実践」

2025 年 9 月 26 日 (宇都宮) STOP CVD！ Expert Meeting -PCI×血管内イメージング-

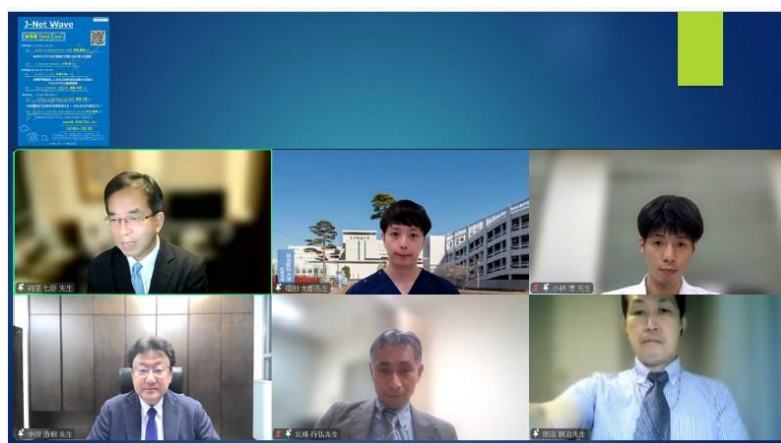
大場祐輔：「PCI×血管内イメージング 症例発表」

2025 年 10 月 7 日 (Web) J-Net Wave

荻尾七臣：特別講演座長

原田顕治：地域演題座長

福田太郎：「新専門医制度，J-OSLER 世代自治医大卒医のキャリアパスと地域診療」



2025 年 10 月 7 日 (Web) Obesity update seminar in Tochigi

新保昌久：座長

2025 年 10 月 9 日 (Web) たつの市・揖保郡医師会講演会

苅尾七臣：最新の高血圧治療 2025

2025 年 10 月 10 日 (宇都宮) Hypertension Forum

苅尾七臣：「高血圧管理・治療ガイドライン 2025～改定ポイントと臨床における応用～」

2025 年 10 月 10 日 (黒磯市) 自治医大脳卒中・心臓病 出張市民公開講座 in 県北

苅尾七臣：「心臓病について」

2025 年 10 月 14 日 (Web) 高血圧制圧 診療科連携 Web seminar

苅尾七臣：「JSH 高血圧管理・治療ガイドライン 2025 を活かした最新の高血圧治療」

2025 年 10 月 16 日 (Web) Atrium Symposium in Tochigi 2025

渡部智紀：演者/ディスカッサー

2025 年 10 月 16 日 (Web) 心臓を守るための脂質管理

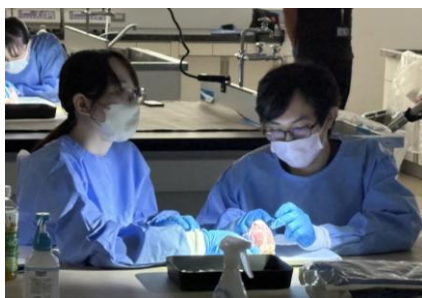
船山大：総合司会/Opening

篠原肇：「当院における ACS 治療の現状」

大場祐輔：「未治療プラークを見据えた積極的脂質管理」

2025 年 10 月 18 日 (自治医大/Web) 循環器関連セミナー 118th C.R.A.S in 栃木

渡部智紀：Chairperson



2025 年 10 月 20 日 (Web) 肺高症 WebSeminar

荻尾七臣：座長

久保田香菜：「当施設における肺高血圧症診療」

2025 年 10 月 20 日 (宇都宮) WCD ランチョンセミナー

牧元久樹：「心臓突然死を防ごう SCD PROTECT 試験から考える WCD の開始タイミングとは」

2025 年 10 月 23 日 (宇都宮/Web) FARAPULSE Webinar in Kitakanto

「PFA 時代の新標準：ICE を活用した AF 治療」

渡邊裕昭：コメンテーター

2025 年 10 月 24 日 (筑西市) 高血圧症講演会～新ガイドラインから読み解く高血圧治療～

水野裕之：座長：講演 I

2025 年 10 月 26 日 (札幌医科大学) 日本動脈硬化学会第 15 回市民公開講座 動脈硬化を防いで日本を元気にしよう

今井靖：「動脈硬化性疾患における薬物療法とカテーテル・外科治療の実際」

2025 年 10 月 27 日 (Web) ジャディアンス講演会 Cardio-Renal Seminar

荻尾七臣：座長

「高血圧治療の最前線～JSH2025 のポイントと実践～」

2025 年 10 月 27 日 (宇都宮/Web) 心不全治療の新時代－Fantastic Four をどう使いこなすか

三玉唯由季：ディスカッション「今日の慢性心不全治療を考える」

齋藤俊祐：特別講演座長

2025 年 10 月 30 日 (Web) Obesity update seminar

荻尾七臣：「肥満症と高血圧・循環器疾患」

2025 年 10 月 30 日（宇都宮/Web）第 235 回栃木県臨床循環器談話会

上岡正志：「心房細動治療の最前線：戦略とモダリティの最新知見」

2025 年 11 月 7 日（Web）Medtronic Web Conference

渡部智紀：ディスカッション「PulseSelect™のストラテジーを考える」

2025 年 11 月 8 日（東京）Fabry Disease Expert Meeting for Cardiologists

今井靖：「循環器領域における遺伝学的検査・カウンセリング ～ガイドライン改訂から 1 年を経て～」

2025 年 11 月 14 日（宇都宮/Web）Sumitomo Pharma Diabetes Seminar in 栃木

～循環器内科医が診る糖尿病治療～

荻尾七臣：座長

桂田健一：「交感神経亢進と心血管障害」、ディスカッサント

2025 年 11 月 20 日（Web）兵庫県内科医会学術講演会「内科学セミナー」

荻尾七臣：「JSH 高血圧管理治療ガイドライン 2025 の改定ポイントと血圧朝活～サクビトリルバルサルタンの使い方も含めて～」

2025 年 11 月 25 日（Web）金沢市医師会循環器談話会

荻尾七臣：「JSH 高血圧管理治療ガイドライン 2025 の改定ポイントと血圧朝活～エンレストの使い方も含めて～」

2025 年 11 月 26 日（自治医大）第 55 回下野循環器研究会

新保昌久：開会の辞

桂田健一：「腎デナベーション～治療抵抗性高血圧への適応と心不全、不整脈治療への展望～」

清水勇人：一般演題座長

水野裕之：「大学病院から地域病院へ転院した重症心不全患者に対する包括的アプローチ」

加倉井俊也：「ICU/CCU 統合後の他科との連携」

荻尾七臣：閉会の辞

2025 年 11 月 27 日 (Web) Topics in Heart Failure Treatment

原田顕治：座長

2025 年 11 月 28 日 (Web) 南埼玉郡市医師会学術講演会

～明日から役立つ高血圧診療～

苅尾七臣：「JSH 高血圧管理治療ガイドライン 2025 の改定ポイントと血圧朝活～エンレストの使い方も含めて～」

2025 年 11 月 28 日 (宇都宮) Heart Recovery Institute in 栃木

－Post DanGer Shock 時代の AMI-CS 治療戦略－

大場祐輔：特別講演座長

小古山由佳子：コメンテーター

齋藤俊祐：コメンテーター

2025 年 11 月 29 日 (京都) 第 37 回血圧管理研究会

藤原健史：「家庭血圧測定を用いた季節性高血圧の再現性と室内温度変化の影響」

2025 年 12 月 4 日 (宇都宮/Web) Guideline Webinar

小森孝洋：講演 I 座長、

講演 II 「心不全の治療戦略～心不全診療ガイドライン 2025 のポイントと自施設の取り組み～」

2025 年 12 月 5 日 (Web) 第 3 回希少疾患連携セミナー

～ファブリー病編 脳・心・腎の最適なフォローについて～

苅尾七臣：特別講演座長

石山裕介：症例報告「当院におけるファブリー病関連臓器障害のフォローアップ」

2025 年 12 月 6 日 (福岡) 第 18 回九州心不全診断フォーラム

苅尾七臣：「バイオマーカーをガイドにした高血圧診療から心不全抑制へ」

2025 年 12 月 9 日 (Web) Physiology EKIDEN～10 年間のエビデンス 走り続ける iFR～

大場祐輔：コメンテーター

小林久也：症例報告

2025 年 12 月 15 日 (Web) Medtronic PFA Web Conference

上岡正志：コメンテーター「PulseSelect™の可能性」

2025 年 12 月 16 日 (Web) FARAPULSE NEW HORIZONS

～PFA の最適治療戦略を考える～

渡部智紀：「PFA の治療価値とは？～初回 PVI から Redo にわたる実践～」

2025 年 12 月 16 日 (Web) HOCM Cross Talk Seminar

原田顕治：講演①「～HOCM 診療のパラダイムシフト～心エコー診断のピットフォールとマバカムテン治療の実際」、講演②座長

2025 年 12 月 18 日 (宇都宮/Web) BeeAT Tochigi Ablation Seminar

渡邊裕昭：コメンテーター「～PFA 時代における JLL 製品の真価に迫る～」

(C) 著書・総説

1. 藤原健史，苅尾七臣：高血圧：カルシウム拮抗薬．腎と透析 2025 年 99 巻増刊号：腎疾患治療薬 フロントライン
2. 藤原健史 (Systematic Review (SR) 委員)：【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
3. 星出聡 (作成委員会，執筆委員)：【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
4. 星出聡 (作成委員)：【高血圧診療ステップアップー改訂第 2 版ー】
5. 星出聡：本態性低血圧．日本医事新報 5283:40-41, 2025.
6. 星出聡：腎デナベーション．腎と透析 98 (4):521-524, 2025.
7. 伊豆津宏二，今井靖，桑名正隆，寺田智祐(監修)：今日の治療薬 解説と便覧 2025. 南江堂 (書籍)
8. 大平実佳，今井靖：学び直す糖尿病・内分泌の薬理学 臨床における薬物動態(解

説). 糖尿病・内分泌プラクティス 3 巻 3 号 2025-0038

9. 須藤俊明, 栗原伸悦, 加藤誠一, 本田泰斗, 大島香菜, 釜井聡子, 田中亮太,
今井靖: 抗凝固薬療法中の服薬アドヒアランス調査. 臨床薬理 56 巻 2 号 81-87
10. 今井靖: 心臓血管疾患の遺伝学的検査と遺伝カウンセリング: 2024 年日本循環器
学会ガイドラインから 総論 ガイドライン改訂の趣旨. 遺伝子医学 15 巻 2 号
14-19
11. 今井靖: 【不整脈診療学-最新の診断・治療動向-】不整脈各論 徐脈性不整脈 洞不
全症候群(解説). 日本臨床 83 巻増刊 I 不整脈診療学 275-278
12. 今井靖: 【成人先天性心疾患-各国のガイドラインに学ぶ】中等症先天性心疾患の
診断・治療 マルファン症候群. 医学のあゆみ 293 巻 5 号 394-398
13. 甲谷友幸 (執筆委員): 【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
14. 甲谷友幸 (作成委員): 【高血圧診療ステップアップ-改訂第 2 版-】
15. 甲谷友幸: もう「不定愁訴」なんて言わない! ~他科に学ぶ更年期外来診療のポイント~. 産科と婦人科 92:965-970, 2025.
16. 荻尾七臣: 本態性高血圧症. 日本医事新報 5294:39-41, 2025.
17. 荻尾七臣: 特集 高血圧学を再考する 日本高血圧学会のこれからに期待してくだ
さい 早朝高血圧徹底制圧プロジェクトの展開. Heart View29(7):32-37, 2025.
18. 荻尾七臣: 低血圧症. 今日の診断指針第 9 版: 834-835, 2025
19. 荻尾七臣: 冬の寝室、温度は 22℃に 血圧は 130 未満をめざす. 発見上手
55:10-11, 2025.
20. 荻尾七臣: からだと病気の ABC 第 38 回寒い季節に多発するヒートショックを防

ぐには，暮らしの手帖 39：132-137, 2025.

21. 荻尾七臣，佐藤智英：血圧異常．疾患と看護 循環器：156-168, 2025.
22. 荻尾七臣，原田紀子，堀内由布子：治療別食事療法 高血圧．最新の栄養管理と食事指導第 154 巻・特別号（2）：177-180, 2025.
23. 桂田健一（Systematic Review (SR) 委員）：【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
24. 桂田健一：高血圧診療チーム．【高血圧診療ステップアップー改訂第 2 版ー】：346-349.
25. 鶴垣伸也，久保田香菜，甲谷友幸，今井靖，河田政明：妊娠後期に急性肺水腫を来した小児期 AVSD に対する左側房室弁置換術後の女性に出産後再弁置換術を施行した経験．日本成人先天性心疾患学会雑誌 14 巻 2 号 28-32
26. 桑原政成（執筆委員，Systematic Review (SR) 委員）：【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
27. 桑原政成（作成委員）：【高血圧診療ステップアップー改訂第 2 版ー】
28. 桑原政成：2. 循環器救急の症候学（1）心停止，5. 急性冠症候群の初期評価・治療（3）心筋梗塞の機械的合併症，4. 心不全のインターベンション（2）心筋生検．【All in one！循環器救急・集中治療】
29. 牧元久樹：3 章生理学的検査 心電図検査．検査と技術 2025 年 8 月増大号 53(8):876-879, 2025.
30. Elisabeth Belt, Ludolf von Rueden, Hisaki Makimoto, Juergen Zerth: Die Bedeutung von integrierten personenzentrierten Care Pathways und kuenstlicher Intelligenz: Anwendungsbeispiel Kardiologie und organisationsoekonomische Implikationen. :【Kuenstliche Intelligenz im Einsatz fuer die erfolgreiche Patientenreise】:563-580, 2025.

31. **成田圭佑**(Systematic Review (SR) 委員)：【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
32. **大場祐輔**：4. 心不全のインターベンション (3)大動脈弁狭窄症における心臓カテーテル検査, (4)経皮的動脈弁形成術 (PTAV) . 【All in one ! 循環器救急・集中治療】
33. **小古山由佳子**(Systematic Review (SR) 委員)：【高血圧管理・治療ガイドライン 2025】
34. **清水勇人**：4. ショックの初期評価・治療 (3)心タンポナーデ・心嚢穿刺. 【All in one ! 循環器救急・集中治療】：55-59.
35. **和地純佳, 原田顕治**：3. 循環器救急の初期評価・検査 (8)経食道エコー. 【All in one ! 循環器救急・集中治療】

◆「医学雑誌編集」◆

◇荻尾七臣

- ・ Hypertension Research, JAPAN (Official Journal of Japanese Society of Hypertension) : Editor-in-Chief
- ・ Pulse, Asia : Associate Editor
- ・ Circulation Journal, JAPAN (Official Journal of Japanese Society of Circulation) : Associate Editor
- ・ Journal of Clinical Hypertension, USA : Associate Editor
- ・ Expert Review of Cardiovascular Therapy. UK : Editorial Board
- ・ Blood Pressure Monitoring, USA : Editorial Board
- ・ American Journal of Hypertension, USA : Editorial Board
- ・ Journal of Human Hypertension, UK : Editorial Board
- ・ Cardiology Research, CANADA : Editorial Board
- ・ Heart and Vessels, JAPAN : Editorial Board
- ・ International Heart Journal, JAPAN : Editorial Board
- ・ Current Hypertension Reports, USA : Editorial Board
- ・ Clinical Hypertension, KOREA : Editorial Board

- ・ Cardiology Discovery, CHINA : Editorial Board
- ・ JACC Asia, ASIA : Section Editor
- ・ Clinical Research in Cardiology , DEU : Editorial Board

◇今井 靖

- ・ Hypertension Research, JAPAN : Associate Editor
- ・ Journal of Cardiology Cases, JAPAN : Editorial Board
- ・ 今日の臨床サポート (Elsevier) : 総合編集委員

◇星出 聡

- ・ Blood Pressure Monitoring, USA : Editor-in-Chief
- ・ Hypertension Research, JAPAN : Managing Editor
- ・ American Journal of Hypertension, USA : Editorial Board
- ・ Journal Clinical of Hypertension, CHINA : Editorial Board

◇甲谷友幸

- ・ Hypertension Research, JAPAN : Editorial Board

◇桂田健一

- ・ Hypertension Research, JAPAN : Editorial Board
- ・ Frontiers in Physiology Integrative Physiology, USA : Editorial Board

◇富谷奈穂子

- ・ Hypertension Research, JAPAN : Editorial Board

◇成田圭佑

- ・ Hypertension Research, JAPAN : Editorial Board

◇牧元久樹

- ・ Hypertension Research, JAPAN : AI/Machine Learning Editors

◇鐘江 宏

- ・ Hypertension Research, JAPAN : Statistical Editor

◆「テレビ放送等」◆

●苅尾七臣

- ・2025 年 10 月 トチペ 自治医大脳卒中・心臓病出張市民公開講座 in 県北 心臓病「明日からできる心臓病のリスクの下げ方」
- ・2025 年 10 月 4 日（土）読売新聞夕刊 3 面 高血圧の治療 学会が新指針
- ・2025 年 12 月 30 日（火）朝日新聞 21 面 こっそり読みたい血圧の話＜前編＞冬の脳卒中や心筋梗塞、防ぐには
- ・2025 年 12 月 31 日（水）朝日新聞 21 面 こっそり読みたい血圧の話＜後編＞行動につなげる指針へ
- ・2025 年 9 月 1 日（月） 午前 6:00 総合
NHKニュース おはよう日本/ここに注目 「目指せ 130 未満」 高血圧対策の新しいめやす 吉川美恵子 解説委員
- ・2025 年 9 月 24 日（水）午後 0:50 E テレ
視点・論点/血圧 130/80 未満を目指して
- ・2025 年 10 月 6 日（月）午後 8:30 E テレ
きょうの健康/高血圧の新常識 最新ガイドラインから 「血圧は自分で測る！」
- ・2025 年 10 月 7 日（火）午後 8:30 E テレ
きょうの健康高血圧の新常識 最新ガイドラインから 「食事は減塩+カリウム！」
- ・2025 年 10 月 8 日（水）午後 8:30 E テレ
きょうの健康/高血圧の新常識 最新ガイドラインから 「薬は自分に合うものを！」
- ・2025 年 10 月 9 日（木）午後 8:30 E テレ
きょうの健康/高血圧の新常識 最新ガイドラインから 「運動は有酸素&軽い筋トレ！」
- ・2025 年 10 月 9 日（木）午後 7:30 総合
あしたが変わるトリセツショー/脳・血管いきいき!超シンプル「血圧」ケア術

●小森孝洋

- ・WCD channel 当施設での WCD 使用状況
https://www.ak-zoll.com/medical/life_vest/wcd_channel/000531.html

(D)その他

<受賞>

1)横田彩子：心電学関連春季大会 2025 ベストアブストラクト賞

「心血管リスクを有する患者における自動解析された広いP波幅と心血管イベントとの関連」

2) 藤原健史：ESC Congress 2025 together with World Congress of Cardiology Madrid. The ESC Council on Hypertension awards.

「Home blood pressure control status altered the cardiovascular prognosis associated with left ventricular hypertrophy in a Japanese nationwide general practice population: The J-HOP Study.」

3) 成田圭佑：国際医学研究振興財団海外研究助成（2024年4月-2026年3月）

「家庭血圧と自由行動下血圧を用いた個別最適化高血圧診療アプローチの確立」

4) 佐藤雅史：ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション Young Investigator Award 受賞

「I + II群 PH 合併重症 DMR に肺血管拡張薬先行後 MitraClip を施行した1例」

<研究助成>

苅尾七臣

1) 2023-2025 年度 厚生労働科学研究費補助金：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「多彩な自然災害発災時における循環器病発症・再発予防に資する注意喚起ツールの開発」（研究分担者）

2) 2023-2027 年度 戦略的イノベーション創造プログラム（第3期）：統合型ヘルスケアシステムの構築「A-2 臨床情報プラットフォームを活用した PHR による突然死防止・見守りサービス」（研究分担者）

星出 聡

1) 2022-2026 年度 科学研究費助成事業（基盤研究C）「血圧遠隔モニタリング管理システムを用いた震災被災者の心血管リスク低減に関する研究」（研究代表者）

船山 大

1) 2024-2028 年度 科学研究費助成事業（基盤研究 C）「生化学的及び形態学アプローチによる冠動脈石灰化病変の解析」（研究代表者）

甲谷友幸

1) 2024-2028 年度 科学研究費助成事業（基盤研究 C）「クラウド送信型家庭血圧計を用いた高血圧患者の無症候性心房細動の早期発見」（研究代表者）

小森孝洋

1) 2025-2028 年度 科学研究費助成事業（基盤研究 C）「収縮力の保たれた心不全に対する家庭血圧管理が心臓血管のスティッフネスに及ぼす効果」（研究代表者）

桂田健一

1) 2024-2027 年度 科学研究費助成事業（基盤研究 C）「視床下部一腎神経連関を標的とした肥満糖尿病における高血圧治療戦略」（研究代表者）

2) 2025 年度 先進医薬研究振興財団循環医学分野一般研究助成「視床下部一腎神経連関を標的とした肥満糖尿病における高血圧治療戦略」（研究代表者）

上岡正志

1) 2024-2026 年度 科学研究費助成事業（基盤研究 C）「貫壁性リモデリング状態に基づいた左房後壁隔離の有効性を期待し得る患者選別法の確立」（研究代表者）

大場祐輔

1) 2023-2026 年度 文部科学省科学研究費助成金（若手研究）「石灰化冠動脈病変に対する PCI 後の血管反応機序解明および予後予測因子の探索」

藤原健史

1) 2019-2025 年度 科学研究費助成事業（若手研究）「夜間家庭血圧変動性の増大と臓器障害・心血管イベントとの関連」（研究代表者）

2) 2025 年度 一般財団法人日本健康増進財団令和 7 年度生活習慣病予防等に関する研究助成金「季節性血圧変動と気温感受性高血圧の実態解明：テレモニタリングを活用した長期観察研究」

成田圭佑

1) 2022-2025 年度 科学研究費補助事業（若手研究）「新規マルチセンサー自由行動下血圧脈波計を用いた心不全スクリーニング法の探索」

藤村研太

1) 2025-2027 年度 科学研究費補助事業（若手研究）「神経系への介入による心筋障害治療効果の検討とその機序の解明」（研究代表者）

富谷奈穂子

1) 2025-2027 年度 科学研究費補助事業（若手研究）「新規リスク指標「actisensitivity」の臨床的意義の検討とその臨床応用」（研究代表者）

<教室内カンファレンス>

カンファレンス・教授回診：水 8:00～14:00

(Clinical Update Conference, Clinical Report Conference)

Online も利用したハイブリッド開催（水 12:30～13:15）

- | | |
|----------|--|
| 1 月 8 日 | 年頭のご挨拶(苅尾教授) |
| 1 月 15 日 | 薬剤説明(レパーサ)/第 26 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会参加報告 藤村研太先生 |
| 1 月 22 日 | 薬剤説明(ジャディアンス錠)/VT アブレーションの講義
渡邊裕昭先生 |
| 1 月 29 日 | 日循 第 275 回関東甲信越地方会予演(2/8)
木下真緒先生、小淵雄大先生、土屋享規先生、学生 |
| 2 月 5 日 | 休会 |
| 2 月 12 日 | 薬剤説明(グーフイス錠)/抄読会 渡辺直生先生 |
| 2 月 19 日 | 薬剤説明(ベリキューボ錠)/抄読会 平田悠翔先生 |
| 2 月 26 日 | MitraClip6 例のまとめ 佐藤雅史先生
抄読会 安部加那子先生 |
| 3 月 5 日 | 薬剤説明(ツイミーグ錠)/抄読会 小淵雄大先生、土屋享規先生 |
| 3 月 12 日 | 第 89 回日本循環器学会学術集会予演/送別会 |
| 3 月 19 日 | 第 89 回日本循環器学会学術集会予演 |

3月26日	休会
4月2日	休会
4月9日	新年度ご挨拶(荏尾教授)/医局歓迎会
4月16日	薬剤説明(カムザイオス) 非心臓手術における合併心疾患の評価と管理について 小古山由佳子先生
4月23日	薬剤説明(ウゴービ皮下注)/留学報告会 小林久也先生
4月30日	第89回日本循環器学会学術集会報告会 甲谷友幸先生、上岡正志先生 藤原健史先生
5月7日	薬剤説明(ビヨントラ錠)/留学報告会 齋藤俊祐先生
5月14日	第65回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会報告会(5/10) 平田悠翔先生/EuroPCR 予演 佐藤雅史先生
5月21日	商品説明(ホルター心電計 ePatch)/第98回超音波医学会学術集会予演(WEB) 水野裕之先生
5月28日	休会
6月4日	日循第276回関東甲信越地方会予演(6/14) J2 納富那菜先生、 J2 廣池英紀先生
6月11日	日循第276回関東甲信越地方会予演(6/14) M5 住茜音さん/ 日本内科学会地方会予演 J2 島田達弥先生/ 循環器内科 まるごと相談会
6月18日	第54回下野循環器研究会(教育研究棟2階大教室5)
6月25日	商品説明(AI解析を搭載した心電計 FCP-9900Ai) ガイドライン解説「心移植」 齋藤俊祐先生
7月2日	ガイドライン解説「先天性」 今井靖先生
7月9日	薬剤説明(フォシーガ錠)/CVIT2025 予演 鈴木規泰先生
7月16日	休会
7月23日	薬剤説明(アムヴトラ) ガイドライン解説「心不全」 加倉井俊也先生、和地純佳先生
7月30日	学位審査会予演 渡邊裕昭先生
7月31日	第14回 TIJ Network Meeting(Web)
8月6日～	休会(～9/3)
9月10日	日循第277回関東甲信越地方会予演(9/13) J2 丹羽薫那先生
9月17日	薬剤説明(ゼップバウンド)/ガイドライン解説「高血圧」

	苅尾教授
9月24日	CPAP療法について ESC参加報告会 藤原先生、齋藤先生、鈴木(規)先生
10月1日	薬剤説明(クービビック錠) 第66回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越 地方会予演(10/11) 岩間春佳先生
10月8日	薬剤説明(リプレガル) 第29回日本心不全学会学術集会予演 小森孝洋先生 第37回日本超音波医学会関東地方会参加報告 和地純佳先生
10月15日	薬剤説明(レクビオ)/ ガイドライン解説「肺高血圧」 久保田香菜先生
10月22日	薬剤説明(リベルサス錠) 第47回日本高血圧学会総会参加報告会 藤原健史先生他
10月29日	薬剤説明(エヴキーザ) /AHA 予演 牧元久樹先生
11月5日	休会
11月12日	休会
11月19日	卒業生の現状報告と在校生との集い～先輩からのメッセージ～三重 48期 高橋慧先生(J1)、福井 47期 本馬直喜先生 (J2)
11月26日	薬剤説明(ジャディアンス錠)/丸山涼太先生ご挨拶 AHA参加報告会 朝日先生、岩間先生、栗原先生、 永蔭先生、弓田先生 第55回下野循環器研究会(教育研究棟2階大教室5)
12月3日	第71回日本不整脈心電学会学術大会参加報告会 福田太郎先生、弓田馨之先生
12月10日	薬剤説明(ネクセトール錠)/ 学位審査予演会(Web) 脇広昂先生
12月17日	薬剤説明(ビヨントラ錠)/ 日循第278回関東甲信越地方会予演(12/20) J2 光山千智先生
12月24日	休会

<合同カンファレンス>2025-2026

月～金 9:00～ **心カテカンファ**

(循環器内科・看護師・臨床工学技士・診療放射線技師)

月 17:00～ **心不全多職種カンファ**

(循環器内科・看護師・理学療法士・臨床心理士・栄養士・薬剤師・保健師)

月 17:30～ **不整脈カンファ**

(循環器内科・臨床工学技士)

火 16:00～ **SDH ハートチームカンファ**

(循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・看護師・臨床工学技士・診療放射線技師)

火 18:00～ **血管カンファ**

(循環器内科・心臓血管外科・)

水 18:00～ **成人先天性心疾患カンファ**

(循環器内科・小児先天性心臓血管外科・小児科)

木 7:45～ **カルディアックカンファ**

(循環器内科・心臓血管外科・小児科)

不定期 **ブレインハートミーティング**

(循環器内科・神経内科・小児科)

6. 学生教育



M1 早期体験実習

2025 年 6 月 4 日 「外来付き添い実習」

興梠貴英、渡部智紀、桂田健一

M1 生命科学 I

2025 年 5 月 19 日 演習「超音波、心エコー〔物理〕」 小形幸代

M1 生命科学 2

2025 年 10 月 2 日 演習「血圧と心音〔物理〕」 甲谷友幸

M2 基礎臨床系統講義「循環」(30 コマ)

	月日	曜	時間	授業項目	担当者	所属
1	10月29日	水	4	循環器疾患の症状と徴候	苅尾七臣	循環器内科
2	10月29日	水	5	循環器疾患の基礎知識(心臓)	甲谷友幸	循環器内科
3	11月4日	火	2	検査法の基本:心電図(1)	上岡正志	循環器内科
4	11月5日	水	1	検査法の基本	石山裕介	循環器内科
5	11月7日	金	2	心不全(1)	小森孝洋	循環器内科
6	11月7日	金	3	心不全(2)	小森孝洋	循環器内科
7	11月11日	火	1	循環動態と身体所見のとり方	清水勇人	循環器内科
8	11月11日	火	2	肺血栓塞栓症・肺高血圧症	清水勇人	循環器内科
9	11月12日	水	1	血管構造・生理とアテローム動脈硬化 (リスク因子を含む)	新保昌久	循環器内科
10	11月12日	水	2	大動脈疾患(急性大動脈解離・大動脈瘤・高血圧性大動脈疾患)、末梢動脈疾患(病態・内科的治療)	新保昌久	循環器内科
11	11月14日	金	1	弁膜疾患(1)(大動脈弁・三尖弁・肺動脈弁)	小形幸代	循環器内科
12	11月14日	金	2	弁膜疾患(2)(僧帽弁・連合弁)	小形幸代	循環器内科
13	11月18日	火	1	検査法の基本:心電図(2)	上岡正志	循環器内科
14	11月20日	木	2	先天性心疾患各論(1)	佐藤智幸	小児科
15	11月20日	木	3	先天性心疾患各論(2)	佐藤智幸	小児科
16	11月27日	木	1	本態性高血圧・合併症・治療	苅尾七臣	循環器内科
17	11月27日	木	5	先天性心疾患の診断・疫学 総論	関 満	小児科
18	12月1日	月	1	不整脈(1)	甲谷友幸	循環器内科
19	12月2日	火	3	不整脈(2)	渡部智紀	循環器内科
20	12月3日	水	1	心筋疾患(心筋症・心筋炎)	原田顕治	循環器内科
21	12月3日	水	2	感染性心内膜炎・心臓腫瘍・心膜疾患	原田顕治	循環器内科
22	12月4日	木	2	虚血性心疾患(1)(虚血の病態生理・狭心症)	大場祐輔	循環器内科
23	12月4日	木	3	虚血性心疾患(2)(心臓カテーテル検査・治療)	大場祐輔	循環器内科
24	12月5日	金	2	虚血性心疾患(3)(急性冠症候群の病態生理と診断・治療)	藤田英雄	さいたま医療センター 循環器内科
25	12月8日	月	1	二次性高血圧	星出 聡	循環器内科
26	12月8日	月	2	循環器疾患の治療薬	星出 聡	循環器内科
27	12月9日	火	2	血管外科(大動脈・末梢動脈・静脈疾患)	大木伸一	心臓血管外科
28	1月8日	木	1	心臓血管外科(後天性心疾患)	川入宏次	心臓血管外科
29	1月9日	金	2	心臓血管外科(先天性心疾患)	岡 徳彦	子ども医療センター
30	1月16日	金	3	循環器疾患のまとめ	苅尾七臣	循環器内科

M2 基礎臨床系統講義「循環」試験（監督）

2026 年 1 月 30 日 藤原健史、永瀧貴樹

3 月 10 日 藤原健史

M3 総合診断学 2（症候学）

2025 年 10 月 1 日 診療の基本「動悸」「胸痛」 新保昌久

M3 診断学実習 I

2026 年 1 月 28 日 心電図：甲谷友幸（責任者）、加倉井俊也

1 月 28 日 バイタル：星出 聡（責任者）、平田悠翔、永瀧貴樹

2 月 4 日 手洗い実習：齋藤俊祐

M3 臨床実習 OSCE 評価者

2026 年 2 月 14 日 バイタル：星出 聡（責任者）、鈴木悠介、（小林久也）

胸部：甲谷先生（責任者）、渡部智紀、奥山貴文

医療面接：横田彩子

救急：上岡正志

マイルストーン面談（6 月、12 月）

M3 苅尾七臣

M4 渡部智紀

M4 診断学実習 2

2025 年 4 月 18 日 総合診察：藤原健史

4 月 25 日 心音から読み解く：大場祐輔（メディア授業）

M4 臨床検査医学

2025 年 4 月 11 日 「循環機能検査」 松村貴由

M4 必修 BSL 2025 年 5 月～2026 年 3 月（2 週間×16 クール）

2025 年	4 年生 BSL 第2クール 予定表（16 班）	
	AM	PM
2025/5/26	7:45(集合)-9:00 初診 渡部（本館北棟5F 循環器内科 BSL 学生控え室）	10:30-11:30 心電図各論 甲谷（病棟6F カンファ室）
5/27	火	① 10:00- アプレーション見学（新館南棟3F カフェ）※メディアNo.25 ② 11:00- 心臓カテーテル検査見学（新館南棟3F カフェ）※メディアNo.30
5/28	水	8:00- Complex Case Conference 9:00- チャートラウンド（新館プレゼン-病棟6F カンファ室）苅尾 13:50(集合)-トレッドミル見学 森原（本館1F 生理機能検査室） 15:30-16:20 循環器病態の病態プロセス 星出（本館5F セミナー室）
5/29	木	① 10:00- 心臓カテーテル検査見学（新館南棟3F カフェ）※メディアNo.30 ② 11:00- アプレーション見学（新館南棟3F カフェ）※メディアNo.25
5/30	金	10:00-11:00 循環器病態大場（鈴木）（新館南棟） 13:30- 学生カルテ check 森原（病棟6F カンファ室） 16:30- 高齢者画像
6/2	月	9:30-10:30 心エコー実習 原田（Gミールラウンジ 6F "Medium"）※メディアNo.7 ② 11:00- アプレーション見学（新館南棟3F カフェ）※メディアNo.25
6/3	火	10:00-11:30 中間 check（症例プレゼン）新保（病棟6F カンファ室） 14:00-15:00 バイタル評価と身体診察-聴診 森原（本館5F セミナー室）
6/4	水	8:00- Complex Case Conference 9:00- チャートラウンド（新館プレゼン-病棟6F カンファ室）苅尾 15:00-16:00 心不全 石山（病棟6F カンファ室）
6/5	木	
6/6	金	9:00- 最終試験 苅尾（本館5F セミナー室） 16:30- 高齢者画像

M4 BSL 連絡協議会担当

藤原健史（毎月1回）

M4・M5 マイルストーン評価

小形幸代、桂田健一、横田彩子

M4～5 選択セミナー

不整脈モーニングセミナー 甲谷友幸（通年）

M4～6 選択セミナー

一枚の心電図から診断・治療を学ぶ 今井 靖（通年）

M5 臨床講義

2025年9月26日 基礎臨床統合講義②-I 荻尾七臣

M5 選択必修BSL 2026年1月～4月（3クール）

M5選択必修BSL 第1クール 1/6（火）～1/30（金）					
1週目	2週目	3週目	4週目	病棟チーム	
心カテ・アブレーション	救急・コンサルト	心エコー・初診/外来・その他	CCU	A	大場 小形
心エコー・初診/外来・その他	CCU	心カテ・アブレーション	救急・コンサルト		
CCU	心カテ・アブレーション	救急・コンサルト	心エコー・初診/外来・その他		
CCU	心エコー・初診/外来・その他	救急・コンサルト	心カテ・アブレーション	B	奥山 桂田
救急・コンサルト	心カテ・アブレーション	心エコー・初診/外来・その他	CCU		
心カテ・アブレーション	心エコー・初診/外来・その他	CCU	救急・コンサルト		
救急・コンサルト	CCU	心カテ・アブレーション	心エコー・初診/外来・その他		

M5 内科学講座 総括講義

M5 内科学総括講義予定表					
部門名 循環器内科学部門			2025年度		
月 日	時 限	症候論	症例提示	主 題	担当教員
2026年				①失神	
3月2日(月)	1時限	○症候論	症例提示	②めまい	苅尾
	8:30～				
3月2日(月)	2時限	○症候論	症例提示	①息切れ	新保
	9:55～			②ショック	
3月2日(月)	3時限	症候論	○症例提示	不整脈	甲谷
	11:20～				
3月4日(水)	4時限	○症候論	症例提示	①動悸	星出
	13:40～			②心悸亢進	
3月4日(水)	5時限	○症候論	症例提示	①胸痛	清水
	15:05～			②背部痛	
3月5日(木)	6時限	症候論	○症例提示	虚血性心疾患	大場
	16:30～				
3月9日(月)	3時限	症候論	○症例提示	高血圧	苅尾
	11:20～				
3月10日(火)	1時限	症候論	○症例提示	①心筋症	小形
	8:30～			②心膜疾患	
3月10日(火)	2時限	症候論	○症例提示	①大動脈瘤	新保
	9:55～			②大動脈解離	
				③末梢動脈疾患	
3月11日(水)	1時限	症候論	○症例提示	心不全	小森
	8:30～				
3月11日(水)	2時限	症候論	○症例提示	心臓弁膜症	原田
	9:55～				
3月11日(水)	3時限	症候論	○症例提示	①感染性心内膜炎	原田
	11:20～			②心膜炎	
				③心タンポナーデ	

M6 PCC OSCE

2025 年 7 月 5 日 上岡正志、横田彩子、藤原健史

M6 臨床検査医学

2025 年 9 月 3 日 「生体検査Ⅰ（循環器）」 小形幸代

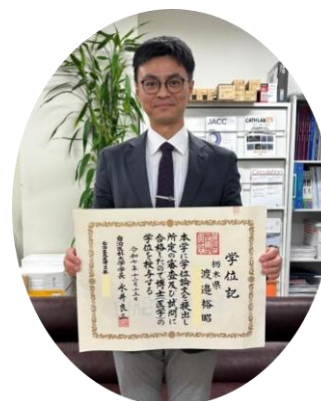
M6 総合判定試験 試験監督

2025 年 12 月 17 日 藤原健史、福田太郎

7. 博士課程修了報告

「高血圧患者における心臓バイオマーカーで 規定される肥満の悪性表現型の予後」

渡邊 裕昭



この度、学位記(博士乙種)を頂くことができましたので、ここに謹んでご報告申し上げます。

私は当教室に入局させていただいたのち不整脈学に興味をもち、以降現在に至るまでカテーテルアブレーションや心臓デバイス植込みといった不整脈診療に従事し、不整脈でお困りの患者さんに少しでも力になれるよう日々の診療に邁進して参りました。日常にありふれた不整脈のひとつに心房細動があり、今やそれに対するカテーテルアブレーション全盛期であっても100%心房細動を根治できません。どうすれば心房細動は治るのか、同じ心房細動であっても良性・悪性があるのか、という疑問に端を発して、今回の学位論文の参考論文となる「肥満に伴う心房細動は予後不良」ということを当教室のデータを用いて発表させていただきました。そしてさらに今回の学位論文ではその「肥満」に注目し、肥満の中でも将来心血管イベントを起こしやすい・起こしにくい集団があることがわかりました。心臓バイオマーカーに注目したところ、特にhs-cTnT上昇のある肥満は予後不良であることが判明し、その集団を「悪性肥満：malignant obesity」と位置付けました。今回の学位論文を通して、目の前の心房細動や肥満の患者さんの将来の予後を見据えた際に、改めて肥満などを是正すべく生活習慣病や生活習慣のマネジメントが重要であることを学びました。またそれは常日頃の日常診療で実装可能なことであり、そのような意味でも今回の学位論文は大変意義のあるものだと思います。

最後に、私の手帳のとある月をみると、外勤と外来日以外、毎日カテーテルアブレーション…という予定の月がありました。これだけ日常臨床が多忙であるなか、なんとか学位記を授与いただけたのは多くの先生方のおかげだと思っています。学位論文の参考論文作成にあたり、お忙しい中温かくご指導いただきました甲谷友幸先生に深く感謝申し上げます。また何よりも研究全体において根気強く最後の最後まで熱心にご指導いただきました星出聡教授、苅尾七臣教授には心から感謝申し上げます。

8. 2025論文・症例報告

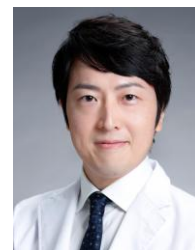


論文

Infective Rupture of Caseous Calcification of the Mitral Annulus Resulting in Fatal Systemic Embolism.

Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2025 Jan 2;jeae336.

doi: 10.1093/ehjci/jeae336.



Hiroyuki Mizuno/水野 裕之

【概要・コメント】

乾酪様僧帽弁輪石灰化(CCMA)が感染性心内膜炎によって破壊され、飛散したCCMAにより全身性塞栓症と多臓器不全を発症した症例です。初回の経食道心エコーでは、CCMAの表面に疣贅の付着を認め、CCMAは2つに割れていました。CCMAの切除術を早期に行う予定でしたが、術前に急性心筋梗塞を発症しました。冠動脈の責任病変から血栓吸引カテーテルで回収した塞栓子は、組織学的に結節性の石灰化と繊維性物質であり、細菌は検出されませんでした。これは、塞栓子が飛散したCCMAであることを示す結果でした。2回目の経食道心エコーでは、CCMAは崩壊し、一部しか残存していませんでした。この症例報告は、CCMAの感染性破裂によって致命的な全身性塞栓症が引き起こされることを、崩壊前後のCCMAの経食道心エコー画像と、塞栓子の組織診断を用いて証明した、世界初の症例報告です。

症例報告

Pulmonary vein stenosis requiring angioplasty or surgical treatment following pulmonary vein isolation: case series

Eur Heart J Case Rep. 2025 Feb 25;9(3):ytaf101.

doi: 10.1093/ehjcr/ytaf101. eCollection 2025 Mar.



Haruka Iwama/岩間 春佳

【概要】

肺静脈狭窄は肺静脈隔離術後の合併症として稀ではあるが発症した際には侵襲度の高い治療を要する重篤な病態である。当院で直近に経験した3症例は①複数回の高周波治療、②1回の高出力短時間焼灼セッティングでの高周波治療、③クライオバルーン治療→高周波治療、という異なる治療歴を持っており、治療としても肺静脈ステント治療または外科的肺葉切除を行っている。その多岐に渡る症候性、病態、治療へのアプローチは肺静脈狭窄を理解する一助になると考える。

【コメント】

当院で経験した3症例は肺静脈狭窄に至る治療歴や患者背景、症状の有無、治療選択肢がそれぞれ異なっており肺静脈狭窄という病態の認識と理解、対応について多くの知見

を得させて頂きました。アブレーションに関わっていなくとも肺静脈隔離術が一般化した治療となった現在では外来において遭遇する可能性もある病態であり肺静脈狭窄を気づくきっかけになればと思います。

症例報告

“Aquarium Sign” Observed in All Four Cardiac Chambers During Mechanical Ventilation in a Heart Failure Patient

Circ J. 2025 May 23;89(6):846.

doi:10.1253/circj.CJ-25-0125



Kenji Harada/原田 顕治

【概要】

Hepatic portal venous gas は腸管壊死などの際に認める稀な病態であり、心エコー検査時に右心系にマイクロバブルの所見を呈することがある (Aquarium Sign)。重症心不全患者の人工呼吸管理中に両心腔に aquarium sign を認めた稀な症例を経験した。PEEP⇒PFO を介した機序が考察された。

【コメント】

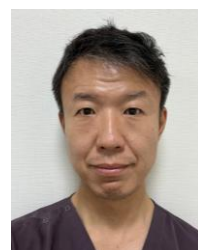
“Aquarium Sign” を認めたら直ちに腹部造影 CT を施行しましょう！

論文

One-Week Postoperative Valvuloarterial Impedance as a Predictor of Left Ventricular Hypertrophy Regression 1 Year After Surgical Aortic Valve Replacement in Patients with Aortic Stenosis.

Circ Rep. 2025 Apr 11;7(6):473-480.

doi: 10.1253/circrep.CR-24-0158. eCollection 2025 Jun 10.



Hirotaka Waki/脇 広昂

【概要】

SAVR 術後の AS 患者の術後 1 年後の左室肥大の改善と、術後 1 週間の Zva の関係を調査した。術後 1 週間の Zva は、PPM を含む従来の術後人工弁評価のエコーパラメータを上回る左室肥大残存との関連を示した。

【コメント】

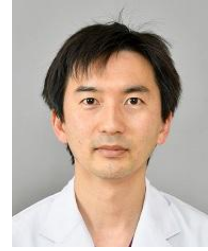
大動脈弁狭窄症の重症度や術後の血行動態の評価は通常大動脈弁位の評価で行われますが、左室にかかる総後負荷という違った観点から考えると新たな発見があります。

論文

Valve-in-Valve TAVR for Degenerated Surgical Valves in Patients With Small Aortic Annuli: A Report From a Japanese Nationwide Registry

Circ Cardiovasc Interv. 2025 May 20:e015087.

doi: 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.124.015087.



Yusuke Oba/大場 祐輔

【概要】

小さい大動脈弁輪を有する日本人患者に対する ViV-TAVR は、PPM のリスク増加と関連するが、短期・中期の臨床転帰に差は認められなかった。

【コメント】

体格の小さな日本人においても、ViV-TAVR は安全に行えることを全国データで示しました。

症例報告

Late Sinus of Valsalva Sequestration after TAVI Causing Acute Coronary Syndrome

J Transcatheter Valve Ther. 2025 Apr 7(1):47-48.

doi: 10.33290/jtvt.if.25-0007



Noriyasu Suzuki/鈴木 規泰

【概要】

84 歳女性。Severe AS に対す TAVI (Evolut Pro+ 26mm) を施行され、非心臓手術のため抗血小板薬の休薬後に NSTEMI を発症した。STJ が小さくかつ冠動脈高が低い症例であり、TAVI 弁の tissue wrap の位置関係から Valsalva Sequestration を来たしていた。ごく小さな血栓により ACS を来とし、Chimney technique を用いて PCI を施行した。

【コメント】

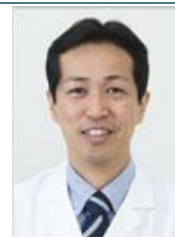
本症例は解剖学的な問題と TAVI 弁の留置位置の問題により Valsalva Sequestration を来たしていた。TAVI 弁の留置深度の重要性と、Chimney technique を用いた治療の有用性を報告した。

症例報告

Isolated Cleft of the Posterior Mitral Valve Leaflet With Papillary Muscle Abnormalities.

Circ Rep. 2025 Apr 26;7(7):582-583.

doi: 10.1253/circrep.CR-25-0027. eCollection 2025 Jul 10.



Kenji Harada/原田 顕治

異常乳頭筋を有した孤立性僧帽弁後尖クレフトの一例

【概要】

経胸壁心エコー図検査で重症僧帽弁逆流を認めた症例。3D-経食道心エコー図検査で、逆流の原因として僧帽弁後尖に大きなクレフトが明瞭に描出された。さらに異常乳頭筋も観察された。外科的治療が施行され異常乳頭筋からクレフトを跨ぐような腱索の支配を認めた。

【コメント】

従来診断が困難であった僧帽弁クレフトの正確な診断に、3D-TEE は威力を発揮する。

症例報告

Pathologic Evidence of Granulomatosis With Polyangiitis as a Cause of Atrioventricular Block.

JACC Case Rep. 2025 Jul 30;30(21):104414.

DOI: 10.1016/j.jaccas.2025.104414



Naoki Watanabe/渡辺 直生

多発血管性肉芽腫症に伴う房室ブロックを病理学的に証明した一例

【概要】

多発血管性肉芽腫症の心臓合併症として房室ブロックは報告されているが、稀であり病理学的にその関係性は証明されていない。本症例は特発性間欠性房室ブロックの診断でペースメーカー植え込み術を待機している中、敗血症で死亡した。生前から ANCA 関連血管炎として治療を受けていたが、病理解剖で房室結節に浸潤する肉芽腫を認め、多発血管性肉芽腫症に伴う房室ブロックであったと病理学的に診断された。

【コメント】

多発血管性肉芽腫症は房室ブロックを合併することは稀であるが、その原因となりうることが証明された。

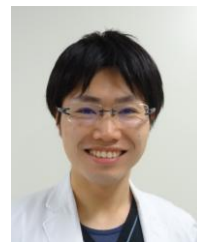
論文

Impact of diagnosis-to-ablation time on rhythm outcome after catheter ablation for paroxysmal versus non-paroxysmal atrial fibrillation

Int J Cardiol. 2025 Nov 15;439:133667.

doi: 10.1016/j.ijcard.2025.133667. Epub 2025 Jul 23.

発作性および非発作性心房細動における診断からアブレーションまでの時間がリズム転帰に与える影響



Takafumi Okuyama/奥山 貴文

【概要】

本研究は、診断からアブレーションまでの時間（Diagnosis-to-ablation time: DAT）が心房細動（AF）アブレーション後の再発に与える影響を、発作性 AF と非発作性 AF で比較検討した。2018 年から 2022 年に初回アブレーションを施行した 619 例を対象とし、中央値 1038 日の追跡で 165 例に再発を認めた。DAT が長い患者では再発率が有意に高く、Cox 回帰分析でも DAT > 1 年は独立した再発予測因子であり、非発作性 AF で影響がより顕著であった。

【コメント】

本研究は、AF において「診断からアブレーションまでの時間（DAT）」が治療成績に直結する重要因子であることを明らかにした点に意義がある。特に非発作性 AF では DAT の影響がより大きく、早期アブレーション介入の必要性を強く支持する結果である。

症例報告

Ruptured Caseous Calcification of the Mitral Annulus With Left Ventricular-Left Atrial Fistula Formation Causing Hemolytic Anemia.

Echocardiography. 2025 Aug;42(8):e70265

DOI: 10.1111/echo.70265

破裂性乾酪性僧帽弁輪石灰化により生じた左室-左房瘻により溶血性貧血をきたした一例



Ayano Kurihara/栗原 綾乃

【概要】

血液透析を施行中の患者が、透析困難および溶血性貧血を主訴として入院した。経胸壁心エコー図検査により、高度の僧帽弁逆流および僧帽弁後尖に位置する破裂性乾酪性僧帽弁輪石灰化（caseous calcification of the mitral annulus: CCMA）が認められた。さらに、経食道心エコー図検査にて、破裂した CCMA 部に左心室-左心房間瘻孔を認め、これが溶血性貧血の原因と考えられた。患者は外科的治療を希望せず、保存的治療が選択された。

【コメント】

CCMA の合併症としては、これまでに塞栓症や僧帽弁膜症などが報告されているが、本症例は、CCMA が溶血性貧血の原因となり得ることを示した初めての報告である。

症例報告

[Enhancement of posterior mitral leaflet imaging quality during the MitraClip procedure using one-lung ventilation.](#)

Cardiovasc Interv Ther. 2025 Oct;40(4):1027-1028.

doi: 10.1007/s12928-025-01138-1. Epub 2025 May 17.



MitraClip 手技における片肺換気により僧帽弁後尖が明瞭に描出できた一例

Masafumi Sato/佐藤 雅史

【概要】

MitraClip 手技において、術中経食道心エコーは重要な役割を担っており、特に僧帽弁の描出は手術の成否に大きな影響を与える。本症例では後尖の描出に極めて困難を伴ったが、左主気管支をブロックした右片肺換気法を用いることにより後尖が明瞭に描出された。確実なクリップ手技が遂行できた。

【コメント】

今後もハートチームが各自の専門性を発揮しながら連携を図り、安全で確実な手技の継続に寄与していきたいと考える。

9. 1年を振り返って



2025 年 4 月 13 日 派遣復帰・新入局歓迎会

4 月 9 日、新たな仲間、戻ってきた仲間が加わり歓迎会が行われました。

<新入局>

福田 太郎先生、懸 侑子先生、相馬 瞬先生

<派遣復帰>

須田 直樹先生（佐野厚生総合病院）

加倉井 俊也先生（とちぎメディカルセンターしもつが）

<留学復帰>

齋藤 俊祐先生（大阪大学）

小林 久也先生（岐阜ハートセンター）

新たな気持ちで今年度も頑張っていきましょう！



2025 年 5 月 13 日 第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会

5 月 10 日開催の第 65 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会において

清水先生のご指導のもと、平田先生が発表されました。

これにより、平田先生は CVIT 認定医の条件を満たすことができました。

清水先生にはご多忙の中、丁寧なご指導を賜り誠にありがとうございました。

今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



2025 年 6 月 16 日 新入局員勧誘の医局説明会

6 月 11 日に次年度の新入局員勧誘の医局説明会を行いました。

教授・医局長を始め、病棟医長や若手の先生方など、それぞれの立場から見た当科の紹介をしました。

13 名の初期研修医の先生方が参加してくださいました。

来年度多くの先生方と一緒にお仕事できればと思います。医局説明会にご参加頂いた方、

プレゼンして頂いた先生方、ありがとうございました。



2025 年 6 月 24 日 第 54 回下野循環器研究会

6 月 18 日に第 54 回下野循環器研究会が開催され、53 名もの多くの先生方にご参加頂きました。

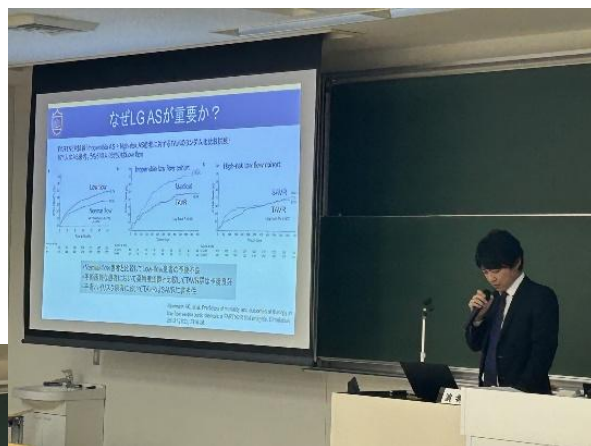
基調講演として、新小山市市民病院の西村芳興先生に座長を頂き、小林久也先生より「大動脈弁狭窄症を合併した心不全患者の診断、治療を再考する」、一般演題として甲谷友幸先生に座長を頂き、とちぎメディカルセンターしもつがへ派遣中の三玉唯由季先生より「高齢末期心不全患者の終末期医療における問題点について ～安らかな最期の為に我々が出来ること～」、



渡邊裕昭先生より「リード抜去の実際」のテーマでご発表頂きました。

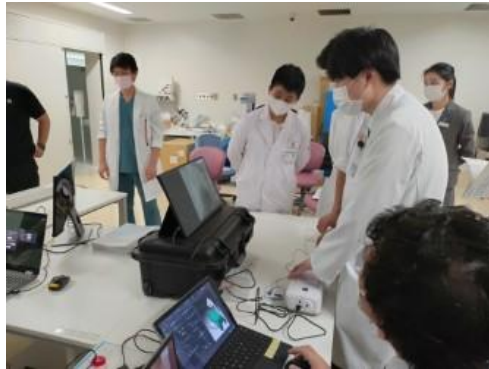
より良い心不全診療に関して地域の先生方と今後の課題を共有し活発な議論ができました。県内唯一の実施施設であり、これまでも多くの患者様をご紹介頂いてきたデバイスのリード抜去術の詳細についてもお伝えでき、循環器地域医療の更なる発展を目指す非常に有意義な会となりました。

ご参加頂きました先生方、ご発表ならびに座長をして頂きました先生方、お忙しい中誠にありがとうございました。



2025 年 8 月 1 日 自治医科大学附属病院夏季セミナー

7 月 19・20 日に自治医科大学附属病院夏季セミナーが開催されました。循環器内科は経カテーテル大動脈弁置換術のシミュレーターを用いたコースを開催しました。9 名の学生に参加いただき、TAVI 弁留置を体験してもらいました。この中から我々の仲間として、未来の TAVI のインプランターが誕生することを期待します。



2025 年 9 月 1 日 光山千智先生入局挨拶

新しい仲間が増えました。初期研修医 2 年目の光山千智（こうやまちさと）先生です。医局会でご挨拶いただきました。新たな「パワー」をもらい、万歳も後光がさして見えます。



2025 年 10 月 14 日 第 66 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会

10 月 11 日に開催された第 66 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会にて、岩間春佳先生が下記演題を発表されました。

演題名「DOAC 中和が契機となった急性心筋梗塞に対する治療経験」

本演題では、DOAC 中和薬アンデキサネット投与を契機に急性心筋梗塞を発症した症例を提示し、中和療法に伴う血栓イベントリスクへの臨床的注意点について報告しました。

会場でも多くの関心を集め、質疑も活発に行われました。

岩間先生、大変お疲れ様でした。



2025 年 11 月 4 日 島田達弥先生入局挨拶

新しい仲間が増えました。初期研修医 2 年目の島田達弥（しまだたつや）先生です。医局会でご挨拶いただきました。

島田先生、これからもよろしくお願いします！医局員みんなで力を合わせて頑張っていきましょう。



2025 年 11 月 20 日 AHA Scientific Session 2025

11 月 8 日～10 日にかけて、アメリカ ニューオーリンズにて AHA Scientific Session 2025 が開催されました。

今年はコロンビア大学へ留学中の成田先生と S2 の先生方 5 名（朝日先生・岩間先生・栗原先生・永島先生・弓田先生）が参加し、現地で当科研究成果の発表に加え、国際学会で見聞を深めてきました。

今後も最新の知見と共に診療を継続して参ります。



2025 年 11 月 30 日 丸山涼太先生入局挨拶

年末にうれしいお知らせです。

現在日本海総合病院で初期臨床研修中(J2)の丸山涼太先生が次年度当科に入局を決められました。

11 月 26 日の医局会にて WEB でご挨拶いただきました。

自治医大循環器内科，一丸となってますます頑張ります！



2025 年 11 月 30 日 第 55 回下野循環器研究会

11 月 26 日第 55 回下野循環器研究会が開催されました。

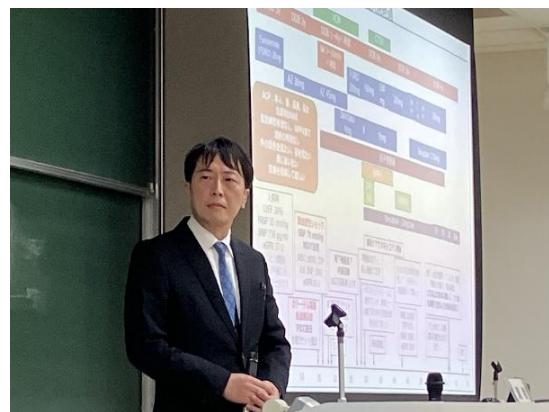
基調講演として、桂田健一先生より腎デナベーション（腎交感神経除神経術）の治療抵抗性高血圧への臨床および腎交感神経に関する生理学と基礎研究の知見に関してご講演を頂きました。

一般演題として、茨城県西部メディカルセンターに派遣中の水野裕之先生より当科で入院診療後に転院された重症心不全患者さんにハートチーム介入にて多面的な心不全診療を实践頂いた一例のご講演を、加倉井俊也先生より当院が本年度から ICU・CCU が新病棟へ移転・増床した上に、両者が統合して運用されるようになったこともあり、ICU・CCU・複数診療科で連携を密にし、救命に成功した重症患者の一例を交えて当院での循環器集中治療に関してご講演を頂きました。

当科での腎デナベーションへの取り組み、当院および関連病院との心不全治療の連携、ICU・CCU での高度な集中治療の実践に関して、地域の先生方にご紹介でき活発な議論ができました。

ご参加頂きました先生方、ご発表ならびに座長をして頂きました先生方、お忙しい中、誠にありがとうございました。

今後も循環器地域医療の更なる発展を目指して参ります。



2025 年 12 月 9 日 ストラクチャークラブ・ジャパン Live Demonstration 2025

12 月 5・6 日に開催されたストラクチャークラブ・ジャパン Live Demonstration 2025 にて当科 佐藤雅史先生が Young Investigator Award (M-TEER 症例) を受賞されました。

日頃の丁寧な診療と誠実な姿勢が評価された素晴らしい受賞だと思います。

佐藤先生、本当におめでとうございます！
今後の更なるご活躍を期待しております。



2025 年 12 月 17 日 渡邊裕昭先生学位取得

渡邊裕昭先生が、この度めでたく学位を取得されました！誠におめでとうございます。
日々のたゆまぬ努力の賜物と存じます。

今後も先生のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

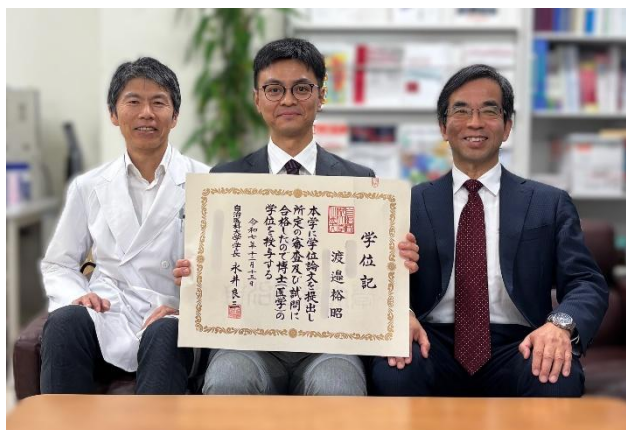
学位論文：

「高血圧患者における心臓バイオマーカーで規定される肥満の悪性表現型の予後」

ご本人のコメント：

この度、拙稿「高血圧患者における心臓バイオマーカーで規定される肥満の悪性表現型の予後」にて、論文博士を取得いたしました。

これもひとえに紹介教員である荻尾七臣先生による温かなご指導の賜物と深く感謝申し上げます。また、主要論文の作成にあたり星出聡先生、参考論文の作成にあたり甲谷友幸先生には多大なるご尽力を賜りましたことも重ねて感謝申し上げます。今後も臨床、研究ともに邁進していく所存です。誠にありがとうございました。



2026 年 3 月 30 日 令和 7 年度壮行会・送別会

3 月 25 日に壮行会・送別会を行いました。

＜御退職＞奥山先生

＜派遣＞

藤村先生・栗原先生（西部メディカルセンター）

朝日先生・永島先生（とちぎメディカルセンターしもつが）

弓田先生（佐野厚生総合病院）

奥山貴文先生は不整脈チームに所属され、豊富な知識と技量で多くのカテーテルアブレーション手技や研究に携わり、病棟でもチームリーダーとして中心になって診療に従事していただきました。これまで当科のために力を尽くして下さい、誠にありがとうございました。

派遣に向かわれる先生方は、それぞれの地域の中核病院での循環器診療、地域医療の力を担っていただける有望な先生たちです。

奥山先生、派遣に出られる先生方の新天地でのご活躍を心より祈念申し上げます。

